令和３年度

浜松市文化財年報

令和３年度の文化財保護・活用事業の要点
第１部　文化財年報
　第１章　文化財保護事業報告
　第２章　市内指定文化財等の動向
　　１　新指定の文化財
　　（１）絹本着色南渓瑞聞像　永禄十三年の自賛がある
　　２　新登録の文化財
　　（１）高林家住宅馬小屋ほか
　　３　文化財の主な整備・保存修復事業
　　４　文化財の継承事業
　　５　浜松地域遺産の認定

第２部　埋蔵文化財調査報告
　第１章　埋蔵文化財調査の概要
　第２章　本発掘調査概要
　第３章　試掘・確認・立会等調査報告
　第４章　詳細報告
　　１　中屋遺跡 15・16・17・19 次調査報告
　　２　別所前遺跡 7 次調査報告
　　３　芝本遺跡 32 次調査報告
　　４　浜松城跡 41・42 次調査報告

2023

浜松市教育委員会

例　　言

1　本書は、浜松市教育委員会（市民部文化財課が補助執行）が令和３（2021）年度に実施した市内における文化財調査や保護事業等の報告集である。

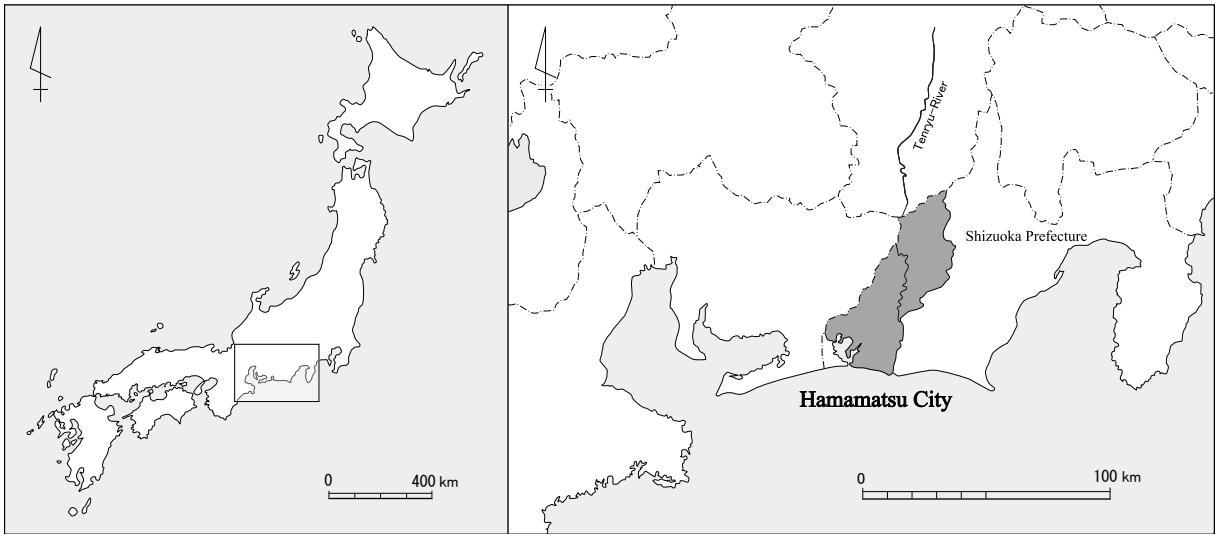
2　第１部の文化財年報では、令和３（2021）年度に実施した市内文化財の保護、活用事業等について報告しており、第１章には、市内文化財の保護事業報告、第２章には、新たに指定された文化財の概要、文化財の主な整備・保存修復事業や継承事業の概要、新たに認定された浜松地域遺産の一覧を掲載している。

第２部の埋蔵文化財調査報告では、令和３（2021）年度に実施した埋蔵文化財調査について報告しており、第１章には、埋蔵文化財調査の概要及び一覧、第２章には、本発掘調査の概要、第３章には、試掘・確認調査・工事立会いの報告、第４章には、小規模本発掘調査や重要な成果が得られた試掘・確認調査・工事立会いについて詳細な報告を掲載した。

3　試掘・確認調査は、国の補助金を得て実施した調査、市単独費で実施した調査、原因者負担で実施した調査があり、その全てを掲載した。

4　本書の編集は、岡本佳枝（浜松市市民部文化財課）が行い、内山範晃（同）、深見亜衣子（同）大石彩乃（同）が補佐した。執筆は浜松市市民部文化財課職員が分担して行い、第２部第４章のみ文責を文末に記した。

5　本書にかかわる遺跡の調査記録と出土遺物は、浜松市地域遺産センターで保管している。



浜松市の位置

令和３年度 浜松市文化財年報

目　次

例　言

令和３年度の文化財保存・活用事業の要点 …… 1

【第１部　文化財年報】
第１章　文化財保護事業報告 …… 5
第２章　市内指定文化財等の動向 …… 19
1 新指定の文化財 …… 19
2 新登録の文化財 …… 20
3 文化財の主な整備・保存修復事業 …… 24
4 文化財の継承事業 …… 35
5 浜松地域遺産の認定 …… 37

【第２部　埋蔵文化財調査報告】
第１章　埋蔵文化財調査の概要 …… 43
第２章　本発掘調査概要 …… 49
第３章　試掘・確認・立会等調査報告 …… 52
第４章　詳細報告 …… 91
1 中屋遺跡 15・16・17・19 次調査報告 …… 91
2 別所前遺跡 7 次調査報告 …… 99
3 芝本遺跡 32 次調査報告 …… 101
4 浜松城跡 41・42 次調査報告 …… 109

令和３年度の文化財保存・活用事業の要点

１　「With コロナ」に向けた事業展開

令和元　年度末から本市域でも本格的な拡大が確認されるようになった新型コロナウイルス感染症は、令和３年度においても依然として本市の文化財関連事業に影響を与えた。緊急事態宣言が発令されたこともあり、文化財関連事業も内容の見直しや中止（一部）を余儀なくされた。また、市内で開催されている祭礼や民俗芸能などの無形民俗文化財についても、引き続き、行事の中止や規模の縮小が強いられている。保存団体等の体力が脆弱な事例もあり、今後の行事の継続にも課題を残している。

このような状況下において、「オンライン」による事業実施にも取り組み、これからの文化財保存・活用を見据え、デジタル技術を積極的・効果的に取り入れる契機となった。

２　文化財に関する計画

本市では、令和元年度から２年度の２年間をかけて、「浜松市文化財保存活用地域計画」を作成した。この計画は、本市の文化財に関する総合計画に位置付けられるものであり、本市の文化財の特徴や保存と活用に関する課題をまとめ、今後の方針を示したものである。本計画は、令和３年７月 16 日に国の認定を受けた。

令和３年度は、個別文化財の保存活用計画や整備基本計画の作成も進めた。国史跡の蜆塚遺跡（中区）については、保存活用計画を策定した。この計画は、「調査研究」「保存」「活用」「整備」「運営体制」で構成され、周辺環境との調和をはかるとともに、遺跡の本質的な価値を将来にわたり確実に継承できるよう最大限留意し、適切な保存・管理を行うことなどを記載している。また、国史跡の二俣城跡及び鳥羽山城跡（天竜区）については、令和元年度に策定した保存活用計画に基づき、史跡の価値を顕在化させるための今後の整備の具体像を示すことを目的とした整備基本計画を策定した。

３　文化財の指定・認定の動き

令和３年度には、新たな県指定、市指定と国登録があった。県指定有形文化財（工芸品）として、「鰐口　至徳二年の陰刻銘あり」（中区、浜松市博物館所蔵、指定告示日は令和３年４月２　※平成 17 年５月 25 日市指定）が、市指定有形文化財（絵画）として、「絹本著色南渓瑞聞像　永禄十三年の自賛がある」（北区、宗教法人龍潭寺所蔵、指定告示日は令和４年３月 24 日）がそれぞれ新たに指定され、国登録有形文化財（建造物）として、「高林住宅馬小屋ほか」（東区、個人所有、登録日は令和３年 10 月 14 日）が新たに登録された。

平成 28 年度から開始した浜松市認定文化財制度（浜松地域遺産認定制度）は６年目を迎え、従来の指定文化財が少なかった地域を含めて積極的な推薦が得られ、制度の浸透とともに、市内各区

の文化財が再認識され始めている。令和３年度は新たに 90 件を認定し、認定文化財の総数は 545 件となった。令和３年度のトピックとしては、中区の大菊栽培技術が、初めて無形文化財（技、技能）に認定されたほか、中区の浜松凧の型紙と凧絵（浜松まつりに関連する初めての認定）や、西区や南区の近現代の産業遺産（のこぎり屋根の織布工場、旧鉄工場の鞴）などが認定された。

４　指定文化財の保護

令和３年度も市内の寺院が所有する文化財の保存修理が行われた。修理を実施した主要な文化財としては、鈴木家住宅主屋･釜屋（北区、国指定）、宝林寺木造二十四善神立像のうち日宮天子菩薩･月宮天子菩薩（北区、県指定）、秋葉神社神門（天竜区、市指定）などが挙げられる。

また、記念物については、摩訶耶寺庭園（北区、県指定）及び長楽寺庭園（北区、県指定名勝）の保存修理や、法橋の松（東区、県指定天然記念物）の保護事業を実施した。

５　埋蔵文化財の調査

令和３年度の開発行為に先立つ市内の遺跡照会の件数は 6,650 件を数えた（前年比 317 件、105％増）。開発に先立つ埋蔵文化財の手続きについては、文化財保護法 93 条の届出（民間開発）が 266 件（前年比 23 件減、92％）、同 94 条の通知（公共事業）が 32 件を数えた（前年比４件増、114％）。埋蔵文化財に関する手続きが着実に周知されていることがうかがえる。

注目できる発掘調査としては、元城小学校跡地で開始された浜松城跡の確認調査（43 次調査）が挙げられる。当該調査は、浜松城公園長期整備構想（主管:都市整備部緑政課）に伴うもので、令和元年度に開始した調査は 3 年目に入った。令和３年度の調査では二の丸御殿とみられる建物基礎を発見し、その詳細な構造が明らかになった。現地説明会は 12 月 25 日に実施し、470 人の参加を得た。

この他、民間開発に伴う本発掘調査では、恒武西宮遺跡（東区）において古墳時代と戦国時代を中心とした遺構や遺物が比較的良好な状態で確認された。

６　地域遺産センターの運営

本市の文化財の保存と活用の拠点施設である地域遺産センターは平成 29 年１月の開館から５年が経過し、活動も軌道に乗りつつある。指定文化財や認定文化財に関する情報公開を随時進めたほか、新たな指定文化財や発掘調査成果などをお知らせする速報展示をはじめ、地域の小中学校と連携した郷土学習に係る展示、若年層を中心に歴史や文化財への関心を促すための普及啓発事業「GW キッズイベント」･「夏休みキッズイベント　いいのや夏の陣」などを開催した。また、WEB サイトや SNS を活用し、情報発信にも努めた。

【第１部　文化財年報】

第１章　文化財保護事業報告

１　文化財の調査と顕彰

（１）浜松地域遺産の認定

地域での貴重な文化資源を指定文化財とは別の枠組みで「浜松地域遺産」として認定し顕彰することで、後世への保存継承と地域活性化への活用により、個性ある地域の創造への寄与を期待するもの。令和３年度は推薦 117 件のうち 90 件を認定した。区別及び分類別の認定数は右記のとおり。

※詳細は第２章（37 頁）に掲載。

※令和３年度認定の「浜松海岸の浜おり」は西区と南区に重複して計上。

区　別	
中区	4
東区	2
西区	6
南区	3
北区	23
浜北区	33
天竜区	20
重複	−1
合計	90

分類別	
建造物	9
美術工芸品	21
無形文化財	1
有形民俗文化財	25
無形民俗文化財	4
史跡	27
名勝	0
天然記念物	1
文化的景観	0
伝統的建造物群	0
近代化遺産	0
伝承地	0
伝統的生活文化	1
合計	90

本坂高札場跡（北区）
（令和３年度認定文化財）

西大山の初午祭（西区）
（令和３年度認定文化財）

（２）指定文化財等の現状調査

適切な保護事業の推進及び新たな文化財指定の検討材料とするため、下記の指定文化財及び指定文化財候補等について調査、情報収集を行った。

区　分	種　別	文化財の名称	所在地
国指定	建造物	方広寺七尊菩薩堂	北区引佐町奥山
市指定	建造物	秋葉神社神門	天竜区春野町奥領家
国登録	建造物	ヤマタケの蔵	天竜区二俣町二俣
国登録	建造物	旧田代家住宅	天竜区二俣町鹿島
国登録	建造物	高林家住宅	東区有玉南町
他市国指定	建造物	松城家住宅	焼津市
県指定	彫刻	能面鉢巻悪尉および能面父尉（防災）	北区三ヶ日町宇志
未指定	歴史資料	ジェームズ・ペイトン号遭難事件関係資料	南区福島町
未指定	歴史資料	浜松領境界石	南区増楽町・東区薬新町
国指定	無形民俗	川名のひよんどり	北区引佐町川名
国指定	無形民俗	寺野のひよんどり	北区引佐町渋川

国指定	無形民俗	懐山のおくない	天竜区懐山
国指定	無形民俗	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家
県指定	無形民俗	呉松の大念仏	西区庄内町
県指定	無形民俗	滝沢の放歌踊	北区滝沢町
県指定	無形民俗	滝沢おくない	北区滝沢町
県指定	無形民俗	川合花の舞	天竜区佐久間町川合
県指定	無形民俗	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩
市指定	無形民俗	遠州大念仏	中区鹿谷町ほか
市指定	無形民俗	勝坂神楽	天竜区春野町豊岡
市指定	無形民俗	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川
市指定	無形民俗	犬居つなん曳	天竜区春野町堀之内
未指定	無形民俗	水窪の念仏踊〈神原の虫送り〉	天竜区水窪町奥領家
未指定	無形民俗	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川
未指定	無形民俗	息神社の田遊祭	西区雄踏町宇布見
未指定	無形民俗	神澤のおくない	天竜区神沢
未指定	無形民俗	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町宇布見
国指定	史跡	光明山古墳	天竜区山東
国指定	史跡	二俣城跡及び鳥羽山城跡	天竜区二俣町二俣
市指定	史跡	入野古墳	西区入野町
市指定	史跡	浜松城跡	中区元城町
県指定	名勝	長楽寺庭園	北区細江町気賀
県指定	名勝	摩訶耶寺庭園	北区三ヶ日町摩訶耶
市指定	天然記念物	西気賀のマンサク群落	北区細江町気賀
市指定	天然記念物	白山神社のクス	浜北区根堅
未指定	天然記念物	雨生山湿地	北区三ヶ日町平山

浜松城跡

光明山古墳

２　文化財の保護と継承

（１）文化財保護審議会の開催

文化財保護法第 190 条第１項の規定に基づき設置する附属機関（浜松市文化財保護条例第 43 条）。教育委員会の諮問に応じて、浜松市内の文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、これらの事項に関して教育委員会に建議した。

審議会委員　任期：令和３年～５年の３箇年

氏　名	所属・役職等	備　考
片桐　弥生	静岡文化芸術大学文化政策学部教授	会　長　２期目
中谷　悟	静岡県文化財建造物監理士	副会長　２期目
荒川　章二	国立歴史民俗博物館特任教授、静岡大学名誉教授	１期目
金　明美	静岡大学情報学部教授	１期目
名倉　慎一郎	遠州常民文化談話会会長	１期目
新妻　淳子	静岡文化芸術大学デザイン学部准教授	２期目
西田　かほる	静岡文化芸術大学文化政策学部教授	２期目
藤下　章男	日本樹木医会	２期目
松本　一男	大日本報徳社　専務理事	１期目

審議会開催状況

回	開催日	内　容
第１回	令和３年８月６日	令和２年度の実績、令和３年度の事業計画、文化財関係計画の報告、浜松市文化財サポーター制度、今後の文化財行政の課題等
第２回	令和３年 12 月 10 日	指定等文化財、文化財関係事業の報告等
第３回	令和４年２月 18 日	文化財指定に係る諮問（絹本著色南渓瑞聞像　永禄十三年の自賛がある（指定））、浜松地域遺産（認定文化財）の意見聴取

（２）文化財の管理

文化財等の維持管理･整備　市内の文化財等の保存状態や見学の環境を整えるため、除草、清掃、設備の保守点検など日常的な維持管理を行ったほか、臨時的な修繕や整備等を実施した。主な事業は以下の通り。

区	実施状況
中区	追分一里塚（市史跡）及び住吉南古墳（市史跡）の除草及び清掃
東区	蛭子森古墳（市史跡）の除草及び清掃
南区	米津台場（市史跡）の除草及び清掃
西区	入野古墳（市史跡）の樹木伐採、火穴古墳（市史跡）、東大山一里塚（市史跡）及び東海道の松並木（市史跡）の除草及び清掃、中村家住宅（国有形）及び舞坂宿脇本陣（市有形）の修繕
北区	【細江町】滝峯才四郎谷銅鐸公園（県史跡）、伝堀川城跡（市史跡）、井伊直親の墓及び細江文化財倉庫の除草及び清掃 【引佐町】三岳城跡（国史跡）、渭伊神社境内遺跡（県史跡）、シブカワツツジ群落（県天然記念物）、北岡大塚古墳（市史跡）、馬場平古墳（市史跡）及び白山１号墳（市史跡）の除草及び清掃 【三ヶ日町】凌苔庵跡（市史跡）、本坂一里塚（市史跡）、宇志北大里遺跡（市史跡）、姫街道、千頭ヶ峯城跡（県史跡）及び西山古墳（市史跡）の除草及び清掃
浜北区	北浜の大カヤノキ（国天然記念物）の樹幹部治療・土壌改良、二本ヶ谷積石塚群（県史跡）の史跡公園維持管理、赤門上古墳（県史跡）・向野古墳（市史跡）等の除草及び清掃
天竜区	旧王子製紙製品倉庫（県有形）、ヒラシロ遺跡（市史跡）史跡公園の維持管理、高瀬のニッケイ（市天然記念物）の除草及び清掃、高根城跡（市史跡）除草及び修繕

現状変更等への対応　指定文化財及びその指定地内で行われる現状変更や所在地変更などの各種申請・届出等については、法令に基づき事務処理を行った。件数は以下のとおり。

区　分	種　別	内　容	件数	文化財名称（数の記載がないものは１件）
国指定	有形文化財	き損	1	寶林寺仏殿
		修理	1	寶林寺仏殿
		防災設備不具合報告	2	寶林寺仏殿・方丈、中村家住宅
	記念物	現状変更	9	光明山古墳×２、蜆塚遺跡×２、二俣城跡及び鳥羽山城跡×３、北浜の大カヤノキ、カモシカ
		滅失	14	カモシカ×14
県指定	有形文化財	現状変更	1	木造二十四善神立像(日宮天子菩薩・月宮天子菩薩)
		所在場所変更	2	鳥居松遺跡出土金銀装円頭大刀、銅鐸（前原遺跡出土）
		損傷	1	旧王子製紙製品倉庫
		修理	1	旧王子製紙製品倉庫
		所有者変更	1	能面父尉および能面鉢巻悪尉
	記念物	現状変更	18	法橋の松、竜山のホソバシャクナゲ群落、浦川のホソバシャクナゲ群落、摩訶耶寺庭園×２、長楽寺庭園×２、浜名湖×８、犬居城跡、赤門上古墳、滝峯才四郎谷遺跡
市指定	有形文化財	所在場所変更	8	出雲日記、七科約説、紙本墨書古今集仮名序抜書、紙本墨各和歌、紙本墨書植田七三郎宛書簡、賀茂真淵書簡集、袈裟襷文銅鐸　中川滝峯穴の谷出土、中村家文書
		所有者変更	2	中村家文書、古面　古面鬼神　古面乙　古面姥
		き損	1	実相寺伽藍のうち本堂及び観音堂
		修理	1	旧舞坂脇本陣
	記念物	現状変更	20	浜松城跡×９、姫街道の松並木×２、瑞雲院境内×２、東大山一里塚×２、追分一里塚、中村家屋敷地、浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地、妙相寺のイヌマキ、気賀陣屋跡の江戸シイ
国登録	有形文化財	き損	2	ヤマタケの蔵北の蔵

（３）文化財保存事業に対する補助金

文化財の管理者が修理や保護、維持管理等に必要とする費用について、国や県とともに補助金を交付したほか、国や民間の補助・助成制度の活用についても促した。

文化財の保存修理に対する補助金

区　分	種　別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	寶林寺仏殿建造物保存修理事業	宗教法人　寶林寺	44 千円
県指定	建造物	龍潭寺山門建造物保存修理事業	宗教法人　龍潭寺	437 千円
県指定	美術工芸品	日宮天子菩薩・月宮天子菩薩保存修理等事業	宗教法人　宝林寺	1,908 千円
市指定	建造物	秋葉神社神門保存修理事業	宗教法人 秋葉山本宮秋葉神社	30,000 千円
市指定	建造物	宝林寺報恩堂建造物保存修理事業	宗教法人　宝林寺	84 千円

秋葉神社神門保存修理見学会の様子

記念物の保護に対する補助金

区　分	種　別	事業名	交付先	市交付額
県指定	天然記念物	法橋の松天然記念物保護事業※	宗教法人　妙恩寺	536 千円
県指定	名勝	摩訶耶寺庭園保存修理等事業※	宗教法人　摩訶耶寺	1,342 千円
県指定	名勝	長楽寺庭園保存修理等事業	宗教法人　長楽寺	48 千円

※令和２年度繰越事業として令和３年度に実施

法橋の松　作業中全景（北から）

摩訶耶寺庭園　護岸石組修理の様子

文化財の管理事業に対する補助金

区　分	種　別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	寶林寺仏殿・方丈管理事業	宗教法人　寶林寺	310 千円
国指定	建造物	方広寺七尊菩薩堂管理事業	宗教法人　方広寺	12 千円
国指定	建造物	濱名惣社神明宮本殿管理事業	宗教法人　濱名惣社神明宮	30 千円
県指定	史跡	陣座ヶ谷古墳管理事業	陣座ヶ谷古墳管理	30 千円
県指定	名勝	実相寺庭園指定文化財管理事業	宗教法人　実相寺	22 千円
市指定	有形民俗	初生衣神社織殿管理事業	宗教法人　初生衣神社	30 千円
市指定	史跡	伝橘逸勢墓管理事業	本坂自治会	30 千円
市指定	史跡	伝井伊共保出生井管理事業	宗教法人　龍潭寺	30 千円

無形民俗文化財の保存伝承・活用に対する補助金

区　分	事業名	交付先	市交付額
国指定	西浦の田楽保存伝承・活用等事業	西浦田楽保存会	120 千円
国指定	川名のひよんどり保存伝承・活用等事業	川名ひよんどり保存会	70 千円
国指定	寺野のひよんどり保存伝承・活用等事業	寺野伝承保存会	70 千円
県指定	滝沢の放歌踊保存伝承・活用等事業	滝沢放歌踊保存会	70 千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	333 千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	70 千円
市指定	犬居つなん曳保存伝承・活用等事業	犬居自治会龍勢社	138 千円
市指定	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存伝承・活用等事業	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	70 千円

川名のひよんどり

妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講

国・民間からの補助金・助成金

補助・助成元の名称	事業名	補助・助成先	補助・助成額
国（文化芸術振興費補助金）	浜松市中山間地域の文化遺産活用推進事業	浜松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会	7,480 千円
一般財団法人伊豆屋伝八文化振興財団（文化財修理保存等助成事業）	日宮天子菩薩・月宮天子菩薩美術工芸品保存修理事業	宗教法人　宝林寺	300 千円
	龍潭寺山門建造物保存修理事業	宗教法人　龍潭寺	100 千円
	秋葉神社神門建造物保存修理事業	秋葉山本宮秋葉神社	300 千円
公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	秋葉神社神門建造物保存修理事業	秋葉山本宮秋葉神社	400 千円

（４）文化財保存活用地域計画の作成、国認定について

令和元年度から作成を進めてきた「浜松市文化財保存活用地域計画」の計画書及び申請書を文化庁に提出し、令和３年７月 16 日に国の文化審議会文化財分科会による答申を経て県内第１号となる国の認定計画となった。認定後には計画の周知のため、シンポジウムの開催、関係各所への通知や、地域計画の紹介動画を作成・公開した。

浜松市文化財保存活用地域計画（本編）

浜松市文化財保存活用地域計画（資料編）

国認定記念シンポジウム　「文化財の保存と活用がつむぐ歴史都市・浜松の未来」を開催し、YouTube によるライブ配信を行った。当初予定していた会場での観覧は新型コロナウィルス感染症拡大防止のため中止した。

開催日：９月 23 日（木・祝）13 時 00 分～ 16 時 30 分

会　場：浜松市地域情報センタ

内　容：基調講演、対談、パネルディスカッション

シンポジウム広報チラシ

シンポジウム「文化財の保尊と活用がつむぐ歴史都市・浜松の未来」

３　文化財等の公開

（１）文化財建造物　の公開

以下の文化財建造物を公開し、必要な維持管理等を実施した。

区　分	施設名	所在地	事業内容	入場者数
国指定有形文化財	鈴木家住宅	北区引佐町的場	燻蒸、消防設備保守点検、建造物保存修理工事等	280 人
国指定有形文化財	中村家住宅	西区雄踏町宇布見	警備、植栽管理、施設管理、施設修繕、土蔵修繕等	1,309 人
市指定有形文化財	舞坂宿脇本陣	西区舞阪町舞阪	警備、消防設備保守点検、施設管理、施設修繕等	3,563 人
国登録有形文化財	田代家住宅	天竜区二俣町鹿島	樹木管理、施設管理、施設修繕等	1,407 人

中村家住宅

舞坂宿脇本陣

（２）賀茂真淵記念館の運営

国学者賀茂真淵の業績及び関係資料を紹介するため、展示や講座等を開催した。なお、(一社)浜松史蹟調査顕彰会が指定管理者として施設の運営を行った。入館者数：6,159 人。

賀茂真淵記念館

同展示室

（３）内山真龍資料館の運営

国学者内山真龍の業績を紹介するため常設展３回を開催したほか、施設の維持管理、施設修繕等を行った。入館者数：848 人。

内山真龍資料館

同展示室

（４）浜松市地域遺産センターの運営

埋蔵文化財をはじめとする市内の文化財に関する保存・活用事業を行う施設である浜松市地域遺産センターの運営・管理、施設修繕等を行った。入館者数 4,341 人。

	令和３年度		令和２年度		前年比	
	入館者（人）	人/日	入館者（人）	人/日	入館者（人）	比率（人/日）
計	4,341	15	4,229	16	112	96%
累計	127,230					

浜松市地域遺産センター

同展示室

４　文化財の災害対策

（１）普及啓発

将来予想される災害に際して文化財救済に役立つ修復実技講座を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を見送った。

（２）その他の災害対策

文化財防火デー訓練　文化財防火デーである１月 26 日とその前後に重要文化財中村家住宅（西区雄踏町宇布見）等において消防訓練を実施した。

消防訓練の様子（中村家住宅）

消防訓練の様子（蜆塚遺跡）

５　地域と連携した文化財の保存と活用

（１）市指定天然記念物「アカウミガメ」の保護

遠州灘海岸でアカウミガメの保護に努めている特定非営利活動法人サンクチュアリエヌピーオーとの相互連携や業務委託によって、以下の事業を実施した。

保護監視と生態調査　指定区域内のアカウミガメ及びその産卵地の保護監視、生態及び産卵状況の調査等を行い、47 の産卵巣を確認し、3,040 個の卵を保護した。

親と子のウミガメ教室　文化財や自然保護への理解を深めるため、ウミガメ講座、海岸ウォッチング、早朝の産卵調査、子ガメの放流会等の教室を開催した。実施状況は右記のとおり。

開催日	大　人	子ども	合　計
7 月 10 日	63 人	62 人	125 人
8 月 7 日	57 人	59 人	116 人
8 月 22 日	※	※	※
合計	120 人	121 人	241 人

※第 3 回目（8 月 22 日）は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止。

ウミガメ教室の様子

（２）無形民俗文化財の活性化

市内各所で無形民俗文化財を伝承している各地域の保存団体の自主的な取組を支援することにより、民俗芸能の確実な伝承と地域の活性化を図った。

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会事務局の運営　各保存団体の相互連携や情報交換を図るために設置されている連絡会の事務局として運営補助・調整等を行った。

・理 事 会　令和３年５月 19 日（木）会場：引佐協働センター

・総　　会　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催

・公開事業　令和３年 11 月 27 日（日）会場：引佐多目的ホール（入場者数　136 人）

「遠江のひよんどりとおくないフォーラム」

参加団体

団体名称	文化財名称	所在地	指定区分
寺野伝承保存会	遠江のひよんどりとおくない（寺野のひよんどり）	北区引佐町渋川	国指定
川名ひよんどり保存会	遠江のひよんどりとおくない（川名のひよんどり）	北区引佐町川名	国指定
懐山おくない保存会	遠江のひよんどりとおくない（懐山のおくない）	天竜区懐山	国指定
西浦田楽保存会	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家	国指定
遠州大念仏呉松組	呉松の大念仏	西区呉松町	県指定
滝沢放歌踊り保存会	滝沢の放歌踊	北区滝沢町	県指定
横尾歌舞伎保存会	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩	県指定
川合花の舞保存会	川合花の舞	天竜区佐久間町川合	県指定
西浦の念仏踊保存会	西浦の念仏踊	天竜区水窪町西浦	県指定
遠州大念仏保存会	遠州大念仏	中区鹿谷町	市指定
妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川	市指定
犬居自治会	犬居つなん曳	天竜区春野町堀之内	市指定
勝坂神楽保存会	勝坂神楽	天竜区春野町豊岡	市指定
滝沢おくない保存会	滝沢のシシウチ行事	北区滝沢町	国選択
今田花の舞保存会	今田花の舞	天竜区佐久間町奥領家	県選択
神澤おくない継承同好会	神澤おくない	天竜区神沢	未指定
東久留女木地区	東久留女木のおくない	北区引佐町東久留女木	未指定
雄踏歌舞伎保存会万人講	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町宇布見	未指定
浦川歌舞伎保存会	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川	未指定
有玉神社流鏑馬神事保存会	有玉神社流鏑馬神事	東区有玉南町	未指定
雄踏息神社田遊祭	息神社の田遊祭	西区雄踏町宇布見	未指定

「遠江のひよんどりとおくないフォーラム」　令和２年度から協力していた、日本学術振興会科学研究費助成事業（C）研究（静岡文化芸術大学の西田かほる教授をはじめとした研究グループによる）の「遠江のひよんどりとおくない」に関する詞章等の古文書調査の成果発表を中心とした公開事業、「遠江のひよんどりとおくないフォーラム」の開催を支援した。フォーラムでは寺野ひよんどりが詞章の実演を行った。

広報チラシ

遠江のひよんどりとおくないフォーラムの様子

情報の発信　市内各所で継承されている無形民俗文化財の動向について、広く周知を図るため、年２回（11 月・３月）無形民俗文化財広報誌「山と里の民俗」（第 17 号･第 18 号）を発刊し、関係各所にて配布した。令和３年度は、浜松地域遺産に認定された「大安寺の酉の市」ほか３件や「神澤のおくない」の継承状況等について紹介した。発行部数：各 4,000 部

山と里の民俗第 17 号・18 号

次世代への継承　浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会への業務委託により、学校と地域の保存会との連携による次世代への継承事業（民俗芸能の体験等）を実施した。

文化財名称	学校・団体名	内　容
滝沢の放歌踊	都田小学校 都田中学校	滝沢の放歌踊について、歴史の学習、舞の所作や演奏の練習、楽器や道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を校内発表会で披露した。
浦川歌舞伎	浦川小学校	浦川歌舞伎について、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を本番や校内発表会で披露した。
雄踏歌舞伎	雄踏小学校　他	雄踏歌舞伎について、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行った。
川名のひよんどり	井伊谷小学校 浜松学院大学	川名のひよんどりについて、歴史の学習、所作や台詞の練習、道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を実際の祭礼で披露した。
寺野のひよんどり	引佐北部小中学校	それぞれの無形民俗文化財について、歴史の学習、所作や演奏の体験などを行った。
懐山のおくない	清竜中学校	
神澤のおくない	神澤おくない継承同好会 一般市民（社会人）	神澤のおくないについて、担い手及び指導者育成のため社会人を対象とした所作や演奏の練習・指導を行い、祭礼で実際に披露した。

次世代継承事業（浦川歌舞伎）

次世代継承事業（川名のひよんどり）

「地域伝統芸能大賞　支援賞」の受賞　多年にわたり、地域の民衆の生活の中で受け継がれ、当該地域固有の歴史、文化等を色濃く反映した地域伝統芸能等の活用を通じ、観光又は商工業の振興に顕著な貢献が認められる団体や個人を表彰することを目的に、平成５年に創設された「地域伝統芸能大賞」には、保存継承賞・活用賞・支援賞・地域振興賞の４部門があり、このうち衣装・用具等の製作・人材等の確保に係わる団体又は個人を対象とした支援賞の令和３年度受賞団体に横尾歌舞伎保存会床山衣装部が選定された。

受賞団体となった横尾歌舞伎保存会床山衣装部に対しては、令和３年 10 月に鹿児島県の鹿児島市・霧島市で開催を予定していた第 29 回地域伝統芸能全国大会において表彰式を執り行う予定とされていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年に続いて大会は開催中止となり、表彰式も令和４年度に延期となった。

（３）城跡等史跡の整備活用

古墳や城郭をはじめとする史跡等を歴史・文化資源、観光資源として有効に活用するため、調査研究を進めるとともに、国指定史跡二俣城跡及び鳥羽山城跡の整備基本計画の策定、国指定史跡光明山古墳の史跡指定地の公有化などを進めた。また、市指定史跡である浜松城跡については、昨年度に引き続き石垣調査を実施するとともに、保存活用計画の策定に着手した。

国史跡二俣城跡及び鳥羽山城跡　令和２年３月に文化庁から認定を受けた保存活用計画に基づき､城跡の整備内容の具体像を定める整備基本計画の策定を行った。策定作業を円滑に進めるため、有識者を集めた整備基本計画検討会を開催し、事務局と参加者による討議を行い整備基本計画書として取りまとめた。

二俣城跡及び鳥羽山城跡整備基本計画検討会名簿

分　野	氏　名	所属等
建築学	寒竹　伸一	静岡文化芸術大学副学長
考古学	北野　博司	東北芸術工科大学歴史遺産学科教授
城郭考古学	千田　嘉博	奈良大学文化財学科教授
遺跡整備・庭園史	高瀬　要一	琴ノ浦温山荘園理事長
地域史	坪井　俊三	元浜松市史編纂執筆委員・元市文化財保護審議会委員
公開活用	山下　治子	株式会社アム・プロモーション常務取締役・「ミュゼ」編集長
歴史地理学	山村　亜希	京都大学大学院人間・環境学研究科教授

※五十音順／所属等は令和３年４月現在

国史跡光明山古墳　史跡指定地の適切な保存と管理、今後の整備活用のため、令和２年度に古墳の墳丘本体部分の公有化を実施したことから、令和３年度より公有化部分の環境整備事業を行い、墳丘の維持管理に努めた。また、引き続き寄附による斜面地部分の公有化を進めた。

市史跡浜松城跡　城跡の石垣の安全対策を講じるとともに、適正な保存・活用を図るため、作成済みの石垣カルテに基づき、必要な箇所の詳細調査を実施した。また、城跡を適切に保存活用していくため、保存活用計画の策定に着手した。策定作業を円滑に進めるため、有識者を集めた保存活用検討会を開催し、事務局と参加者による討議を行った。

浜松城跡保存活用検討会名簿

分　野	氏　名	所属等
中世史	大石　泰史	大石プランニング主宰
考古学	北野　博司	東北芸術工科大学歴史遺産学科教授
社会学	笹原　　惠	静岡大学情報社会学科教授
城郭考古学	千田　嘉博	奈良大学文化財学科教授
都市・地域計画学	宗田　好史	京都府立大学生命環境科学研究科教授
歴史地理学	山村　亜希	京都大学大学院人間・環境学研究科教授

※五十音順／所属等は令和３年４月現在

史跡二俣城跡及び鳥羽山城跡整備基本計画

環境整備実施後の光明山古墳

６ 埋蔵文化財の保存と活用

（１）調整・管理

埋蔵文化財包蔵地に関する照会対応　開発事業者及び市役所内部等からの照会に対して対応した。

照会地	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区	全市合計
件数	1,810 件	1,204 件	950 件	900 件	688 件	904 件	194 件	6,650 件
前年度比	97%	101%	120%	100%	113%	116%	97%	105%

土木工事等への対応　埋蔵文化財包蔵地内において土木工事等の計画を有する事業者等との間で遺跡への適切な措置が図られるよう協議を行った。また、民間事業者から提出される文化財保護法第 93 条に基づく届出を受理し指示を行う（266 件、前年度比 92%）とともに、市役所の各部署から公共事業に伴い静岡県へ提出される同法第 94 条に基づく通知については、進達･副申･伝達を行った（32 件、前年度比 114%）。

埋蔵文化財包蔵地の管理　発掘調査等の結果、範囲等の変更を要する埋蔵文化財包蔵地については、静岡県教育委員会に内容変更を求める協議書を提出した（８件）。

出土遺物の管理　発掘調査等により遺物を発見した際には、発見地の所管警察署へ文化財保護法第 100 条に基づく文化財の発見通知書を提出した（29 件）。

（２）調査

遺跡の状況を把握するための試掘・確認調査や現地踏査、記録保存のための本発掘調査や工事立会い等を実施し、出土品や記録類の整理作業･報告書編集を行った。（調査の詳細は第２部を参照）。

（３）公開・活用

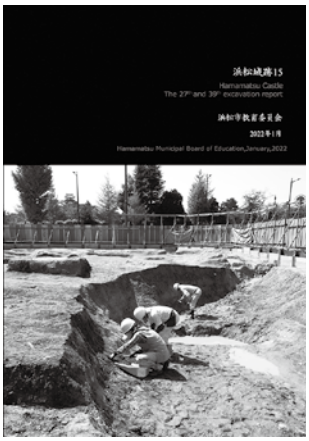
埋蔵文化財発掘調査における調査記録及び出土品は、北区引佐町井伊谷の浜松市地域遺産センターにおいて保管をしている。地域遺産センターにおいては、これらの発掘調査成果の公開と活用に努めており、刊行物の作成のほか、展示等を通じた公開、見学会や講座等の開催による成果説明を実施している。令和３年度中の地域遺産センター来館者数については前年度と比較してほぼ横ばいであり、直近２年は新型コロナ感染症拡大による影響を顕著に受けている。

整理作業の様子

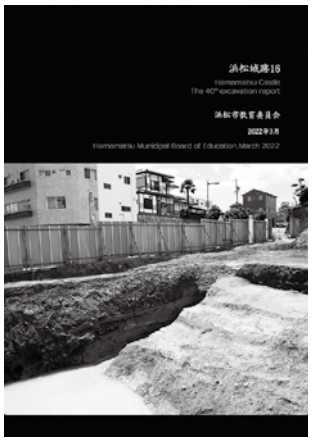
調査成果の整理と報告書等の刊行・公開　浜松城跡など開発事業に先立ち実施した発掘調査の成果をまとめた報告書を刊行した。報告書は市内及び全国の自治体、大学、研究機関、図書館等へ配布した。普及啓発用のパンフレット・リーフレット類は、地域遺産センター等に配架した他、講座や見学会等の際に参加者へ配布した。

また､奈良文化財研究所がインターネット上で報告書データを公開している「全国遺跡報告総覧」において、既刊の報告書等のＰＤＦデータを公開することに努めた。

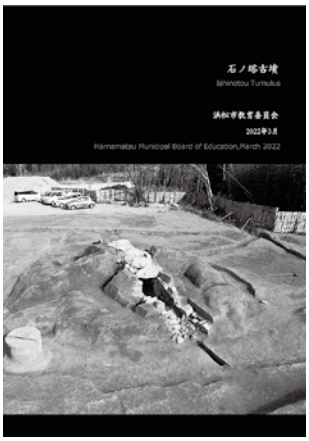
種　別	名　称	概要・趣旨
発掘調査報告書	浜松城跡 15	浜松城跡の 27・39 次発掘調査成果の報告
発掘調査報告書	浜松城跡 16	浜松城跡の 40 次発掘調査成果の報告
発掘調査報告書	石ノ塔古墳	石ノ塔古墳の３次発掘調査成果の報告
発掘調査概要報告書	浜松城跡 43 次調査の概要	浜松城跡 43 次発掘調査成果の概要を紹介
リーフレット	浜松城跡発掘通信 No．16	浜松城跡 35 次発掘調査の状況について紹介



浜松城跡 15



浜松城跡 16



石ノ塔古墳

展示会　地域遺産センターを中心に、考古資料を活用した展示会を開催したほか、地域の小中学校と連携し、郷土学習成果にかかわる展示会を実施した。

会　期	名　称	会　場	来場者数
6 月 19 日～8 月 29 日	企画展「はままつ文化財速報展2021」	地域遺産センター	1,513 人
1 月 29 日～2 月 27 日	コーナー展「こどもたちの郷土学習」	地域遺産センター	307 人
2 月 5 日～2 月 27 日	企画展「発掘された三ヶ日の古墳」	三ヶ日図書館	未計測

はままつ文化財速報展 2021

発掘された三ヶ日の古墳

見学会　発掘調査の現地説明会や文化財の見学会を実施して、調査成果の公開に努めた。

開催日	名　称	来場者数
7 月 11 日	伊場遺跡群を歩く	80 人
12 月 25 日	浜松城跡発掘調査現地説明会	470 人
3 月 5 日	もっと知りたい光明山古墳	110 人

もっと知りたい光明山古墳

講座・シンポジウム　主催・共催事業のほか、依頼を受けて担当者を講師として派遣した。

開催日	講座名称	講　師	会　場	参加者数
5 月 15 日	「高句麗前期の都城と古墳」と浜松	市担当者を派遣	浜北文化センター	78 人
5 月 17 日、12 月 13 日	フィールドワーク「浜松城」	市担当者を派遣	浜松城跡	19 人
5 月 29 日	浜松の銅鐸の謎を探る	市担当者を派遣	細江図書館	20 人
6 月 22 日	浜松城近年の話題	市担当者を派遣	地域情報センター	20 人
6 月 27 日	金銀かがやく円頭大刀の世界	市担当者	引佐協働センター	50 人

6 月 27 日	はままつ文化財速報展 2021 ギャラリートーク	市担当者	地域遺産センター	50 人
8 月 7 日	浜松城の最新調査成果	市担当者	引佐協働センター	40 人
10 月 21 日	第 43 回土地区画整理全国大会 「浜松城の歴史と都市形成の歩み」	市担当者を派遣	アクトシティ浜松 中ホール	リモート
12 月 11 日、12 日	浜松城プレミアム講座＆見学ツアー	市担当者を派遣	浜松城跡	120 人
12 月 23 日	浜松城と肴町の歴史	市担当者を派遣	肴町公会堂	25 人
2 月 16 日	三ヶ日の銅鐸	市担当者を派遣	三ヶ日協働センター	28 人
2 月 26 日	入野古墳とその周辺の文化財を巡る	市担当者を派遣	入野古墳ほか	20 人
3 月 12 日	神宿る島沖ノ島と浜松	市担当者を派遣	城北図書館	36 人
3 月 20 日	オンライン講座「浜松城」	市担当者を派遣	―	50 人

金銀かがやく円頭大刀の世界

速報展ギャラリートーク

イベント・ワークショップ　埋蔵文化財への興味・関心を促進するため普及啓発事業を開催した。

開催日	講座名称	概要・趣旨	参加者数
5 月 2 日	ＧＷキッズイベント	土器洗浄・接合体験、井伊谷城跡見学など	202 人
7 月 31 日～8 月 15 日	夏休み体験イベント「いいのや夏の陣」	考古学教室、土器文様ハンカチ作成、館内謎解き探検など	707 人

ＧＷキッズイベント

いいのや夏の陣

資料提供・熟覧等対応　保管する埋蔵文化財関係資料について、他館への貸出や調査研究に伴う熟覧等の対応を行った。

対応日	種　別	申請者	内　容
4 月 5 日	資料熟覧	個人	調査研究のため、有玉古窯ほかの調査成果を熟覧
8 月 13 日	資料熟覧	個人	調査研究のため、郷ヶ平古墳群ほかの調査成果を熟覧
8 月 24 日	画像提供	団体	刊行物掲載のため、二俣城跡の遺構写真を提供
9 月 7 日	画像・資料提供	出版社	刊行物掲載のため、石ノ塔古墳の発掘調査資料を提供
10 月 6 日	画像提供	映像制作会社	番組製作のため、二俣城跡・鳥羽山城跡の発掘調査資料を提供
3 月 11 日	資料提供	映像制作会社	番組製作のため、浜松城跡の変遷図を提供
3 月 17 日	資料熟覧	個人	調査研究のため、上野遺跡の調査成果を熟覧

第２章　市内指定文化財等の動向

１　新指定の文化財

（１）絹本著色南渓瑞聞像（けんぽんちゃくしょくなんけいずいもんぞう）

永禄（えいろく）十三年の自賛（じさん）がある

区　分　浜松市指定有形文化財

種　別　絵画

員　数　１幅

所有者　宗教法人　龍潭寺

所在地　浜松市北区引佐町井伊谷 1989 番地

年　代　永禄 13 年（1570）

指定日　令和４年３月 24 日

概　要

絹本著色、縦 96.2cm、横 53.5cm、軸装の絵画。南渓瑞聞（～ 1589）は、井伊直平の子とされ、黙宗に学び龍潭寺の二世となった僧。その南渓の姿を法被（はっぴ）をかけた曲録（きょくろく）に坐し、手に竹篦（しっぺい）を持つ姿に描く。画面上部に南渓の自賛があり、弟子の宗俊（後に龍潭寺三世となった傑山宗俊）に求められて永禄十三年（1570）十二月に賛が書かれたことがわかる。室町時代に制作がさかのぼる頂相として、また龍潭寺の基礎を築き、井伊家の存続に尽くした南渓の姿を伝えるものとしても貴重。

部分　自賛

【賛】「鶻嗅布衫醜面皮
瘦肩誤着紫伽梨
分明紙上毛延寿
眼々相逢渠是誰
宗俊首座絵予陋質需賛
詞仍製俚以応願請云
永禄十三庚午臘月鬼宿日
前妙心南渓叟瑞聞書」

絹本着色南渓瑞聞像

２　新登録の文化財

（１）高林家住宅馬小屋ほか

名　称　高林家住宅馬小屋（うまごや）
高林家住宅堆肥小屋（たいひごや）
高林家住宅男衆部屋（おとこしゅうのへや）
高林家住宅味噌倉及び米倉（みそぐらおよびこめぐら）
高林家住宅地の神社（じのかみしゃ）
高林家住宅平常門及び塀（へいじょうもんおよびへい）
高林家住宅平門及び塀（ひらもんおよびへい）
高林家住宅内塀（うちべい）
高林家住宅外塀（そとべい）

区　分　国登録有形文化財

種　別　建造物

員　数　９棟

所有者　個人

所在地　浜松市東区有玉南

年　代　明治 19 年頃から昭和初期にかけての建造

登録日　令和３年 10 月 14 日

概　要

高林家は、古くは近世に代官を務め、地元有玉村の村政にも深く関わった家柄。第 8 代当主の方朗（みちあきら）は水野忠邦の国学の師として活躍し、第 14 代当主の兵衛（ひょうえ）は、初期の民芸運動の強力な支援者となった。

高林家住宅のうち、主屋・隠居、田舎家、蔵、長屋門、給水塔は先行して平成 30 年 3 月に登録されており、今回は屋敷構えを構成する周辺部の建築が登録された。

【馬小屋】　木造平屋建、瓦葺、建築面積 17 ㎡

馬の飼育をした施設。外壁は土塗り壁に下地板張り及び角波鉄板張り。内部は腰壁で三頭分の馬房に分けられ、開口部の内側に馬柵棒（ませんぼう）の穴が残る。天井は無く小屋裏があらわになっている。

【堆肥小屋】　木造平屋建、瓦葺、建築面積 21 ㎡

堆肥の保管を行った施設。外壁は土塗り壁に下地中塗り仕上げ。妻に曲がった梁を見せる。内部は一部屋で西側中央に開口部を設ける。腰高の切石風コンクリート基礎と、妻上部の開放、下地窓による通気により、堆肥小屋としての機能を確保する。馬小屋と同じく天井は無く、小屋裏があらわになっている。

【男衆部屋】　木造平屋建、瓦葺、建築面積 27 ㎡

農作業などを手伝う人達の部屋となる建物で、旧豪農の屋敷構えを構成する要素の一つ。長屋門など表側区画と奥の区画の境に建つ。表側の区画には窓をもうけ、奥の区画には入口を設けている。外壁は土塗り壁下地に押縁下見板張り及び塗り壁仕上げ。内部は、現在クロス貼となっている。建物南西角には古いコンクリート電柱が残る。第 13 代の維兵衛（いへえ）は、大井川に発電所を建設して浜松市を中心に県西部に電力を供給する日英水電株式会社（設立明治 44 年）の取締役を勤めた。自邸

にも明治末から大正初めには電気を引き込み、給水塔の電動ポンプや庭灯、洗濯機等を使用したという。

【味噌倉及び米倉】　木造平屋建、瓦葺、建築面積 78 ㎡

高林家の歴史の変遷を伝える建物。明治期の敷地内の倉の改造と整理により、当初の「雑蔵」から「薪置場･塩倉･味噌倉」の時代を経て最終的には薪置場と塩倉の部分が合体して「米倉」となったもの。

外壁は土塗り壁下地に押縁下見板張り及び縦羽目板張りで、東側背面に幅１メートル弱の木材置き場が設けられている。味噌倉内部は縦羽目板張りで中二階を設け、天井は小屋裏があらわになっている。米倉内壁は米の貯蔵のためにトタン板張りとしてネズミ等の侵入防止対策を施しており、天井は板張りとしている。

馬小屋

堆肥小屋

男衆部屋

味噌倉及び米倉

【地の神社】　木造平屋建、瓦葺、建築面積 3.3 ㎡

旧家の屋敷構えを構成する社（やしろ）。外壁は縦羽目板目板押え張り。内部は二段の床板張りで、天井は小屋裏があらわになっている。明治 19 年の宅地絵図面に「霊神」「宅主神」「稲荷神」と書かれており、現在も内部に見世棚造りの小社が三宇祀られている。

【高林家住宅平常門及び塀】　平常門　木造、銅板葺、間口 2.7 ㎡／塀　木造、延長 10 m

男衆部屋に接続して建ち、敷地内の表側区画と奥の区画を区切る。門は、腕木門という種類で、主柱に径約 18 ㎝の丸太柱を建てる。屋根は銅板一文字葺。塀は、門を挟んで東に１メートル、西に約 10 m延びる。高さは約２ｍで柱は 10 ㎝弱の四角いコンクリート支柱を１間毎に建て、壁外側

が杉板の縦大和張り、内側を杉皮縦張りとする。屋根は門と同じく板一文字葺。

【高林家住宅平門及び塀】　平門　木造、瓦葺、間口 1.8 ㎡／塀　木造、延長 26 m

敷地内の表側区画と内側の区画を区切る。平門は平常門及び塀に接続して建ち、内側に斜めの控柱を設けた腕木門。塀は、門を挟んで南側約５m及び北側約 21 mに延び、高さ約２m。柱は 10 ㎝弱の四角いコンクリート支柱を１間毎に建て、塀は門の南側３間と北側１間の外側を杉板幅 27 ㎝内外の縦大和張り、続きをひしぎ竹縦張り、内側を全て杉皮縦張りとする。

地の神社

平常門及び塀

平常門及び塀

平門及び塀

平門及び塀

【高林家住宅内塀】 鉄筋コンクリート造、瓦葺、延長 38 m

主屋に付く庭を囲み、主屋から見た庭の背景となる。高さ 2.1 m、延長約 39 mで、１間毎に 10 ㎝強の四角いコンクリート支柱を建て、杉の貫（ぬき）を通して外側に巾 21 ㎝前後の杉板を縦大和張り、黒色塗りとする。瓦は民藝運動の支持者であった第 14 代兵衛が、自ら考えて特別に注文し焼かせた独創的なもの。柱頂部は棟木で繋ぎ、棟木下に直行して腕木を差し桁を支える。棟木から桁にかけて山形の一枚瓦（巾約 55 ㎝、高さ約 12 ㎝、長さ約 27 ㎝）を並べる瓦屋根となっている。

【高林家住宅外塀】 鉄筋コンクリート造、総延長 98 m

外周の保存樹林と宅地部分を仕切る為に、昭和の初めに設けられた鉄筋コンクリート造の塀。東側と西側に分かれる。コンクリート造は第 14 代兵衛の好みを反映したもので、当時としては先進的という。屋敷内各所でもコンクリートの使用がみられる。

東側は延長約 58 m、高さ２m前後、モルタル塗り仕上げ。約２m毎に幅 11 ㎝のバットレスを設け、餅網配筋を入れる。一部でバットレスを大きくし補強する。西側は延長約 41 m、高さ２m前後、モルタル塗り仕上げで東外塀と同様の仕様だが、多くのコンクリート支柱により背面から補強する。内部の田舎家に接続する約８mは、和風外観（素丸瓦葺き、南側壁を土佐漆喰塗り）で一体感を表す。

内塀

外塀

３　文化財の主な整備・保存修復事業

（１）鈴木家住宅主屋・釜屋　建造物保存修理事業

区　分　国指定有形文化財
種　別　建造物
指定日　平成 19 年６月 18 日
構　造　主屋　桁行 8.2 ｍ、梁間 7.4 ｍ、寄棟造、茅葺
釜屋　桁行 6.7 ｍ、梁間 5.5 ｍ、寄棟造、妻入、茅葺、主屋・釜屋取合部を含む
補助事業者　浜松市（指定管理責任者）
所在地　浜松市北区引佐町的場
事業期間　令和元年６月３日から令和３年 12 月 31 日まで（令和２年度繰り越し事業）
工事期間　令和３年３月 10 日から令和３年 12 月 31 日まで
設計監理　公益財団法人　文化財建造物保存技術協会
施　工　元請：株式会社　魚津社寺工務店
屋根工事：有限会社　熊谷産業、かやぶき工舎

保存修理の経緯

保存修理の経緯　茅葺屋根の経年劣化が著しく、また、一般公開施設に必要な耐震性能を満たさないことが懸念された為、適切な保存と公開時の安全確保を目的として工事を実施した。

概　要　屋根葺替、構造補強
公開事業等　［見学会］
令和３年　引佐北部小中学校　４～６年生および引率教員　38 人
令和３年　地元自治会等　13 人
令和３年　引佐北部小中学校　３年生および引率教員 13 人
［その他］
市ホームページにて修理経過を公開
保存修理の解説パンフレット作成
現場掲示写真にて修理内容を公開
報告書　冊子の作成なし（平成 13 年度の解体修理時に作成済み）

前回の保存修理時に行った屋根の葺き替えから 17 年を経過し、劣化が著しいため、屋根の葺き替えを行った。屋根工事は、破損した棟積みを含め平葺全体を解体し、軒廻りは健全な範囲を一部存置した。解体ののち、茅葺の下地となる野地竹を一部取り替え、修理前の仕様に倣って茅葺を復旧した。工事により建物の健全性を確保し､適切な状態での後世へ引き継ぐことができるようになった。

また、以前より耐震上の課題があることが判明していたため、屋根葺き替えに併せて地盤調査及び構造調査、耐震診断を行った。診断の結果、公開施設として利用するために必要な耐震性能を満たさなかったことから、構造補強工事を行った。その結果、安全性能を確保することができるようになった。

その他、雑工事として、主屋･釜屋の取り合い部の丸太樋の取り替え、建具補修、防蟻土壌処理、修理銘札取付、雨水排水改良工事を行った。

［構造補強工事について］

地盤の状況を確認するため、ボーリングを建物南面で１箇所、スウェーデン式サウンディング試験を建物周囲６箇所で行い、土層断面の想定を行った。その結果、建物直下に岩盤が見つかり、良好な地盤であることが判明した。また、液状化危険度判定は「低い」と判定された。以上を耐震診断の前提とした。耐震診断は、文化庁文化財部発行「重要文化財（建造物）耐震診断指針・要領（H24年度改正）」及び「重要文化財（建造物）耐震診断・耐震補強の手引き」（H29改定）に準拠して行った。

活用方法は、内部を含めた一般公開をするものとし、性能目標は、文化庁指針による「安全確保水準」とした。これは、「大地震時に倒壊せず、生命に重大な危害を及ぼさない」性能である。安全確保水準を満たした際の被害状況目安としては、大地震動（数百年に一度程度の頻度を想定した最大級の地震）時に①軸組は「大きな変形が生じるが倒壊しない（層間変形角1/30以下）」、②安全は「生命に重大な影響を及ぼさない」、③機能は「喪失する」ものとなっている。なお、大地震としては、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）を想定し、この際に、鈴木家住宅は震度６弱程度の揺れが想定されている。

構造補強の方法は、構造用合板により壁面を補強し、必要に応じて化粧板貼りを行った。また、主屋・釜屋取り合い部の丸太樋の落下防止措置を行った。

修理前全景（左 主屋、右 釜屋）

修理前　主屋北面

修理前　釜屋棟

修理前　丸太樋

竣工　正面（南側）

竣工　背面（北東）

竣工　主屋内観（枠囲いは耐震補強の一部）

竣工　主屋内観（枠囲いは耐震補強の一部）

（2）宝林寺　木造二十四善神立像のうち日宮天子菩薩・月宮天子菩薩美術工芸品保存修理等事業

区　分　静岡県指定有形文化財

種　別　彫刻

指定日　平成 23 年 12 月２日

補助事業者　宗教法人　宝林寺

所在地　浜松市北区細江町中川 65 番地の２

施行期間　令和３年５月 17 日から令和４年３月３日まで

施　工　本軀：公益財団法人　美術院（納入品：株式会社　松鶴堂）

保存修理の経緯　約 350 年前に造像され経年劣化が著しいため

修理の概要　現状維持を基本とする保存修理

修理前の像の状態

＜日宮天子菩薩＞像高：110.8 ㎝ / 形状：巾子冠を被り、巾子の後部に三鈷戟を立てる（注：三鈷戟は日宮天子菩薩のものではない）。髪は平彫り。彫眼。閉口。唐風の衣を纏う。両手屈臂し、腹前で右手を上にし、両掌を上に向け五指を伸ばす。沓を履き、両足先を開いて立つ。台座は礼盤座。上框と下框の間に胴部を設ける。廻脚付き。/ 品質構造：桧材、寄木造。漆箔および彩色。頭躰別材製。頭部は前後二材矧ぎあるいは割矧ぎか。襟内で躰部に差首とし、躰部内に設ける枘受けで首枘下端を受ける。躰幹部は前後二枚矧ぎ。両肩外側部に各別材矧ぎ付け。両手首先各別材矧ぎ付け。巾子後部に付ける三鈷戟は木製。台座は木製、漆箔および彩色。上框（四方組付、天板を張る）と下框（四方組付）の間の四隅に束を立て、側板をはめ込む。正面側板に蓮華唐草文様の透彫り部を貼り付ける。下框の下に廻脚（四方組付）を設ける。

＜月宮天子菩薩＞像高：110.5 ㎝ / 形状：一面八臂。女神形。髻を結い、左右肩上で髪を束ね、宝冠を付ける。髪はまばら彫り。彫眼。閉口し、笑みを浮かべる。衣を著け、腰帯を締める。左右真手は屈臂し、左手は掌を上に持物（蓮台のみ残存）を執り、右手は掌を内に何らかの持物（亡失）を執る。躰側に左右各三手の脇手を表す（全て亡失）。沓を履き、右足を前に出してつま先を浮かせて立つ。台座は日宮天子菩薩と同様。/ 品質構造：桧材、寄木造。漆箔および彩色。頭躰別材製。頭部は前後二材矧ぎ、襟内で躰部に差首とする。躰幹部は前後二材矧ぎ。両肩外側部に各別材矧ぎ付け。左右真手は各前膊部（袖を含む）に一材を矧ぎ、両手首先を各袖口で矧ぐ。左右各脇手は躰側後部に薄板を埋め込み矧ぐ（薄板のみ残存）。宝冠・簪は銅製鍍金。台座は日宮天子菩薩と同様。

修理前の損傷状況

二軀とも次の状況であった。

（1）経年の埃が付着する。台座にジガバチの巣が付着する箇所がみられた。

（2）各所で漆箔・彩色が浮き上がり、剥落が進行中となっている。

（3）各所で矧ぎ目の釘や鋲の腐食、矧ぎ目の緩みがみられる。

（4）台座（礼盤座）の構造が脆弱で、表面の漆箔・彩色の浮きや剥落が進行している。

（5）経年の間の脱落部材（一部別保存）がみられる。

＜日宮天子菩薩＞特に、巾子冠及び両袖の色彩部や面相部眉間の剥落や下地の露出が著しい。巾子後部の三鈷戟が錯誤の可能性がある。巾子冠の左右笄と両手で執る持物が亡失している。左手第一指と右手第二・第五指及び左腰紐先端の欠失がある。

＜月宮天子菩薩＞特に、頭部地髪部及び面相部額の剥落が著しい。宝冠･簪が傾き安定に欠ける。左第一手の第二・四指先が欠失する。左第一手の持物（宝珠か）が蓮台を残して亡失する。右第一

手の持物・左右第二～四手すべてが脱落あるいは亡失する。

修理の内容

（１）埃を刷毛・筆等で除去した。

（２）漆箔・彩色の浮きはふのり・膠・樹脂等で剥落止めを行った。

（３）矧ぎ目の弛む箇所は取り離し後、膠あるいは漆で接合した。躰幹部の矧ぎ目は点検を行い、必要に応じ取り離し必要に応じ矧ぎ目を補強し再組立を行った。

（４）欠失・亡失箇所は、修理時知見により、構造上必要な箇所、あるいは根拠が得られる場合は補足、その他は修理時知見により検討した。特に、左第一手の蓮台のみ残る持物は、別保存材を精査したものの適合する宝珠の部材がみられなかったため、検討会で協議の上、桧材で補足した。

（５）脱落し別保存される部材は、精査し元の位置に復位した。なお、日宮天子菩薩の巾子冠の左右笄については、右側を復位し、左側は右側に倣い桧材で新補した。

（６）日宮天子菩薩の巾子後部に立てられた三鈷戟は、日宮天子菩薩のものではないと判断したため、取り外して別保存とした。

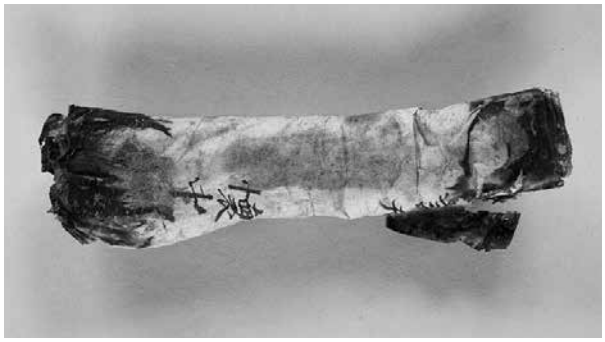
（７）各台座の矧ぎ目が緩む箇所は一旦解体し、膠や漆で再接合し、漆箔浮きは樹脂等で剥落止めを行った。

（８）各修理箇所は全て古色仕上げとした。

［納入品の修理］

日宮天子菩薩の頭部に紙製の納入品が収められていた。過去の展開により断裂が引き起こされた箇所が観察された。断裂が生じている箇所及び欠失箇所のうち、保存する上で支障となる箇所について、本紙と同質の補修紙により補修や補強を施した。今回の修理では展開はしない方針とし、渋紙製の包紙及び紙縒りを製作して全体を包んだ。

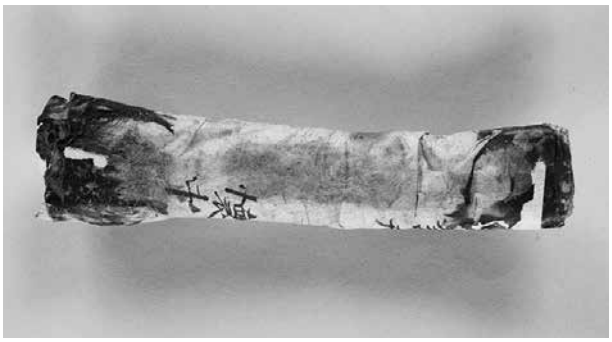
※本稿は静岡県の補助事業に際し、修理施工者がまとめた修理報告書から作成した。



修理前

修理前

紙の補填



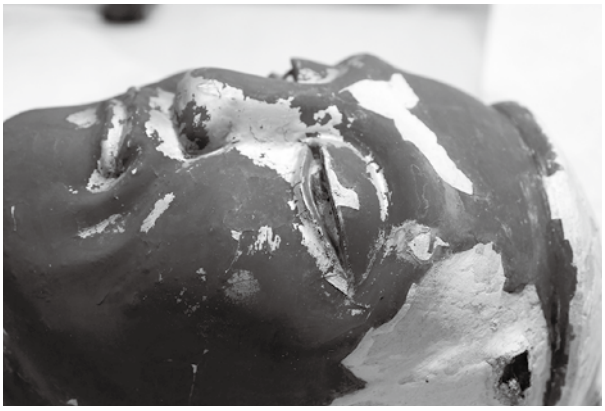
修理後

日宮天子菩薩

修理前　全影

修理後　全影

面部　修理前



面部　剥落止め処置後

納入品　修理後の納入状況

像底　修理後

月宮天子菩薩

修理前　全影

修理後　全影

左脇手取付部　薄板の取外し

左脇手取付部　薄板の補足状況

面部　修理前

面部　剥落止め処置後

像底　修理後

（３）長楽寺　庭園　記念物保存修理等事業

区　分　静岡県指定記念物

種　別　名勝

指定日　昭和 61 年３月 22 日

補助事業者　宗教法人　長楽寺

所在地　浜松市北区細江町気賀 7953-1

施工期間　令和４年２月４日から
令和４年３月18日まで

施　工　初花園

石組　修理後（南東から）

保存修理の経緯

令和２年 11 月に、庭園の石組のうち景石１点が転倒し、その隣の景石にもたれかかった状態となっていた。原因は経年により景石の下土が流出したことによる。庭園としての景観を回復させるため、転倒した景石と、転倒の衝撃で傾いた隣の景石の据え直しを行い、庭園の景観を改善した。

概　要

・施工対象　庭園中央部の石組（景石２点）

・施工方法　石の吊り上げ移動→整地→据付→仕上げ→片付

東側景石を吊り上げて脇へ移動。東側景石跡を 15 ㎝程度掘り下げて（15 ～ 20 ㎝）整地し、そこに東側景石を据え付けた。

次に、西側景石を直上へ吊り上げ、西側景石跡の、傾斜していない方向の土を掘り下げて（最大 10 ㎝程度）整地した後に西側景石を据え付けた。

仕上げとして、土をかぶせ、転圧した。土は掘削した時に排出されたものを使用した。

・使用機材：チェーンブロック・三脚・ワイヤー 1.5t 用

※三脚設置により周囲の庭木等を傷つけないように細心の注意を払った。

石組　修理前

修理中　石の吊り上げ移動

（４）法橋の松　記念物保存修理等事業

区　分　　静岡県指定記念物
種　別　　天然記念物
指定日　　昭和 27 年４月１日
補助事業者　宗教法人　妙恩寺
所在地　　浜松市東区
施工期間　　令和３年３月４日から
　　令和３年５月31日まで
施　工　　株式会社　グリーンメンテナンス

法橋の松　修理後（北東から）

保存修理の経緯

令和２年 12 月に現状確認（樹木医、静岡県財保護審議会委員、静岡県文化財課、浜松市文化財課）を行ったところ、根本と幹の一部が腐朽し強度が足りず、枝の重みや風により幹が座屈もしくは折損する恐れがあるため、 至急保護策を講じる必要があることが判明した。

概　要

幹が座屈もしくは折損した場合、東・西・南側のどちらの方向にも倒れる可能性があったため、南側にある既存の支柱を利用し、幹全体を東・西側からも支える支柱を設置した。

幹のくびれより下にある腐朽部を一部除去し、雨水が入り込むことを防ぐための保護マットを設置した。

〇支柱設置
・支柱設置のためのステージ足場、昇降階段設置
・支柱用鋼材の加工、運搬、取付
・柱脚のコンクリート補強

〇幹腐朽部分の一部除去及び保護マット設置
・手作業及びエアーコンプレッサーによる腐朽部の一部除去
・人工土壌、粒墨による除去部分の保護
・腐朽部への薬剤散布（殺虫・殺菌）及び保護マット・ベルトの設置

行　事　見学会「法橋の松と橋羽（はしわ）をめぐる」　令和３年７月 25 日（日）実施

腐朽部への薬剤散布と保護マット等設置

見学会の様子

（５）　秋葉神社神門　建造物保存修理事業

区　分　浜松市指定有形文化財

種　別　建造物

指定日　昭和 41 年 12 月 26 日

補助事業者　宗教法人　秋葉山本宮秋葉神社

所在地　浜松市天竜区春野町領家

事業期間　令和３年４月１日から令和４年３月 31 日まで　12 ヵ月

工事期間　令和３年４月１日から令和４年３月 31 日まで　12 ヵ月

全工事期間　令和２年６月から令和５年３月まで

設計監理　特定非営利活動法人　静岡県伝統建築技術協会

施　工　株式会社　天峰建設

構　造　桁行三間（34.1 尺）、梁間二間（19.8 尺）、入母屋造平入
金属板（アルミニウム）葺、柱間面積 61.99 ㎡

保存修理の経緯　建造から 200 年が経過し、建物のねじれや経年劣化、倒木による損傷がみられたため、適切な保存と見学の安全確保を目的として工事を実施した。３年度間工事の２年度目として実施。

概　要　全解体保存修理。令和３年度は主に組立工事、及び屋根野地までを施工。

発見事項　解体後の部材調査で複数の戯画、及び墨書が見つかった。

公開事業等

［修理工事見学会］

・１回目　令和３年８月 22 日　大雨により中止

・２回目　令和３年 11 月 21 日（日）、午後１時～３時、一般　参加 67 人

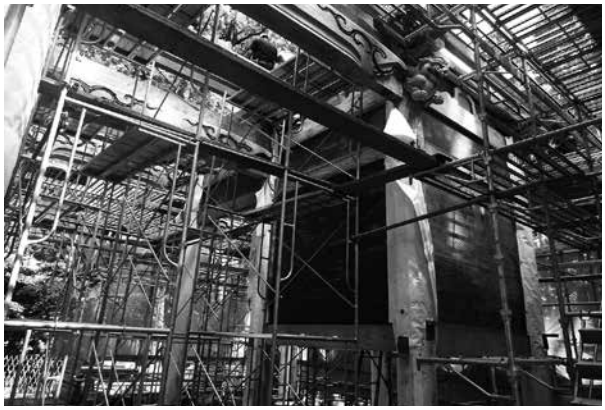
足場上で、建て方や屋根の軒積み、こけら葺の材料加工、戯画が描かれた板材、工事経過写真等を見学いただいた。工事に従事する関係者には、掲示物作成や建築説明、作業デモンストレーション等の協力をいただいた。新型コロナ感染症に対応して人数を絞り、３グループに分かれて見学を行った。

報告書　令和５年に所有者自主事業で作成予定。

戯画が描かれていた飛檐垂木（ひえんだるき）上面の化粧板

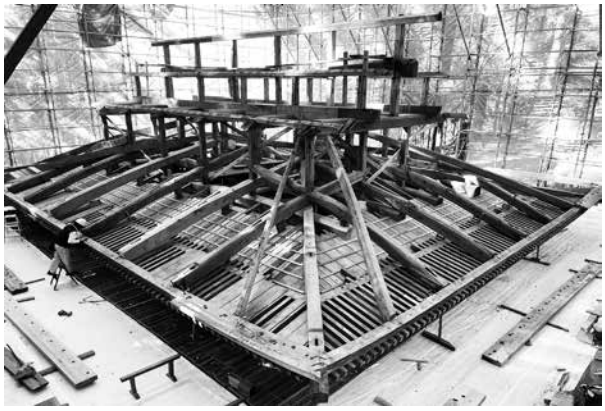
鍋を持つ飯場の女性

台鉋をかける大工

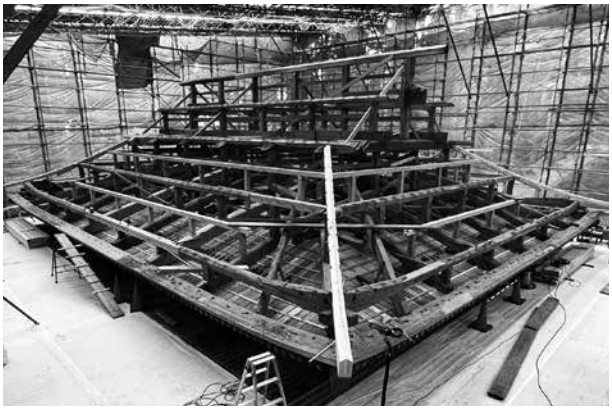


組立工事　桁までの構造部

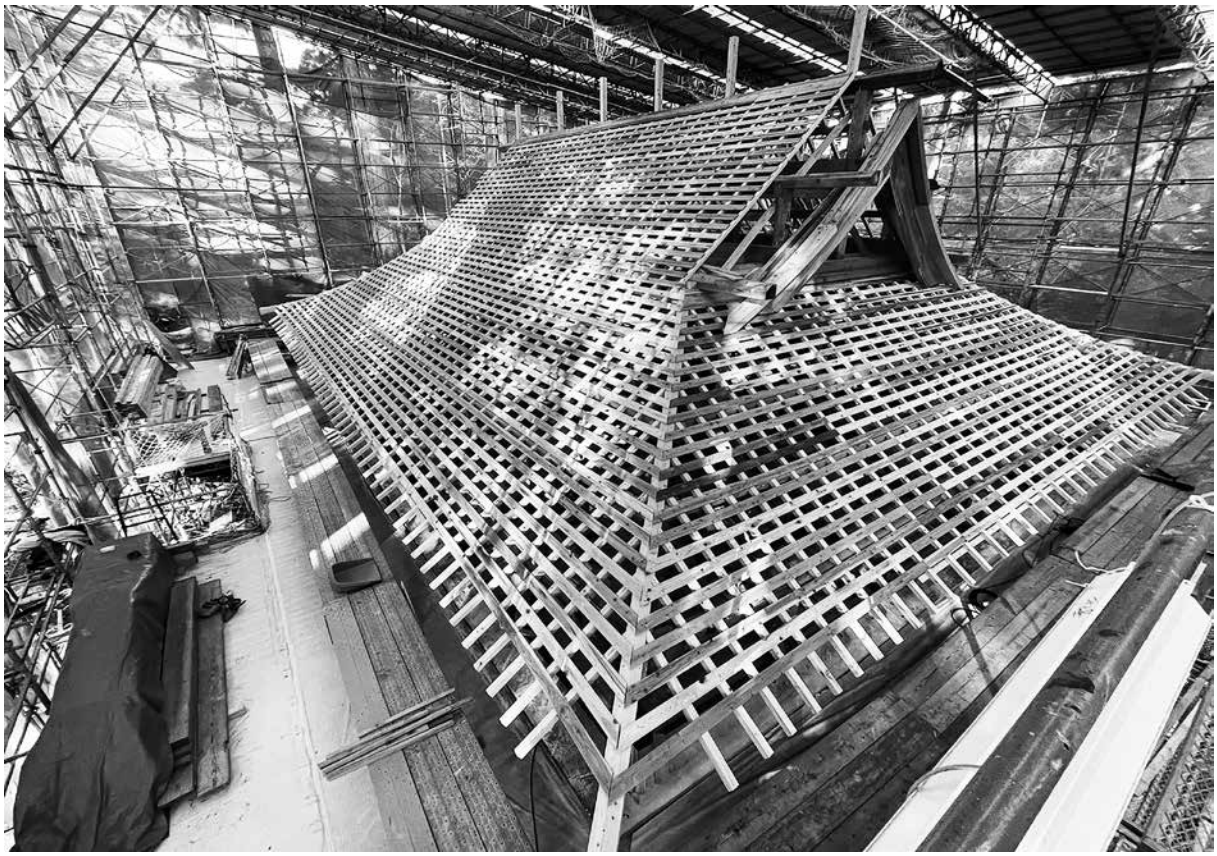
組立工事　斗栱より上



組立工事　小屋組　茅負　裏甲　軒天井



組立工事　ハナ母屋　野隅木



屋根工事　野地

４　文化財の継承事業

横尾歌舞伎の道具修繕　県指定無形民俗文化財「横尾歌舞伎」継承のため、所作台の作成、劣化・変質した鬘の更新及び調整を行った。横尾歌舞伎の芸能に合わせるため、所作台・鬘を専門業者から購入し、加工・調整を横尾歌舞伎保存会の会員が実施した。

所作台の購入により足拍子の響きが向上し、均一な床面により足運びも円滑になったことで演者が所作に集中できるとともに、足の負担軽減により横尾歌舞伎本来の所作を継続して伝える環境を整えることができた。

横尾歌舞伎で使用する鬘は、演目で使用する本来の鬘に近い形状を業者より購入し、保存会の手によって実際の演目で使用する型に整えた。既存の鬘は保存用として劣化防止を施し保管している。近年上演の多い演目「神霊矢口渡」及び「白浪五人男」で使用する鬘は、演者の世代交代や少年・少女（小学生）演者の成長等に伴う頭部サイズの変化に対応できるようになった。

所作台（舞台用）

所作台（花道用）

鬘（頓兵衛）更新前

鬘（頓兵衛）更新後

鬘（日本駄右衛門）更新前

鬘（日本駄右衛門）更新後

無形民俗文化財公演　令和３年６月６日（日）に長泉町文化センターベルフォーレで開催された、「ふじのくに伝統芸能フェスティバル ～今、地域の芸能を次世代につなぐために～」に県指定無形民俗文化財「横尾歌舞伎」が出演した。本公演は、県内各地域の過疎化や少子化などの問題を抱えながらも、地域の人々の努力により継承されてきた民俗芸能について、コロナ禍により、その課題がより深刻化し、苦境に立たされながらも「次世代への継承」に強く想いを持ち活動する地域の団体を、その地道な継承活動の紹介とともに魅力あふれる芸能を披露する趣旨のもと開催された。

横尾歌舞伎は、実際の公演活動と保存会長のインタビューを映像により紹介するとともに、横尾歌舞伎保存会で活動し、令和元年度の「伝統芸能こどもサミット」で議長をつとめた戸田さんが「寿曽我対面」大磯の虎役の一場面を実演してみせた。出演団体は他に伊豆の国市田京区（田京三番叟）、伊東市湯川自治区（湯川鹿島踊）、静岡県立駿河総合高等学校和太鼓部が実演披露し、富士宮囃子保存会、西島神楽団が映像出演した。新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言及びまん延防止重点措置の期間外に行われた本公演では、客席制限・消毒・検温などの各種感染防止措置が取られたが、予定座席は観客により満席となっていた。

ふじのくに伝統芸能フェスティバル

大磯の虎

和太鼓部の演奏

映像出演の様子

５　浜松地域遺産の認定

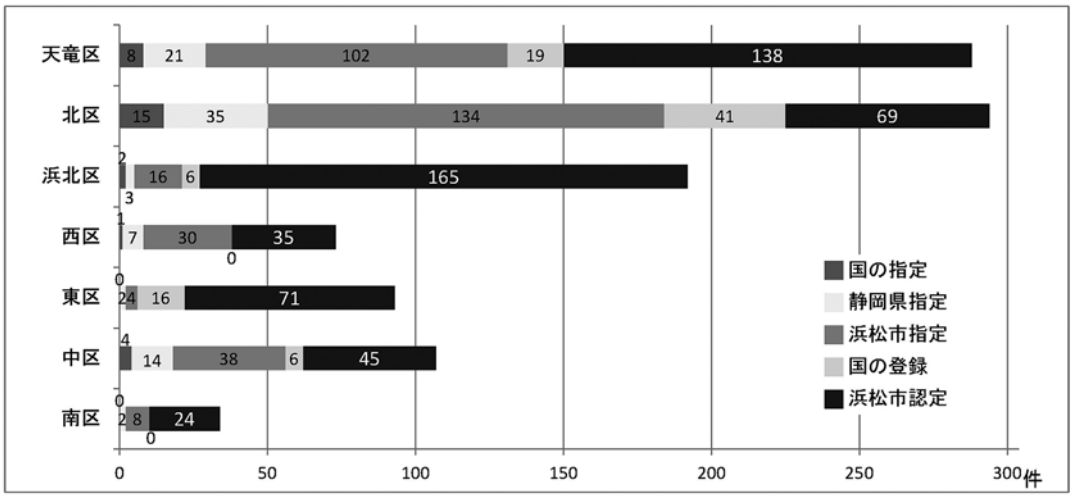
浜松地域遺産認定制度の概要　浜松市は従来の国・静岡県・浜松市の指定文化財、また国の登録文化財という文化財保護制度とは別に、平成 28 年度から、地域とともにゆるやかな保護・活用をはかる制度として「浜松地域遺産」の認定を開始した。毎年度、地域の団体から推薦いただき、その年度中に浜松市教育委員会が認定する。市域全体で見れば指定文化財ほど知られていないとしても、それぞれの地域で長く親しまれ愛護されてきた貴重な歴史文化資源を「地域の宝（地域遺産）」として認定する制度である。指定文化財におけるすべての種別を対象とするが、市独自に近代化遺産や伝承地・伝統的生活文化なども取り上げて、幅広く認定するゆるやかな制度としている。認定を契機に、所有者と地域団体が協力して「わが町の宝」に注目した地域活性化が展開されることを期待している。実際に、地域力向上事業や町独自の公開事業などの実績がある。

令和元年度からは、改正文化財保護法を受けて、浜松市も文化財保存活用地域計画を作成し、令和３年７月に国の認定を受けた。また歴史的風致維持向上計画も令和４年度３月に認定された。地域遺産の認定は、両計画のための市内の未指定文化財の悉皆調査としても反映されている。これまでに認定した文化財のうちから、将来の新たな指定文化財候補が見出されることは十分にありうる。

浜松地域遺産認定制度の経過　平成 28 年度の７月から 10 月まで募集した第１期に、91 件を認定した。ついで 29 年度は 101 件、30 年度に 50 件、令和元年度に 66 件、２年度に 147 件を認定した。

令和３年度も７月１日から 10 月 31 日を募集期間とし、自治会や郷土史研究会を中心に地域の団体からの推薦を受けて、90 件を令和４年３月 23 日の市教育委員会で報告して新たに認定した。合わせて過年度の認定文化財への構成要素の追加が２件あった。制度開始以来６年間の総数は、545 件となった。令和４年度以降も募集と認定を継続する予定である。

平成 17 年に 12 市町村が合併した浜松市は、政令市施行とともに７つの区が成立した。この区別に見れば従来の指定文化財は、市北半にあたる北区と天竜区に集中し、浜北区以南の市南半には比較的少なかった。この傾向は国の登録文化財を含めても顕著であったが、市南部は戦災の影響が大きかったとはいえ、未指定の文化財は数多く埋もれているものと推定された。この６年間に認定された文化財の所在先を見ると、浜北区や東区、南区など従来の指定文化財が少なかった地域を含めて積極的な推薦が得られ、各区の文化財が再認識されている。



浜松市各区別　指定文化財等件数（令和４年３月 23 日現在）

令和３年度の認定文化財の特徴　西区にあるのこぎり屋根の織布工場（有形文化財：建造物）や南区の石川鉄工場創業当時の鞴（有形文化財：歴史資料）など、近現代の浜松を支えた産業遺産が認定された。中区と東区からは工房に保管されていた戦前から戦後にかけての凧絵の型紙（有形民俗文化財）が認定されている。浜松まつりで揚げられる大凧の町印でいずれも複数の町の分が保存されていた。浜松まつりに関連する地域遺産認定は初めてである。北区では旧引佐郡内の集落で行われている地の神の同族祭祀（無形民俗文化財）が一括して、また西区と南区の遠州灘沿岸集落で広く見られる潔斎であり地の神祭祀でもある「浜おり（浜ごり）」（無形民俗文化財）が認定されている。

中区に事務所をおく浜松菊花会が継承する大菊の栽培技術が無形文化財に認定された。認定文化財の種別のうちで無形文化財は制度導入以来５年間で認定実績がなく、６年目で初めての地域遺産となった。

浜松の大菊栽培技術 (24)

浜松凧の型紙 (25)

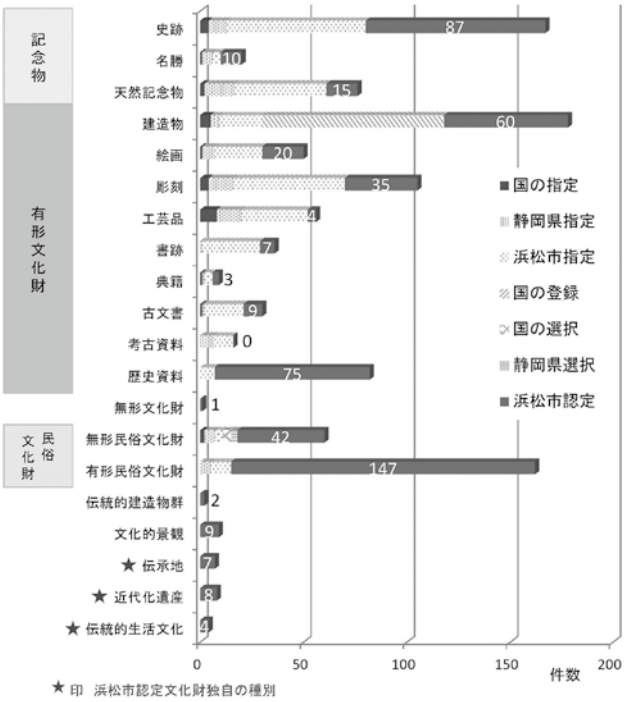
浜松凧の凧絵 (28)

（　）内の数字は、次ページの一覧表に同じ

今後の課題　認定された地域遺産は、翌年度に浜松市地域遺産センターにて開催される文化財速報展にて概要を紹介してきた。本誌でも報告している。一部は広報紙等に掲載し、ＳＮＳでも発信しているが、545 件という個々の特色を十分に紹介できるところまでは至っていない。

種別ごとに見れば、これまで指定文化財としては少なかった歴史資料、有形民俗文化財などで認定件数が増加しているのは令和３年度でも顕著な傾向である。

しばらく指定実績がなかった無形文化財については、令和３年度に初めて認定が得られた。認定文化財独自の種別としている近代化遺産や伝統的生活文化でも、浜松市ならではの特徴ある文化財が推薦され、認定を得てきている。



種別ごとの文化財等件数

浜松市は、令和３年度末現在で、国･県･市の指定 438 件、国の登録 88 件と文化財を漸増してきた。認定文化財は制度導入以後の６年間でそれらの合計件数に追いついたところである。認定された文化財の検証と必要な再調査への取り組み、また次の指定文化財候補の選出なども今後の課題である。

令和３年度　浜松地域遺産（浜松市認定文化財）一覧（１）

番	区	町	名　称	種別	所有者等	備考
1	西区	入野町	入野の織布工場建物	建造物	個人	
2	西区	入野町	入野の織物工場建物	建造物	個人	
3	西区	入野町	瀧本家土蔵	建造物	個人	
4	北区	豊岡町	旧陸軍三方原爆撃演習場掩体壕	建造物	個人	
5	北区	初生町	旧陸軍第七航空教育隊正門門柱	建造物	(株)SHIRAYANAGI	
6	浜北区	寺島	中安家土蔵	建造物	個人	
7	浜北区	貴布祢	貴布祢薬師堂	建造物	貴布祢薬師堂	
8	浜北区	貴布祢	長泉寺山門	建造物	長泉寺	
9	天竜区	二俣町鹿島	椎ヶ脇神社本殿	建造物	椎ヶ脇神社	
10	天竜区	二俣町鹿島	伊奈忠次判物	古文書	椎ヶ脇神社	
11	中区	松城町	曠原三方（こうげんみかた）	歴史資料	中央図書館	
12	南区	堤町	田地売渡証文	歴史資料	個人	
13	南区	古川町	旧石川鉄工場の鞴（ふいご）	歴史資料	(株)ソミック石川	
14	北区	三方原町	気賀林顕彰碑	歴史資料	三方原神社	「三富翁之碑」
15	北区	三方原町	三方原開拓之碑	歴史資料	三方原神社	「萬世不朽」
16	北区	三方原町	四勇士之碑	歴史資料	三方原南自治会	
17	北区	三方原町	三方原の道標群	歴史資料		４件一括認定
			地蔵菩薩		三方原神社	
			不動明王		三方原神社	
			巡礼塔		三方原神社	
			三方原追分の道標		三方原歴史保存会	
18	北区	三方原町	三方原大正開墾記念碑	歴史資料	個人	
19	北区	三方原町	横田保顕彰碑	歴史資料	三方原百里園自治会	
20	北区	三方原町	渡辺素夫顕彰碑	歴史資料	三方原清水自治会	
21	北区		河西訓導殉職関係資料	歴史資料		３件一括認定
		都田町	河西訓導殉職関係資料（文書）		都田小学校	
			河西訓導墓地		龍洞院	
		三ヶ日町	河西訓導墓地（卵塔）		華蔵寺	
22	浜北区	中瀬	貞明皇后中瀬行啓関係資料	歴史資料	中瀬郷土史の会	
23	天竜区	佐久間町浦川	相川掘割記念碑	歴史資料	浦川地区町自治会	
24	中区	―	浜松の大菊栽培技術	無形文化財	浜松菊花会	
25	中区	池町	浜松凧の型紙	有形民俗文化財	一瀬堂	
26	中区	池町	浜松凧の凧絵	有形民俗文化財	一瀬堂	
27	東区	上西町	浜松凧の型紙　附保管箱	有形民俗文化財	上西すみたや	
28	東区	上西町	浜松凧の凧絵	有形民俗文化財	上西すみたや	
29	北区	三方原町	三方原神社の忠魂碑	有形民俗文化財	三方原神社	
30	北区	三方原町	精鎮塚	有形民俗文化財	本乗寺	
31	北区	三方原町	三方原の馬頭観音像	有形民俗文化財	個人	
32	北区	東三方町	東三方の道標	有形民俗文化財	東三方神社	
33	北区	初生町	三方原の半僧坊里程石	有形民俗文化財	三方原歴史保存会	
34	北区	細江町	中川寺の宝篋印塔	有形民俗文化財	中川寺	「おんころ様」
35	北区	三ヶ日町	本坂の秋葉山常夜灯	有形民俗文化財	本坂自治会	
36	浜北区	寺島	寺島の半僧坊里程石群	有形民俗文化財		４件一括認定
			半僧坊里程石「五里十町」		寺島自治会	
			半僧坊里程石「五里十二町」		寺島自治会	
			半僧坊里程石「五里十四町」		寺島自治会	
			半僧坊里程石「五里十五町」		寺島自治会	
37	浜北区	中瀬	江間猪佐美歌碑	有形民俗文化財	八方地蔵尊	
38	浜北区	沼	沼の地蔵菩薩像	有形民俗文化財	日限地蔵尊	
39	浜北区	道本	道本の子安堂	有形民俗文化財	道本自治会	
40	浜北区	貴布祢	全心坊の地蔵菩薩像	有形民俗文化財	全心坊	
41	浜北区	小林	自徳院の多層塔	有形民俗文化財	自徳院	
42	天竜区	春野町内	春野町犬居の秋葉山常夜灯群	有形民俗文化財		５件一括認定
			小奈良安の秋葉山常夜灯		静修自治会	
			若身の秋葉山常夜灯		瑞雲院	
			堀之内の秋葉山常夜灯		犬居自治会	
			領家の秋葉山常夜灯		東領家自治会	
			野尻の秋葉山常夜灯		野尻自治会	
43	天竜区	春野町領家	西領家の庚申堂	有形民俗文化財	西領家自治会	
44	天竜区	春野町領家	金蔵坊大日如来堂	有形民俗文化財	西領家自治会	
45	天竜区	春野町宮川	平木の常夜灯	有形民俗文化財	平木自治会	
46	天竜区	春野町堀之内	静修の大日山道標	有形民俗文化財	静修自治会	

令和３年度　浜松地域遺産（浜松市認定文化財）一覧（２）

番	区	町	名　称	種別	所有者等	備考
47	天竜区	春野町堀之内	若身の大日如来像	有形民俗文化財	若身自治会	
48	天竜区	春野町内	春野町犬居の道標群	有形民俗文化財		３件一括認定
			静修の道標１		静修自治会	
			静修の道標２		静修自治会	
			西領家の道標		西領家自治会	
49	天竜区	二俣町鹿島	椎ヶ脇神社の祭礼関係資料	有形民俗文化財	椎ヶ脇神社	
50	天竜区	二俣町鹿島	椎ヶ脇神社の宝篋印塔	有形民俗文化財	椎ヶ脇神社	「田村将軍碑」
51	天竜区	二俣町鹿島	建部新八郎慕徳碑及び石灯籠	有形民俗文化財	椎ヶ脇神社	
52	天竜区	春野町砂川	砂川（いさがわ）の秋葉山常夜灯	有形民俗文化財	砂川自治会	
53	天竜区	春野町気田	秋葉街道の一杯水碑	有形民俗文化財	個人	
54	天竜区	春野町堀之内	若身鷹尾連の屋台　附天幕	有形民俗文化財	若身自治会	
55	天竜区	春野町越木平	民蔵の墓	有形民俗文化財	個人	
56	西区	大山町	西大山の初午祭	無形民俗文化財	西大山区	
57	西・南区	舞阪町他	浜松海岸の浜おり	無形民俗文化財	―	「浜ごり」とも
58	北区		旧井伊郷の地の神祭祀	無形民俗文化財		５件一括認定
		引佐町	西黒田の地の神祀り		西黒田自治会	
			狩宿の峰野一統の地の神祀り		個人	
			谷沢のオシャグッツァマ		個人	
			谷沢の加藤一門の同族祭り		個人	
		滝沢町	滝沢の同族の地の神祀り		個人	
59	天竜区	二俣町鹿島	椎ヶ脇神社の神輿渡御	無形民俗文化財	椎ヶ脇神社	
60	北区	三方原町	三方原士族屋敷跡	史跡	個人	
61	北区	豊岡町	旧陸軍三方原爆撃演習場視察築山	史跡	浜松市	「お立ち台」
62	北区	初生町	長池排水壕	史跡	浜松市	
63	北区	三ヶ日町	本坂高札場跡	史跡	本坂自治会	
64	浜北区	中瀬	八方地蔵尊境内	史跡	八方地蔵尊	
65	浜北区	中瀬	中瀬天神社境内	史跡	天神社	
66	浜北区	中瀬	並松稲荷神社境内	史跡	個人	
67	浜北区	高畑	八雲神社境内	史跡	八雲神社	
68	浜北区	横須賀	横須賀諏訪神境内	史跡	横須賀諏訪神社	
69	浜北区	沼	沼八幡宮境内	史跡	沼八幡宮	
70	浜北区	貴布祢	須佐之男神社境内	史跡	貴布祢第４町内会	
71	浜北区	小林	下小林八幡宮境内	史跡	八幡宮	
72	浜北区	小林	上小林稲荷神社境内	史跡	個人	
73	浜北区	道本	道本於呂神社境内	史跡	道本氏子	
74	浜北区	西美薗	西美薗諏訪神社境内	史跡	西美薗諏訪神社	
75	浜北区	西美薗	素戔之男吾妻神社境内	史跡	素戔之男吾妻神社	
76	浜北区	東美薗	東美薗八幡宮境内	史跡	八幡宮	
77	浜北区	油一色	油一色八幡宮境内	史跡	八幡宮	
78	浜北区	本沢合	本沢合水神社境内	史跡	水神社	
79	浜北区	貴布祢	長泉寺境内	史跡	長泉寺	
80	浜北区	小林	自徳院境内	史跡	自徳院	
81	浜北区	小林	心宝寺境内	史跡	心宝寺	
82	浜北区	東美薗	一林寺境内	史跡	一林寺	
83	浜北区	油一色	常光院境内	史跡	常光院	
84	浜北区	西美薗	多宝院境内	史跡	多宝院	
85	浜北区	本沢合	龍現寺境内	史跡	大宝寺	
86	天竜区	二俣町鹿島	金貸水神社境内	史跡	椎ヶ脇神社	
87	天竜区	二俣町鹿島	建部新八郎墓碑	史跡	北鹿島自治会	
88	西区	舞阪町弁天島	いかり瀬の海浜植物群	天然記念物	静岡県	
89	北区		三方原の中道	近代化遺産	浜松市	
90	浜北区	中瀬	中瀬の干し芋	伝統的生活文化	中瀬地区	

令和元年度認定分に追加

1	東区	有玉北町	近世近代浜松関係資料	歴史資料	個人	追加 19 点

令和２年度認定分に追加

1	浜北区	北浜地区	北浜の秋葉山常夜灯群	有形民俗文化財	（高薗竜南を追加）	追加１点

【第２部　埋蔵文化財調査報告】

第１章　埋蔵文化財調査の概要

浜松市では、令和３年度に本発掘調査をはじめとした、埋蔵文化財発掘調査に係る事業を実施した。各事業における実施件数は、以下のとおりである。

（１）埋蔵文化財本発掘調査事業

開発に伴う事前の発掘調査　６件（内訳は次のとおり）

・民間委託による本発掘調査　１件　恒武西宮遺跡 32 次（東区恒武町）

・市の直営による本発掘調査　５件　中屋遺跡 17 次（浜北区根堅）ほか

（２）埋蔵文化財試掘・確認調査、工事立会い等調査事業

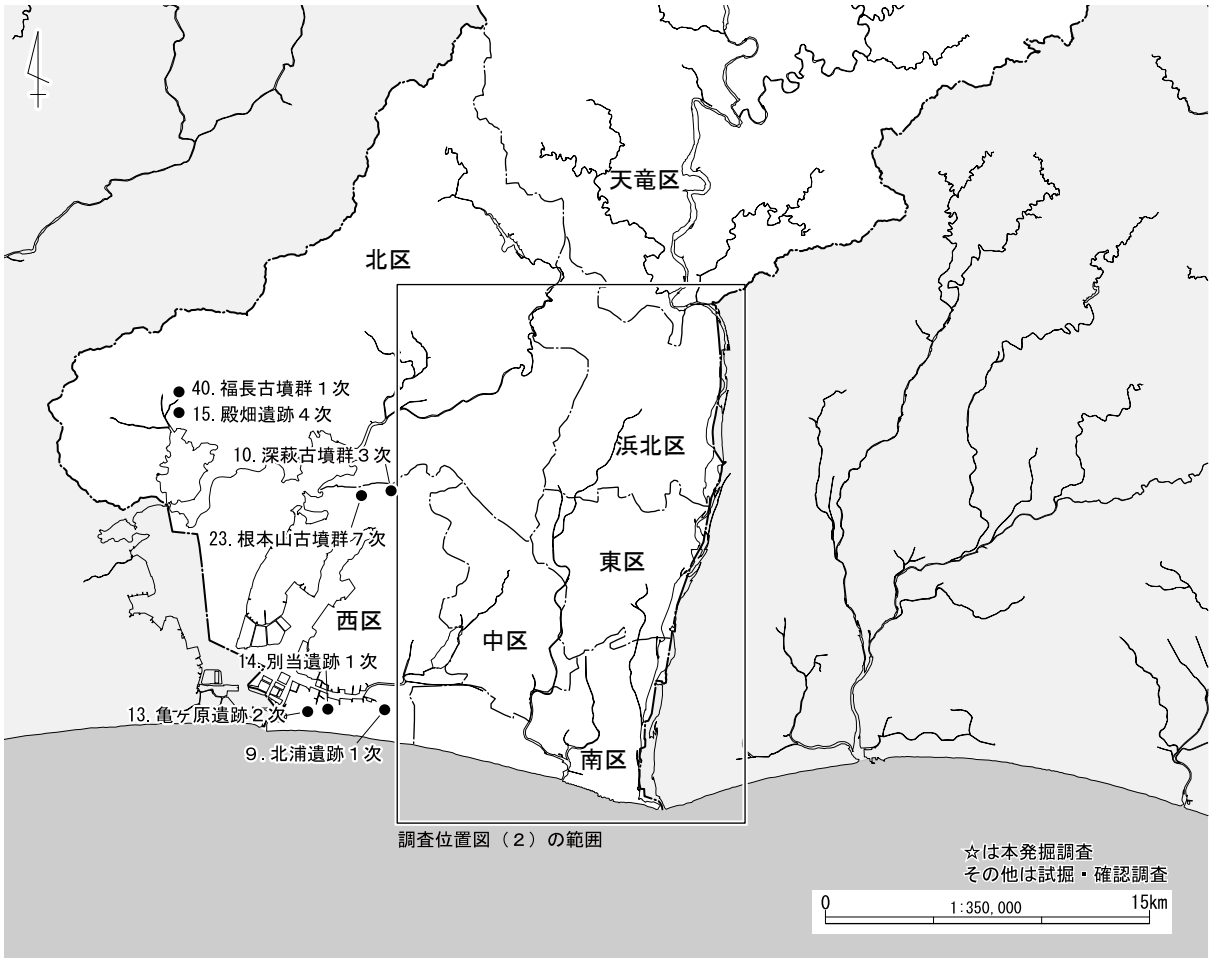
①調査　40 件（内訳は次のとおり）

・開発に伴う試掘確認調査　38 件　村裏遺跡 10 次（南区東若林町）ほか

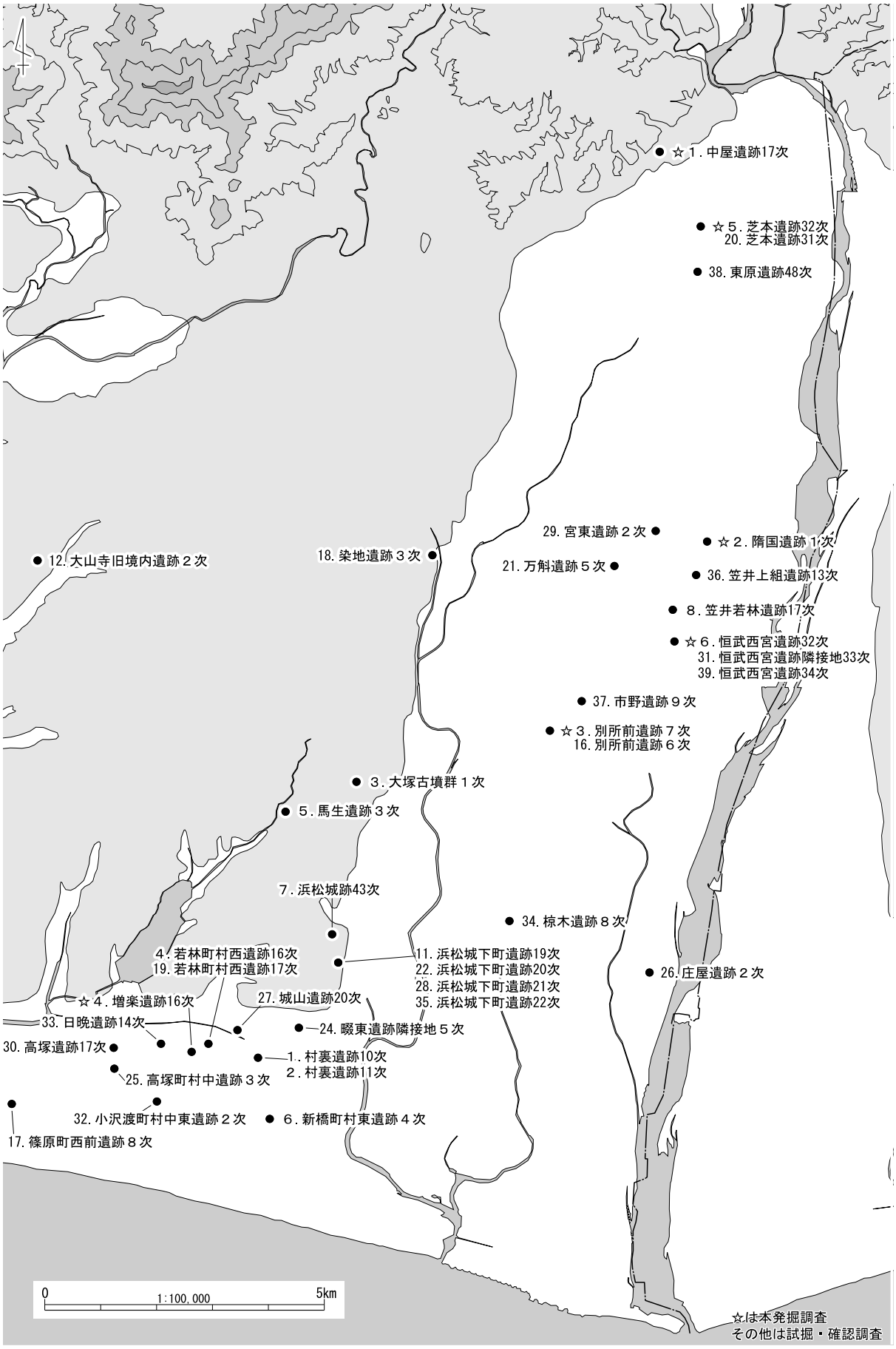
・保存目的の確認調査　２件　浜松城跡 43 次（中区元城町）ほか

②開発に伴う工事立会い　69 件　笠井上組遺跡（東区笠井町）ほか

③踏査　２件　本坂後藤（源兵衛）屋敷跡隣接地（北区三ヶ日町本坂）ほか



調査位置図（１）

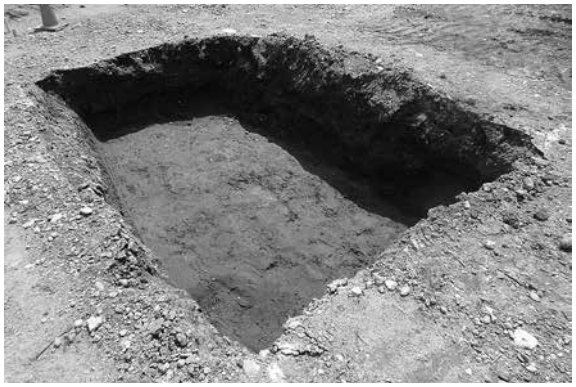

☆１. 中屋遺跡17次
☆５. 芝本遺跡32次
20. 芝本遺跡31次
38. 東原遺跡48次
29. 宮東遺跡２次
☆２. 隋国遺跡１次
12. 大山寺旧境内遺跡２次
18. 染地遺跡３次
21. 万斛遺跡５次
36. 笠井上組遺跡13次
８. 笠井若林遺跡17次
☆６. 恒武西宮遺跡32次
31. 恒武西宮遺跡隣接地33次
39. 恒武西宮遺跡34次
37. 市野遺跡９次
☆３. 別所前遺跡７次
16. 別所前遺跡６次
３. 大塚古墳群１次
５. 馬生遺跡３次
７. 浜松城跡43次
34. 椋木遺跡８次
４. 若林町村西遺跡16次
19. 若林町村西遺跡17次
11. 浜松城下町遺跡19次
22. 浜松城下町遺跡20次
28. 浜松城下町遺跡21次
35. 浜松城下町遺跡22次
26. 庄屋遺跡２次
☆４. 増楽遺跡16次
27. 城山遺跡20次
33. 日晩遺跡14次
24. 畷東遺跡隣接地５次
30. 高塚遺跡17次
1. 村裏遺跡10次
２. 村裏遺跡11次
25. 高塚町村中遺跡３次
32. 小沢渡町村中東遺跡２次
６. 新橋町村東遺跡４次
17. 篠原町西前遺跡８次
0
1:100,000
5km
☆は本発掘調査
その他は試掘・確認調査

調査位置図（２）

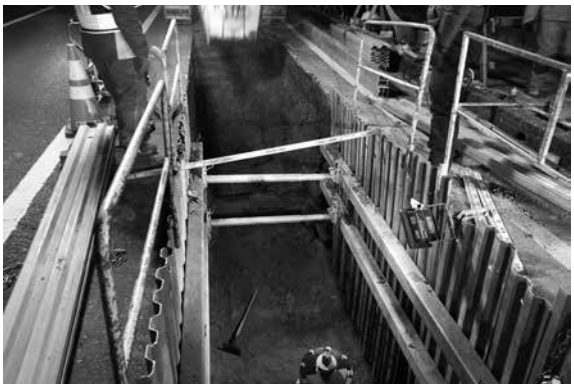
令和３年度本発掘調査一覧

No.	遺　跡　名	所　在　地	調　査　月　日	調 査 原 因	区　分	調査面積（約㎡）	掲載頁
1	中屋遺跡 17 次	浜北区根堅	2021 年７月５日	個人住宅建設	現地作業	36	49
2	隋国遺跡１次	東区笠井上町	2021 年９月６日	介護施設建設	現地作業	3	49
3	別所前遺跡７次	東区市野町	2021 年 11 月９日、10 日、 2022 年２月 21 日～ 25 日	水道管埋設	現地作業	60	50
4	増楽遺跡 16 次	南区若林町	2021 年 11 月 30 日～ 12 月 14 日	校舎改築	現地作業	160	50
5	芝本遺跡 32 次	浜北区於呂	2021 年 12 月 20 日～ 23 日、 2022 年１月 17 日	宅地造成	現地作業	153	51
6	恒武西宮遺跡 32 次	東区恒武町	2022 年１月 12 日～３月 25 日	工場建設	現地作業	1,400	51

中屋遺跡 17 次　調査区全景



隋国遺跡１次　調査区全景



別所前遺跡７次　調査状況

増楽遺跡 16 次　調査状況

芝本遺跡 32 次　Ａ区遺構検出状況

恒武西宮遺跡 32 次　Ｂ区全景（南西から）

令和３年度試掘・確認調査一覧

No.	遺　跡　名	所　在　地	調　査　月　日	調 査 原 因	区　分	調査面積（約㎡）	掲載頁
1	村裏遺跡 10 次	南区東若林町	2021 年４月 19 日	個人住宅建設	現地作業	8	52
2	村裏遺跡 11 次	南区東若林町	2021 年４月 28 日	個人住宅建設	現地作業	4.5	52
3	大塚古墳群１次	中区住吉五丁目	2021 年５月 11 日～ 14 日	集合住宅建設	現地作業	50.5	53
4	若林町村西遺跡 16 次	南区若林町	2021 年５月 10 日	道路拡幅	現地作業	7	56
5	馬生遺跡３次	中区和合町	2021 年６月８日	集合住宅建設	現地作業	38	56
6	新橋町村東遺跡４次	南区新橋町	2021 年６月 14 日	個人住宅建設	現地作業	9	57
7	浜松城跡 43 次	中区元城町	2021年6月21日～ 2022年3月18日	遺構残存状況確認	現地作業	1,180	57
8	笠井若林遺跡 17 次	東区笠井町	2021 年６月 22 日、24 日	擁壁設置	現地作業	30	58
9	北浦遺跡１次	西区馬郡町	2021 年６月 23 日	工場建設	現地作業	36	59
10	深萩古墳群３次	西区深萩町	2021 年７月 22 日	道路舗装修繕	現地作業	3	60
11	浜松城下町遺跡 19 次	中区菅原町	2021 年７月 26 日	個人住宅建設	現地作業	5	60
12	大山寺旧境内遺跡２次	西区大山町	2021 年７月 28 日、29 日	工場建設	現地作業	52	61
13	亀ヶ原遺跡２次	西区舞阪町舞阪	2021 年８月２日	集合住宅建設	現地作業	12	63
14	別当遺跡１次	西区馬郡町	2021 年８月５日	宅地造成	現地作業	24	64
15	殿畑遺跡４次	北区三ヶ日町三ヶ日	2021 年８月 31 日	個人住宅建設	現地作業	11	65
16	別所前遺跡６次	東区市野町	2021 年９月６日、７日	水道管埋設	現地作業	16	65
17	篠原町西前遺跡８次	西区篠原町	2021 年９月６日	個人住宅建設	現地作業	13.5	66
18	染地遺跡３次	東区半田山四丁目	2021 年９月 14 日～９月 16 日	工場建設	現地作業	100	66
19	若林町村西遺跡 17 次	南区若林町	2021 年 10 月７日	集合住宅建設	現地作業	6.75	68
20	芝本遺跡 31 次	浜北区於呂	2021 年 10 月 11 日、12 日	宅地分譲	現地作業	460	68
21	万斛遺跡５次	東区中郡町	2021 年 10 月 14 日	擁壁設置	現地作業	16	71
22	浜松城下町遺跡 20 次	中区菅原町	2021 年 10 月 26 日	集合住宅建設	現地作業	16	71
23	根本山古墳群７次	西区呉松町	2021 年 11 月 16 日	無線基地局建設	現地作業	2.89	72
24	畷東遺跡隣接地５次	中区東伊場二丁目	2021 年 11 月 18 日	鉄道施設建設	現地作業	20	73
25	高塚町村中遺跡３次	南区高塚町	2021 年 11 月 29 日	事務所建設	現地作業	7	74
26	庄屋遺跡２次	南区新貝町	2021 年 12 月６日	宅地造成	現地作業	24	74
27	城山遺跡 20 次	南区若林町	2021 年 12 月 20 日、21 日	事務所建設	現地作業	22	75
28	浜松城下町遺跡 21 次	中区常盤町	2021 年 12 月 21 日	集合住宅建設	現地作業	7	76
29	宮東遺跡２次	浜北区寺島	2022 年１月 13 日	宅地分譲	現地作業	24	77
30	高塚遺跡 17 次	南区高塚町	2022 年２月１日～３日	土地区画整理	現地作業	24	77
31	恒武西宮遺跡隣接地 33 次	東区貴平町	2022 年２月７日	砂利採取	現地作業	32	78
32	小沢渡町村中東遺跡２次	南区小沢渡町	2022 年２月７日	個人住宅建設	現地作業	8.5	79
33	日晩遺跡 14 次	南区増楽町	2022 年２月 14 日	集合住宅建設	現地作業	12	79
34	椋木遺跡８次	東区子安町	2022 年２月 16 日	個人住宅建設	現地作業	6	80
35	浜松城下町遺跡 22 次	中区常盤町	2022 年２月 17 日	個人住宅建設	現地作業	4	80
36	笠井上組遺跡 13 次	東区笠井町	2022 年２月 25 日	個人住宅建設	現地作業	4.5	81
37	市野遺跡９次	東区市野町	2022 年３月２日、３日	福祉施設建設	現地作業	36	81
38	東原遺跡 48 次	浜北区新原	2022 年３月７日、８日	店舗建設	現地作業	130	84
39	恒武西宮遺跡 34 次	東区恒武町	2022 年３月 14 日～ 16 日	事務所建設	現地作業	76	84
40	福長古墳群１次	北区三ヶ日町福長	2022 年３月 23 日～ 25 日	保存活用	現地作業	8	87

令和３年度工事立会い一覧

No.	遺　跡　名	所　在　地	調　査　月　日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
1	笠井上組遺跡	東区笠井町	2021年４月９日	なし	－
2	釣遺跡	北区三ヶ日町釣	2021年４月11日	なし	－
3	村東遺跡	南区東若林町	2021年４月12日	土師器小片（甕の頸部、７世紀代か）	－
4	向山Ⅰ遺跡、向山B古墳群	浜北区於呂	2021年４月15日	なし	－
5	東原遺跡	浜北区新原	2021年４月20日	なし	－
6	大蒲町村東Ⅱ遺跡	東区大蒲町	2021年５月６日	なし	－
7	中屋遺跡	浜北区根堅	2021年５月10日	なし	－
8	浜松城下町遺跡	中区田町	2021年５月10日	整地層か	－
9	西畑屋遺跡	東区有玉南町	2021年５月11日	土師器片（甕）	－
10	新橋町村東遺跡	南区新橋町	2021年５月14日	なし	－
11	畷東遺跡	中区森田町	2021年５月21日	なし	－
12	上界土遺跡	天竜区青谷	2021年５月31日	時期不明の小穴	－
13	国方遺跡	西区篠原町	2021年６月１日	土師器片	－
14	木船廃寺跡	東区和田町	2021年６月15日	なし	－
15	芝本遺跡	浜北区於呂	2021年６月17日	なし	－
16	大通西遺跡	東区豊町	2021年６月17日	なし	－
17	熱田平遺跡	北区都田町	2021年６月18日	なし	－
18	中屋遺跡	浜北区根堅	2021年６月18日	なし	－
19	中嶋遺跡	北区三ヶ日町上尾奈	2021年６月21日	なし	－
20	新橋町村東遺跡	南区新橋町	2021年６月29日	なし	－
21	増楽町村中遺跡	南区増楽町	2021年７月２日	土坑もしくは溝か／須恵器片	88
22	山ノ花遺跡	東区恒武町	2021年７月６日	土師器	88
23	笠井下組遺跡	東区笠井町	2021年７月７日	なし	－
24	北平遺跡	北区三ヶ日町都筑	2021年７月８日	なし	－
25	宮前遺跡	東区豊町	2021年７月12日	土師器の細片	－
26	橋爪遺跡	東区中郡町	2021年７月13日	山茶碗、かわらけ、近世陶器、須恵器	－
27	村東遺跡	南区東若林町	2021年７月16日	なし	－
28	中嶋遺跡	北区三ヶ日町上尾奈	2021年７月17日	なし	－
29	中村遺跡	中区東伊場一丁目	2021年７月17日	なし	－
30	奥山館跡	北区引佐町奥山	2021年７月19日	なし	－
31	中村遺跡	北区引佐町奥山	2021年７月19日	なし	－
32	東原遺跡	浜北区於呂	2021年7月19日、20日、21日、27日	溝、小穴／弥生土器	89
33	川久保船渡遺跡	北区細江町中川	2021年７月27日、８月24日	土師器	－
34	浜松城下町遺跡	中区山下町	2021年８月10日	なし	－
35	川久保遺跡	北区細江町中川	2021年８月23日	なし	－
36	篠原町西前遺跡	西区篠原町	2021年８月23日	なし	－
37	新屋遺跡	浜北区宮口	2021年８月24日	なし	－
38	増楽遺跡	南区若林町	2021年８月25日	なし	－
39	高塚町村西遺跡	南区高塚町	2021年８月26日	なし	－
40	井下石遺跡	浜北区内野	2021年９月14日	小穴、土坑もしくは溝か／山茶碗片	－
41	鳥居松遺跡	中区森田町	2021年９月21日	なし	－
42	若林町村西遺跡	南区若林町	2021年10月11日	なし	－
43	篠原町仲村遺跡	西区篠原町	2021年10月14日	なし	－
44	西脇前遺跡	東区市野町	2021年10月21日	なし	－
45	金指陣屋跡	北区引佐町金指	2021年10月22日	なし	－
46	増楽町村北遺跡	南区増楽町	2021年10月25日	なし	－
47	浜松城跡	中区元城町	2021年10月29日	なし	－
48	万斛遺跡	東区中郡町	2021年11月11日	なし	－
49	浜松城下町遺跡	中区高町	2021年11月12日、18日、12月７日、17日	なし	－
50	中屋遺跡	浜北区根堅	2021年11月19日	なし	－
51	小林山の神遺跡	浜北区小林	2021年11月22日	なし	－
52	東町城山遺跡	南区東町	2021年12月６日	なし	－

No.	遺　跡　名	所　在　地	調　査　月　日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
53	宮東遺跡	浜北区寺島	2021 年 12 月 6 日	なし	―
54	中屋遺跡	浜北区根堅	2021 年 12 月 14 日	落ち込み	―
55	芝本遺跡	浜北区於呂	2021 年 12 月 14 日	落ち込み	―
56	東原遺跡	浜北区新原	2021 年 12 月 16 日、 2022 年 1 月 18 日、26 日	なし	―
57	国方遺跡	西区篠原町	2021 年 12 月 17 日	なし	―
58	西畑屋遺跡	東区有玉南町	2021 年 12 月 17 日	なし	―
59	中屋遺跡	浜北区根堅	2021 年 12 月 27 日	なし	―
60	小林山の神遺跡	浜北区小林	2022 年 1 月 12 日	なし	―
61	内野上古墳群 （稲荷山古墳）	浜北区内野台	2022 年 1 月 18 日	なし	―
62	神田遺跡	中区神田町	2022 年 2 月 4 日	なし	―
63	百々原遺跡	天竜区渡ヶ島	2022 年 2 月 9 日、3 月 30 日	なし	―
64	浜松城下町遺跡	中区利町	2022 年 2 月 14 日	なし	―
65	東原遺跡	浜北区於呂	2022 年 2 月 22 日	溝 / 弥生土器	90
66	都田町本村遺跡	北区都田町	2022 年 3 月 4 日	なし	―
67	寺西遺跡	南区飯田町	2022 年 3 月 10 日	なし	―
68	浜松城跡	中区元城町	2022 年 3 月 14 日	なし	―
69	浜松城跡	中区松城町	2022 年 3 月 16 日	なし	―

増楽町村中遺跡　土層堆積状況

山ノ花遺跡　土層堆積状況

東原遺跡　遺構検出状況

東原遺跡　立会箇所東端

令和３年度踏査一覧

No.	遺　跡　名	所　在　地	調　査　月　日	検出遺構／出土遺物	掲載頁
1	本坂後藤（源兵衛） 屋敷跡隣接地	北区三ヶ日町本坂	2021 年 5 月 23 日	土塁／なし	―
2	御馬ヶ池古墳群	浜北区於呂	2022 年 3 月 16 日	なし	―

第２章　本発掘調査概要

１　中屋遺跡17次（なかやいせき）

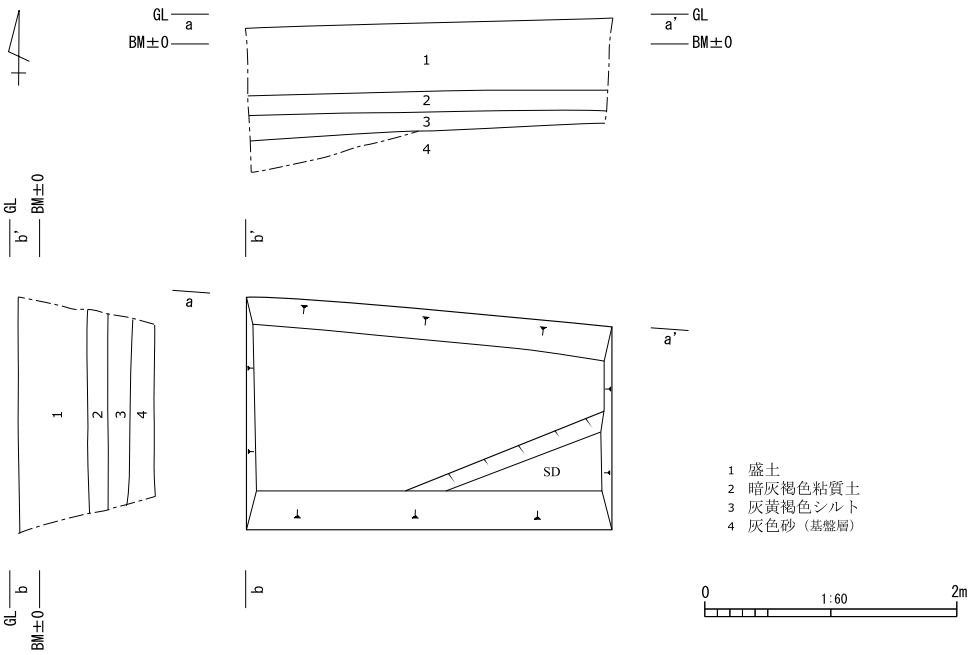
所 在 地　浜北区根堅 249-19
調査期間　2021 年７月５日
調査原因　個人住宅建設
調査面積　36 ㎡
調査概要　調査区東部で大型の溝を検出した。中世の方形区画を囲んでいた大溝の一部と考えられる。
　詳細は４章１（91 頁に掲載）。

位置図（5,000分の１）

２　隋国遺跡１次（ずいごくいせき）

所 在 地　東区笠井上町 282
調査期間　2021 年９月６日
調査原因　介護施設建設
調査面積　３㎡
調査概要　溝と思われる遺構を検出したが、遺物は確認できなかった。

位置図（2,500分の１）



調査区平面図及び土層断面図（S=1/60）

３　別所前遺跡７次（べっしょまえいせき）

所 在 地　東区市野町地内
調査期間　2021 年 11 月 9 日、10 日、2022 年２月 21 日～ 25 日
調査原因　水道管埋設
調査面積　60 ㎡
調査概要　わずかに遺構を確認し、弥生時代の遺物が出土した。遺構・遺物ともに密度が低く、弥生時代の集落の縁辺部にあたると考えられる。
　詳細は４章２（99 頁に掲載）。

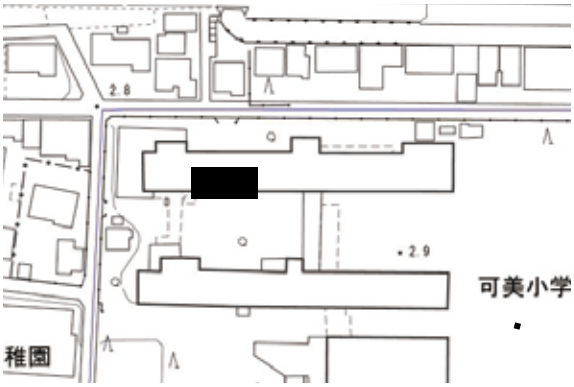
位置図（2,500分の１）

完掘状況（南西から）

出土遺物

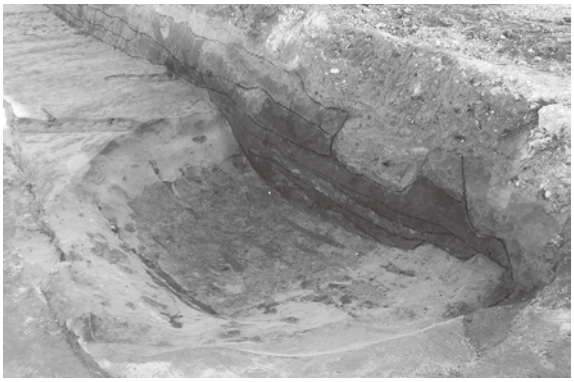
４　増楽遺跡 16 次（ぞうらいせき）

所 在 地　南区若林町 1748
調査期間　2021 年 11 月 30 日～ 12 月 14 日
調査原因　校舎改築　　**調査面積**　160 ㎡
調査概要　調査区内の多くは攪乱の影響を受けてはいるものの、古代を中心とした遺構・遺物が確認された。また僅かではあるが中世の遺物も確認されたことから、周辺に中世の遺跡が展開していると考えられる。
　詳細は『増楽遺跡』(2023 年３月刊行) に掲載。



位置図（2,500分の１）

調査区全景（北西から）


井戸検出状況

5　芝本遺跡（しばもといせき）32 次

所 在 地　浜北区於呂 2864-1、2864-28
調査期間　2021 年 12 月 20 日～ 23 日、2022 年 1 月 17 日
調査原因　宅地造成
調査面積　153 ㎡
調査概要　いずれの調査区においても遺物・遺構を確認した。段丘端を中心に弥生時代後期の集落跡が一帯に広がっていると考えられる。
　詳細は４章３（101 頁に掲載）。

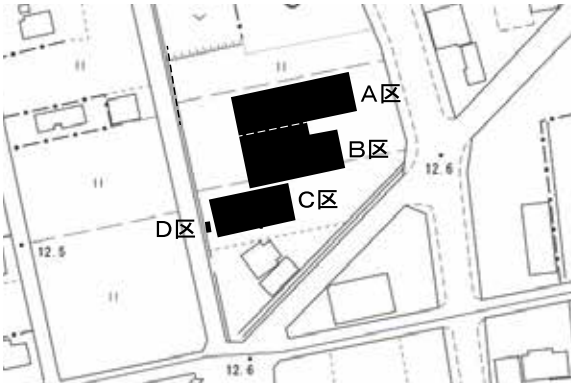
位置図（2,500分の１）

A区全景（南西から）

B区全景（南西から）

6　恒武西宮遺跡（つねたけにしみやいせき）32 次

所 在 地　東区恒武町 225-1、226-1 外
調査期間　2022 年１月 12 日～３月 25 日
調査原因　工場建設　**調査面積**　1,400 ㎡
調査概要　６世紀後半から７世紀前半の遺構・遺物を多く確認した。住居跡と見られる遺構がほぼ見られないことや石製の玉類が出土したことから、居住域ではなく祭祀にかかわる場所として利用されていた可能性が考えられる。
　詳細は『恒武西宮遺跡７』(2022 年 11 月刊行）に掲載。



位置図（2,500分の１）

C区全景（北東から）

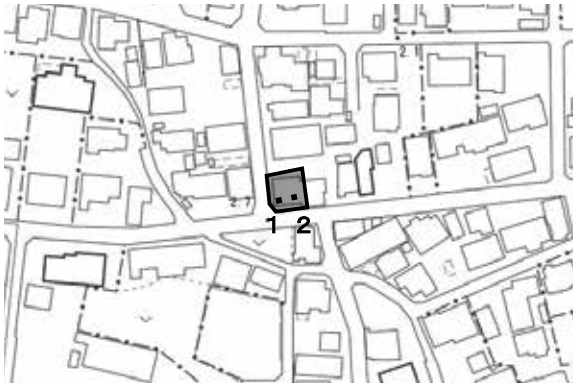
遺物出土状況

第３章　試掘・確認・立会等調査報告

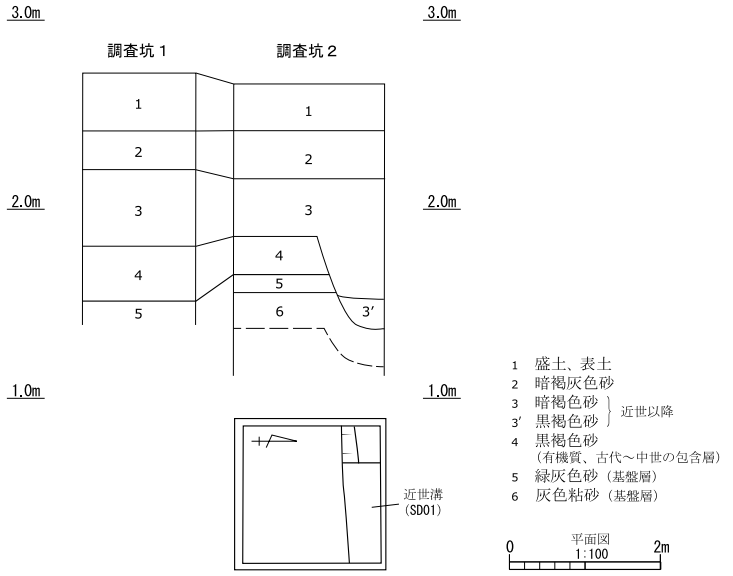
試掘・確認調査報告

１　村裏遺跡（むらうらいせき）10 次

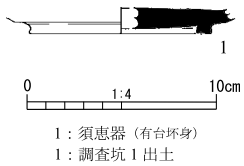
所 在 地　南区東若林町 658-1
調査期間　2021 年４月 19 日
調査原因　個人住宅建設
調査面積　８㎡
検出遺構　なし
出土遺物　土師器、須恵器、灰釉陶器、中世陶器
調査結果　古代・中世を中心とした遺物が出土した。遺構は確認できなかった。
調査担当　和田達也



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

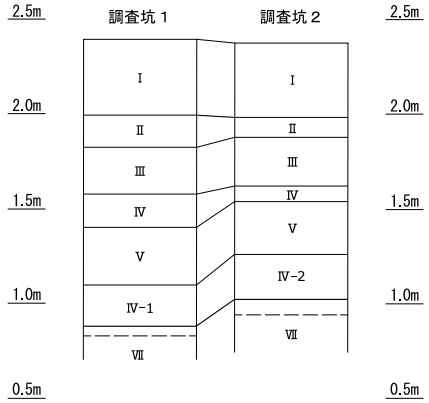


出土遺物実測図

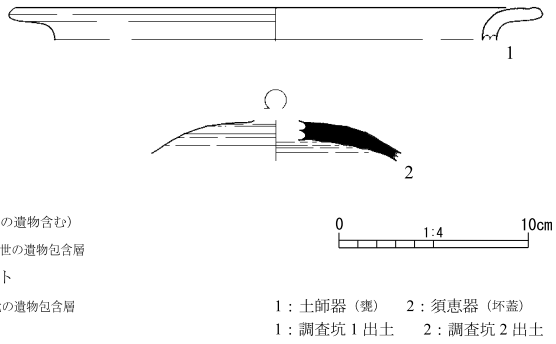
２　村裏遺跡（むらうらいせき）11 次

所 在 地　南区東若林町 1108-5
調査期間　2021 年４月 28 日
調査原因　個人住宅建設
調査面積　4.5 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　土師器、須恵器、かわらけ
調査結果　古代と中世の遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。
調査担当　川西啓喜

位置図（2,500分の1）



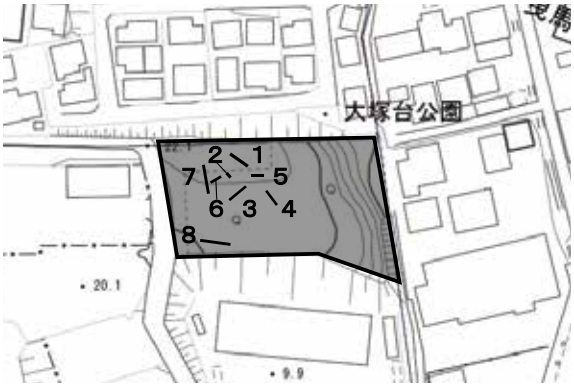
土層柱状図（S=1/40）



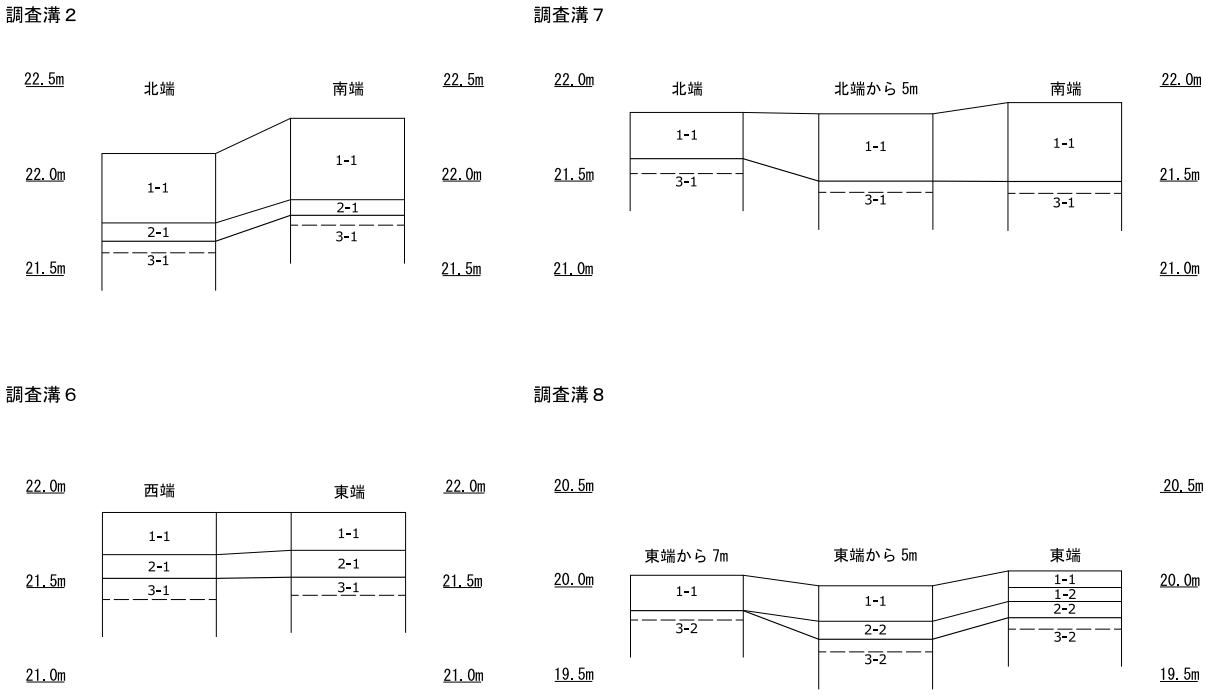
出土遺物実測図

3　大塚古墳群（おおつかこふんぐん）１次

所 在 地　中区住吉五丁目 347-10 外
調査期間　2021 年５月 11 日～ 14 日
調査原因　集合住宅建設
調査面積　50.5 ㎡
検出遺構　周溝・埋葬施設（横穴式木室か）
出土遺物　縄文土器、須恵器
調査結果　周溝を検出し、わずかに遺物が出土した。
調査担当　川西啓喜、和田達也

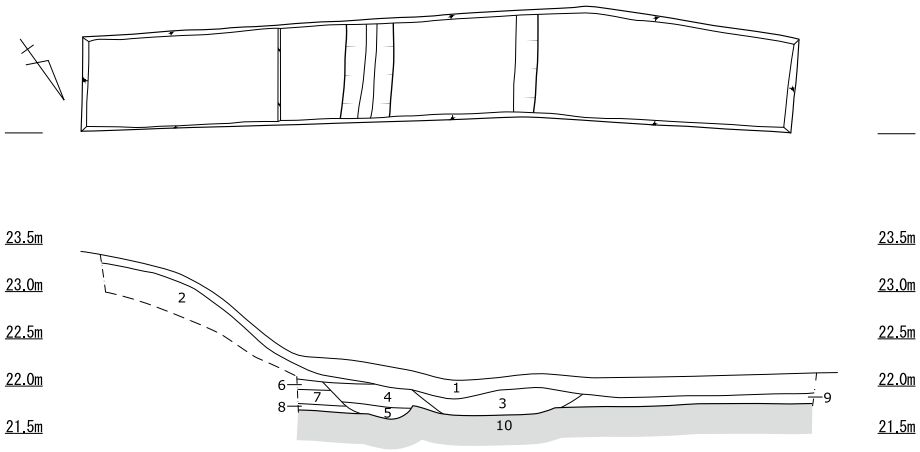


位置図（2,500分の1）



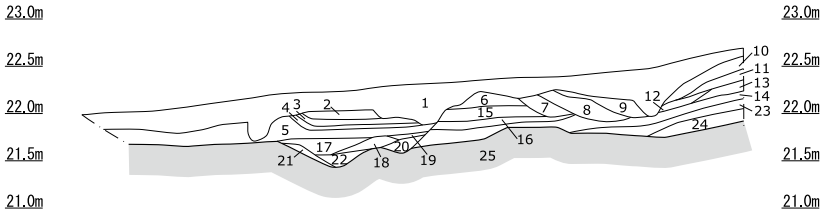
土層柱状図（S=1/40）

調査溝１



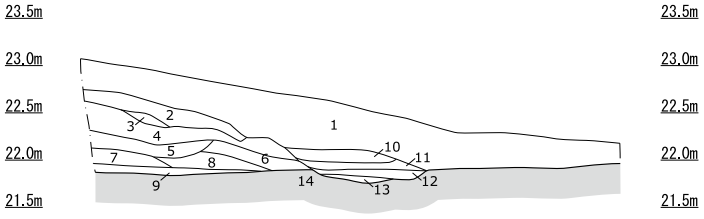
1　表土
2　暗褐灰色土　} 流土・墳丘崩落土
3　褐色粘質土
4　暗黄褐色土
5　暗褐色粘質土　} 周溝埋土
6　暗褐色土（褐色～暗黄褐色土の塊を含む）
7　暗褐色粘質土（褐色～暗黄褐色土の塊を含む）} 墳丘盛土
8　暗褐色粘質土（粘性強い）} 旧表土
9　暗褐色粘質土 } 旧表土か？
10　黄橙色粘質土（礫含む）} 基盤層

調査溝３



1　表土
2　暗灰色砂質土
3　灰褐色砂質土
4　褐色砂質土
5　灰褐色砂質土
6　明黄色粘質土（φ１～3cm 程度の礫を含む）
7　灰褐色砂質土
8　明黄色砂質土（φ１～3cm 程度の礫を含む）
9　黒灰色粘質土
10　暗灰褐色砂質土 } 流土・墳丘崩落土
11　褐灰色粘質土
12　褐灰色砂質土
13　黒灰色粘質土
14　暗褐灰色粘質土
15　褐灰色砂質土
16　暗灰褐色砂質土
17　灰褐色粘質土
18　黄灰色粘質土
19　褐灰色粘質土（φ１～3cm 程度の礫を含む）
20　橙色粘質土（φ１～3cm 程度の礫を含む）
} 墳丘盛土
} 周溝埋土
21　褐色粘質土
22　褐灰色粘質土 } 周溝埋土
23　褐灰色粘質土
24　褐色粘質土 } 旧表土
25　橙色粘土 } 基盤層

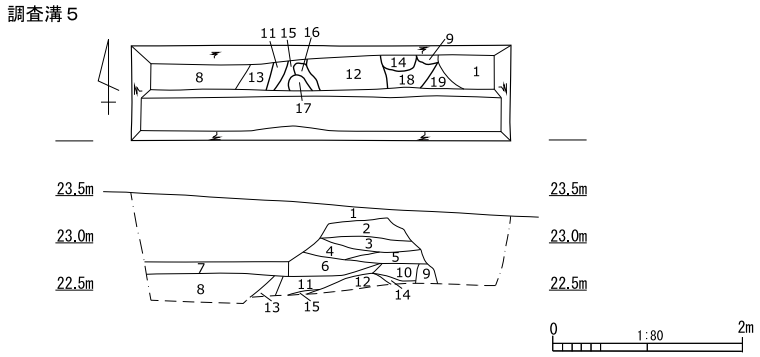
調査溝４

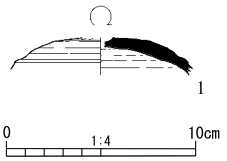


0　1:80　2m

1　表土
2　暗褐色砂質土
3　褐灰色砂質土
4　黒褐粘質土
5　褐灰色砂質土
6　暗褐色砂質土
7　黒灰色粘質土
8　褐灰色粘質土
} 墳丘盛土
9　褐色粘質土 } 旧表土
10　褐灰色砂質土
11　褐色砂質土 } 流土・墳丘崩落土
12　褐灰色砂質土
13　褐色砂質土（φ１～3cm 程度の礫を含む）} 周溝埋土
14　橙色粘土（φ１～3cm 程度の礫を含む）} 基盤層

詳細図（１）





1：須恵器（坏蓋）
1：調査溝４出土

出土遺物実測図

1　明黄色砂礫
2　暗褐色砂質土（礫含む）
3　黄灰色砂質土
4　暗褐色砂質土
5　褐灰色砂質土
6　黄灰色砂質土
7　灰褐色砂礫
8　灰褐色砂質土
9　暗灰褐色砂質土
10　褐灰色砂質土（炭化物含む）

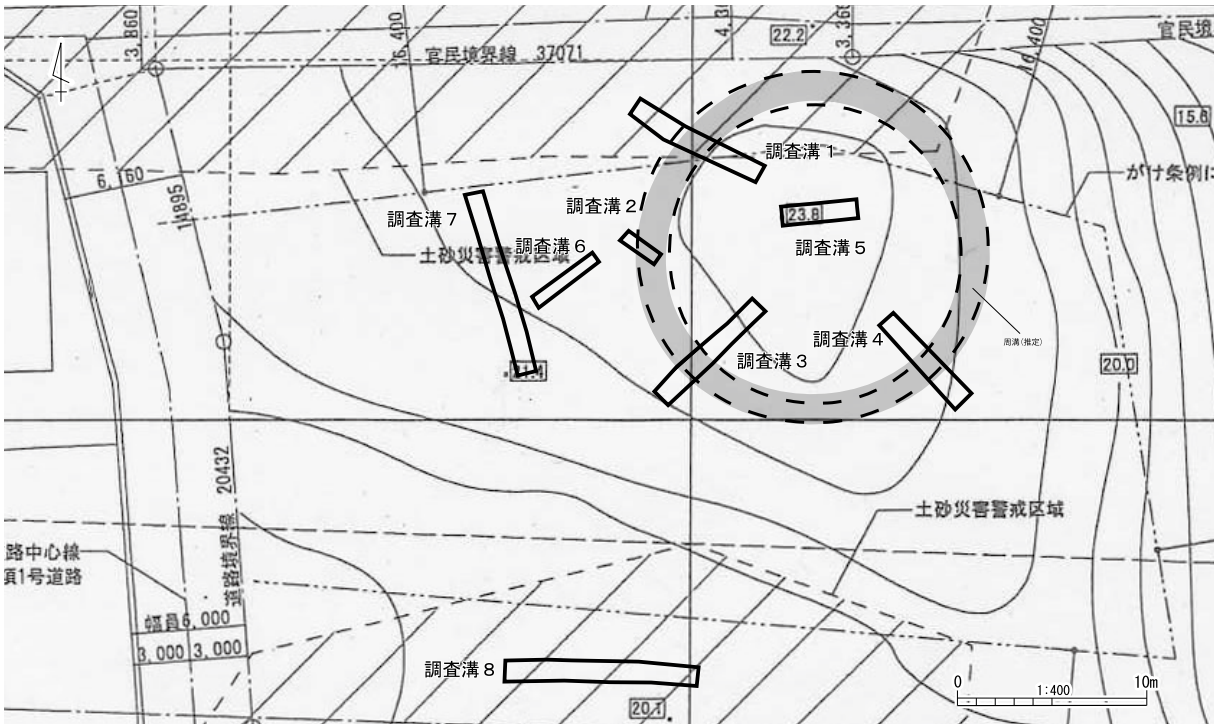
撹乱土

埋葬施設埋土

11　褐灰色砂質土（黒色砂質土ブロックを含む）
12　黒灰色砂質土（赤色粒子を含む）
13　灰褐色砂質土
14　褐灰色砂質土（黄灰色砂質土ブロックを含む）
15　暗褐色砂質土
16　黄灰色粘質土
17　暗褐灰色粘質土
18　暗褐色粘質土
19　黒褐色粘質土と淡黄色粘質土の混層

埋葬施設埋土

詳細図（２）



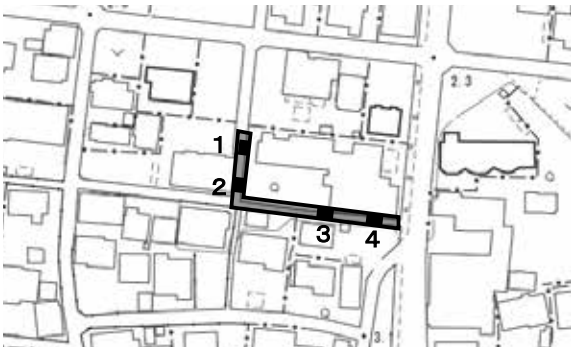
墳丘復元図（S=1/400）

調査溝３土層堆積状況

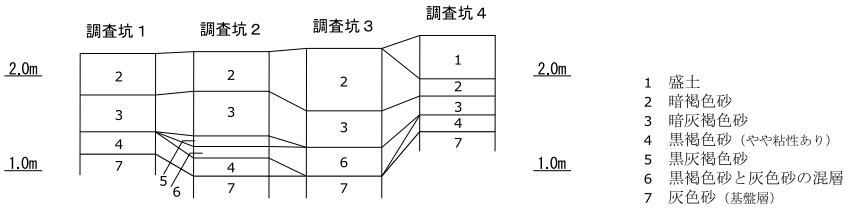
調査溝５完掘状況

4　若林町村西遺跡 16 次（わかばやしちょうむらにしいせき）

所 在 地　南区若林町 1183-2 外
調査期間　2021 年 5 月 10 日
調査原因　道路拡幅　　**調査面積**　7 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　土師器、かわらけ、施釉陶器
調査結果　わずかに遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　井口智博



位置図（2,500分の1）

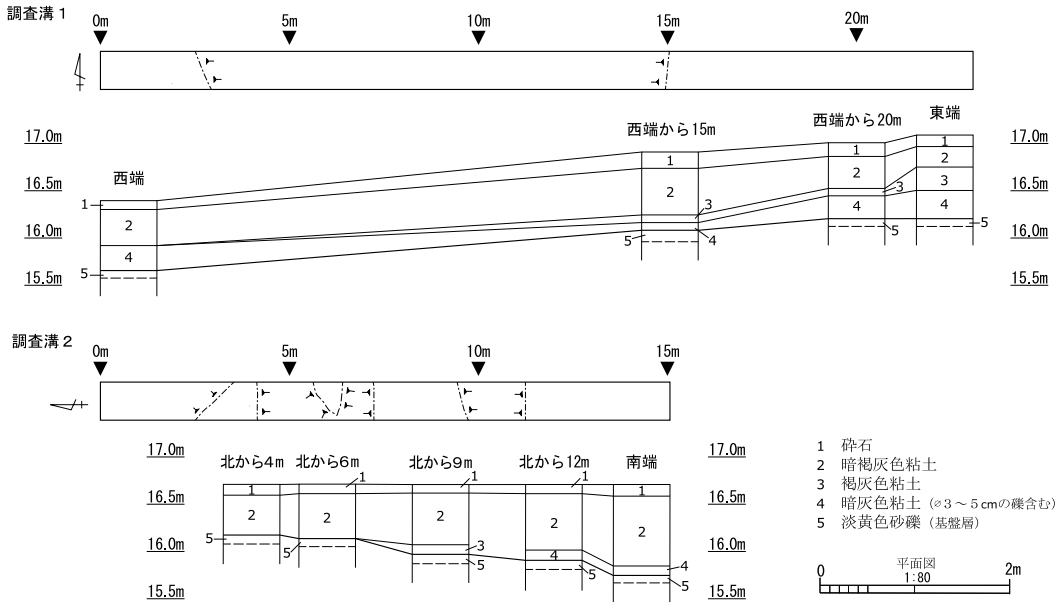


土層柱状図（S=1/80）

5　馬生遺跡３次（ばしょういせき）

所 在 地　中区和合町字札木 16-1
調査期間　2021 年 6 月 8 日
調査原因　集合住宅建設　　**調査面積**　38 ㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　川西啓喜

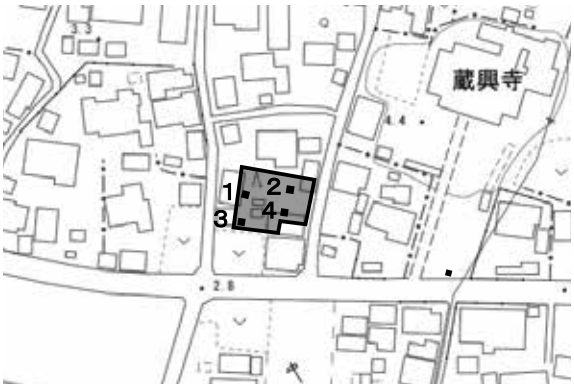
位置図（2,500分の1）



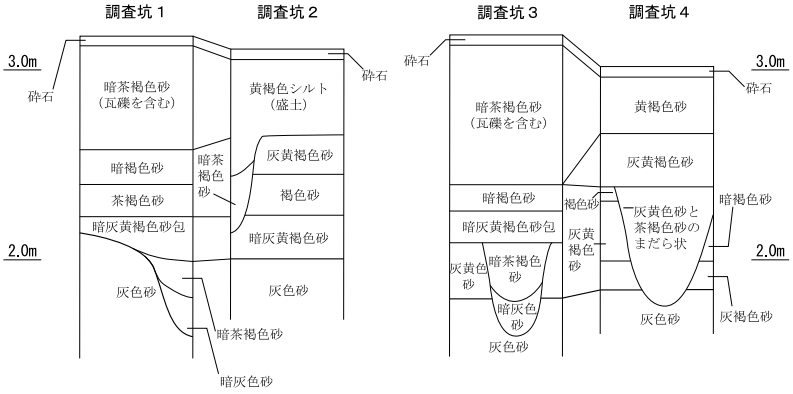
土層柱状図（S=1/80）及び平面図（S=1/80）

6　新橋町村東遺跡４次（にっぱしちょうむらひがしいせき）

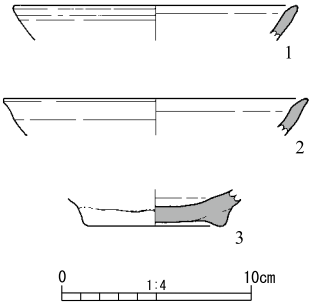
所 在 地　南区新橋町 1332
調査期間　2021 年 6 月 14 日
調査原因　個人住宅建設　　**調査面積**　9 ㎡
検出遺構　溝（中世）
出土遺物　須恵器（奈良）、灰釉陶器（平安）、山茶碗、かわらけ（中世）
調査結果　遺構・遺物を確認した。一部に遺跡が残存していると考えられる。
調査担当　井口智博



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）



1～3：中世陶器（山茶碗）
1：調査坑 1 出土　2・3：調査坑 3 出土

出土遺物実測図

7　浜松城跡 43 次（はままつじょうあと）

所 在 地　中区元城町 100-2
調査期間　2021 年 6 月 21 日～ 2022 年 3 月 18 日
調査原因　遺構残存状況確認
調査面積　1,180 ㎡
検出遺構　石垣、庭園、雨落ち溝、礎石など
出土遺物　瓦、陶磁器、土師質土器
調査結果　二の丸御殿とみられる建物基礎を検出し、詳細な構造が明らかになった。
調査担当　和田達也

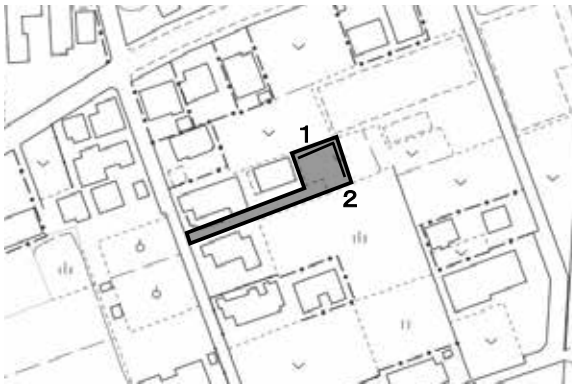
位置図（5,000分の1）

二の丸御殿礎石検出状況

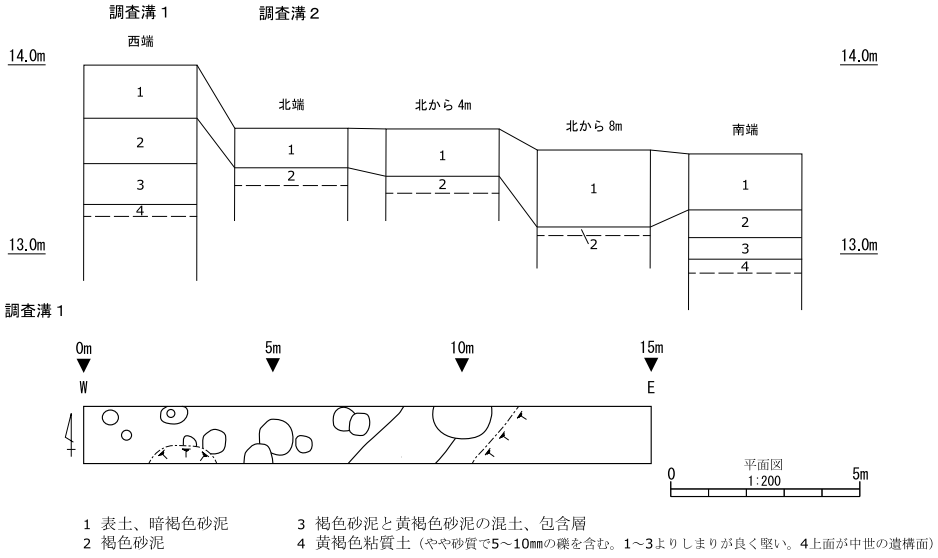
二の丸御殿庭園検出状況

8　笠井若林遺跡（かさいわかばやしいせき）17 次

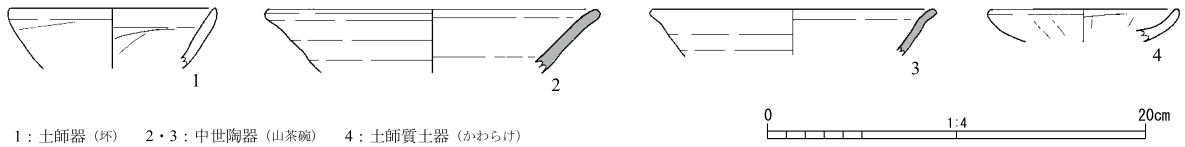
所 在 地　東区笠井町字若林 1528-1、1528-5
調査期間　2021 年 6 月 22 日、24 日
調査原因　擁壁設置　　**調査面積**　30 ㎡
検出遺構　小穴、土坑、溝（中世）
出土遺物　土師器（古代）、山茶碗、かわらけ（中世）
調査結果　遺構・遺物を確認した。
調査担当　栗原雅也、川西啓喜



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）及び平面図（S=1/200）



1：土師器（坏）　2・3：中世陶器（山茶碗）　4：土師質土器（かわらけ）
1・2・4：包含層出土　3：SX01 出土

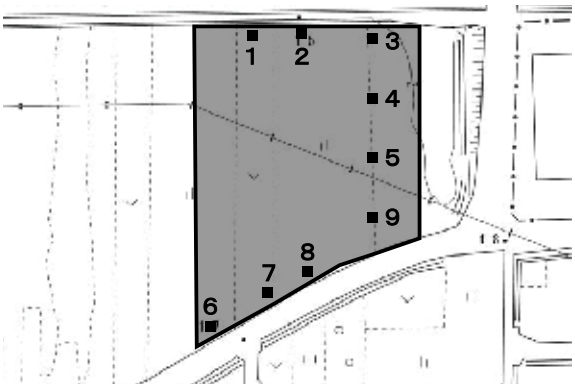
出土遺物実測図

調査溝１溝状遺構検出状況

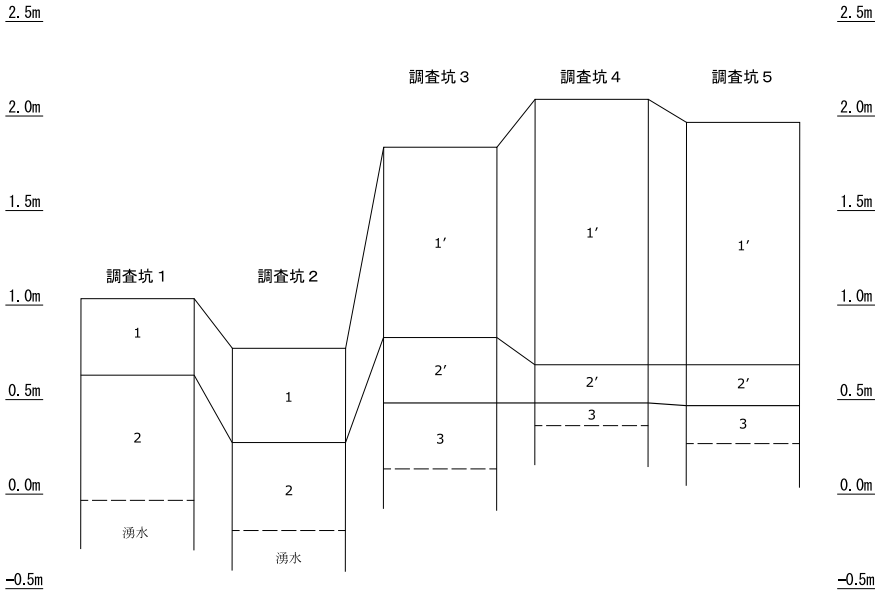
調査溝２完掘状況

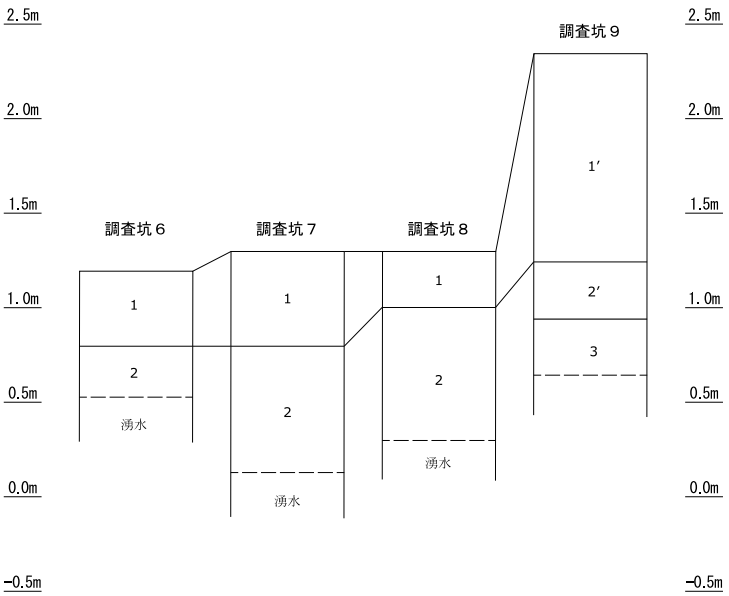
９　北浦遺跡（きたうらいせき）１次

所 在 地　西区馬郡町 1186-25 外
調査期間　2021 年 6 月 23 日
調査原因　工場建設
調査面積　36 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　川西啓喜



位置図（2,500分の1）





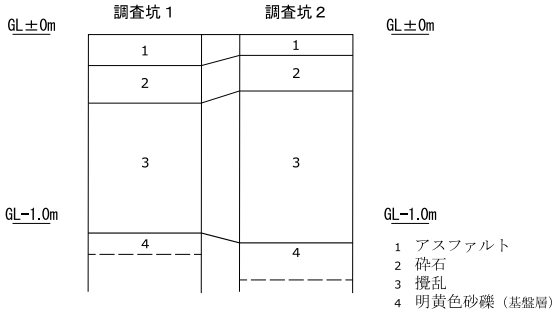
1　表土
1′ 盛土
2　灰白色砂（現代の遺物を含む）
2′ 灰褐色砂（暗灰褐色ブロックが混じる）
3　灰色砂（基盤層）

土層柱状図（S=1/40）

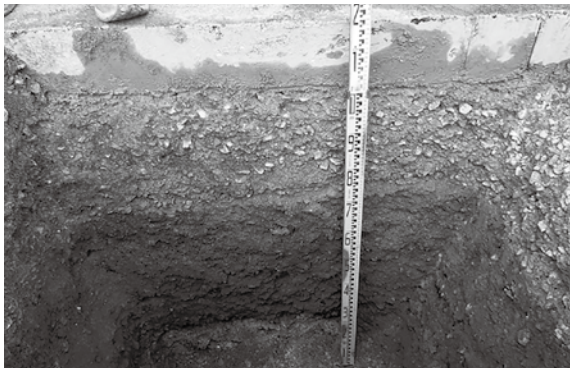
10　深萩古墳群（ふかはぎこふんぐん）３次

所 在 地　西区深萩町地内
調査期間　2021 年 7 月 22 日
調査原因　道路舗装修繕
調査面積　３㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査担当　川西啓喜

位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

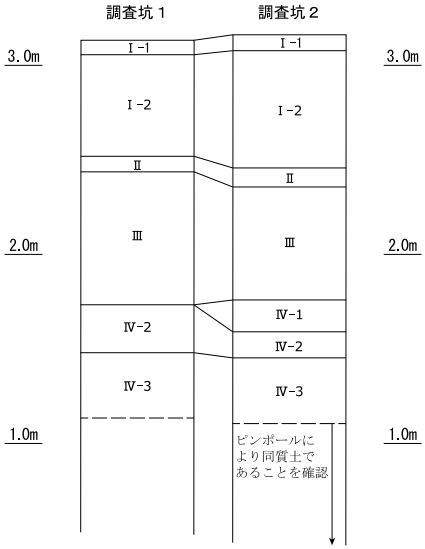


調査坑１土層堆積状況

11　浜松城下町遺跡（はままつじょうかまちいせき）19 次

所 在 地　中区菅原町字町下 261-2、261-42
調査期間　2021 年 7 月 26 日
調査原因　個人住宅建設
調査面積　５㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　和田達也

位置図（2,500分の1）



Ⅰ層　現代の土層、表土
Ⅰ-1　砕石
Ⅰ-2　暗褐色礫土
（近代瓦・焼土など多く含む）

Ⅱ層　戦災焼土、炭化物層
Ⅱ-1　焼土、炭化物層

Ⅲ層　近世から近代の土層
Ⅲ-1　黄色礫土（造成土か）

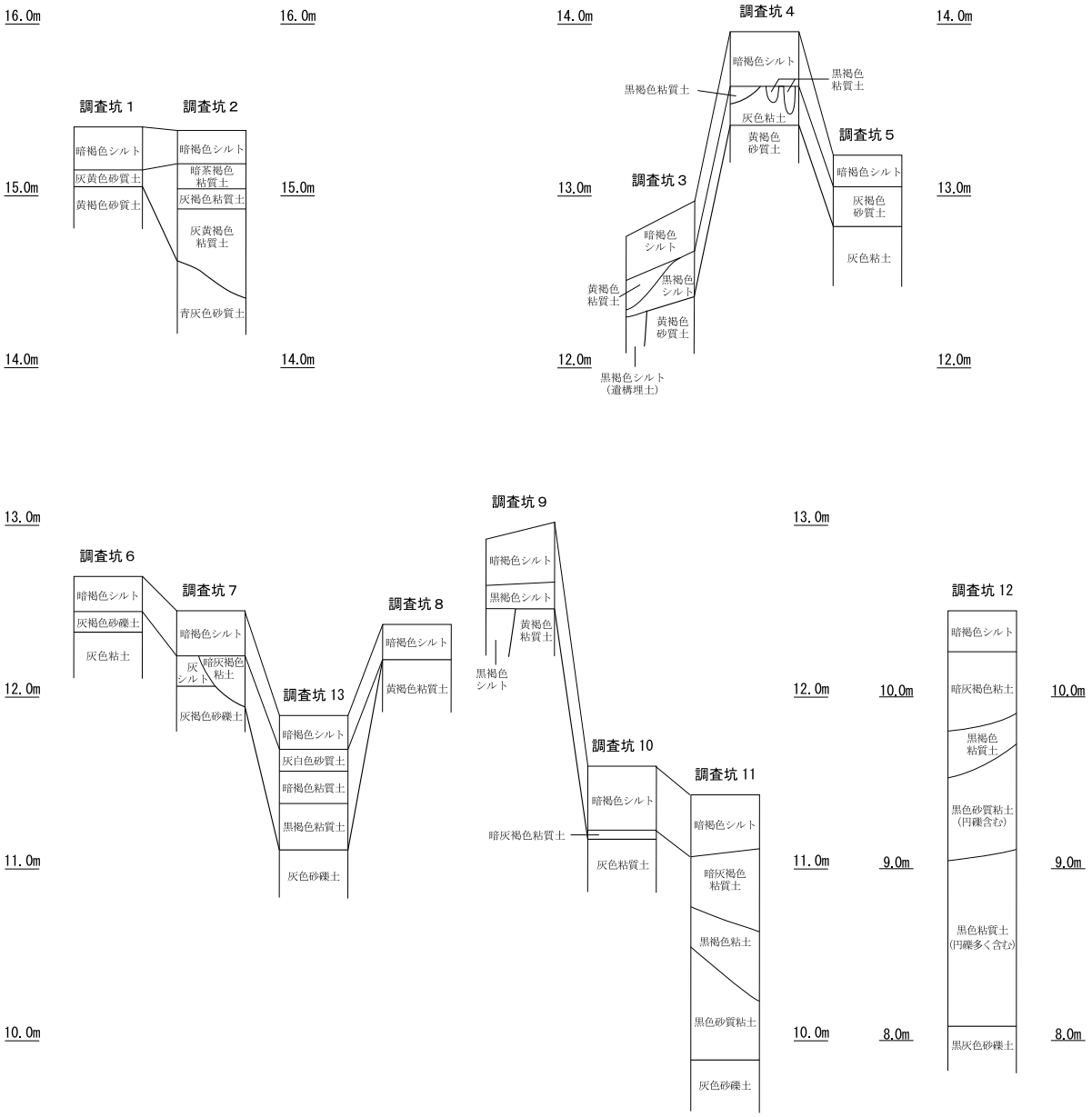
Ⅳ層　自然堆積土
Ⅳ-1　暗灰色粘土
Ⅳ-2　緑灰色粘土
Ⅳ-3　青灰色シルト

土層柱状図（S=1/40）

12　大山寺旧境内遺跡２次（だいせんじきゅうけいだいいせき）

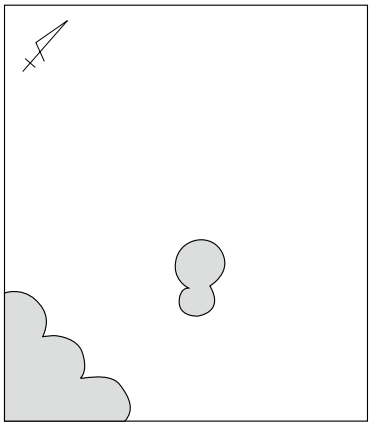
所 在 地　西区大山町 25 外
調査期間　2021 年 7 月 28 日、29 日
調査原因　工場建設
調査面積　52 ㎡
検出遺構　小穴、井戸（中世）
出土遺物　土師器（古墳）、山茶碗、かわらけ、内耳鍋、施釉陶器（中世）
調査結果　遺構を検出し、中世を主体とした遺物が出土した。一部に遺跡が残存していると考えられる。
調査担当　井口智博

位置図（2,500分の1）



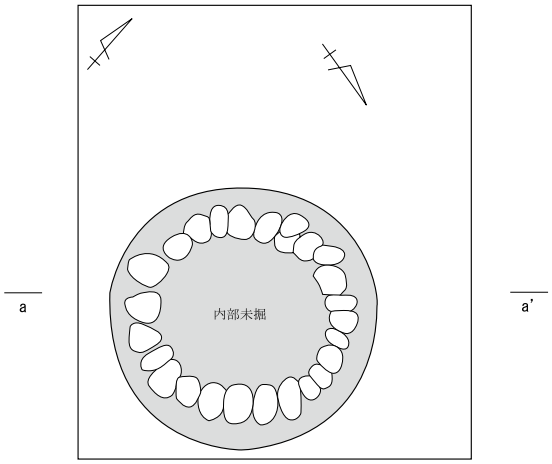
土層柱状図（S=1/40）

調査坑３

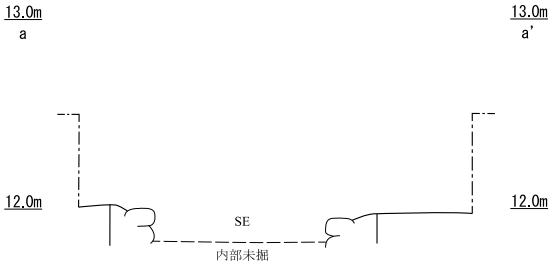


中世（戦国）SP 検出

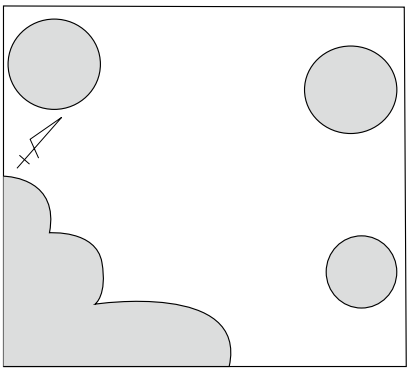
調査坑７



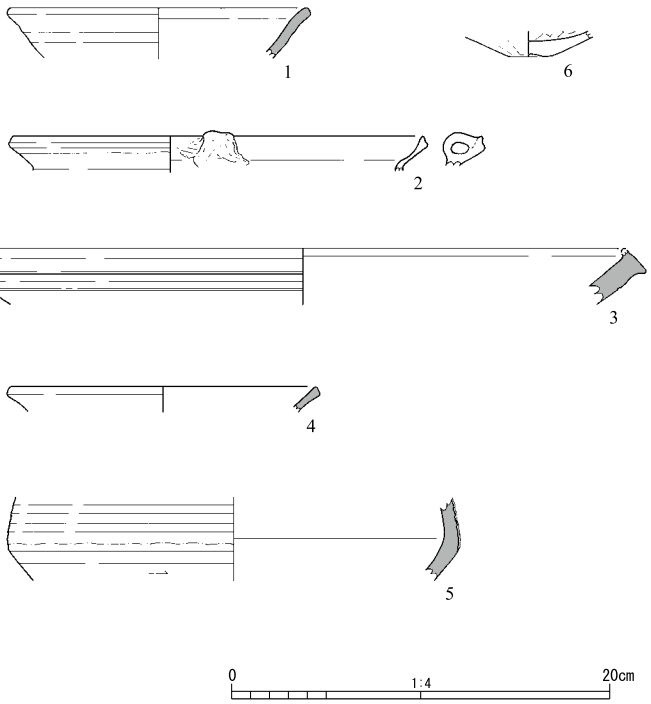
中世（戦国）SE 検出



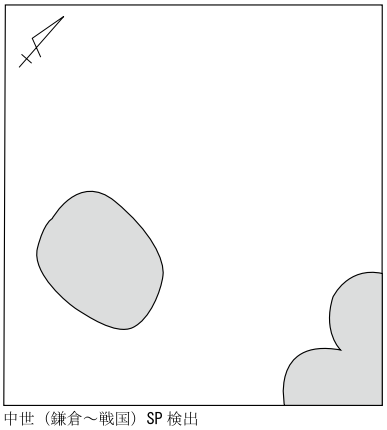
調査坑９



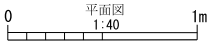
中世（戦国か）SP 検出



調査坑 10



中世（鎌倉～戦国）SP 検出



1：中世陶器（山茶碗）　2：土師質土器（く字内耳鍋）　3：陶器（甕、常滑）　4：中世陶器（山茶碗）
5：陶器（壷？）　6：土師器（小型壷？）
1：調査坑 2 付近出土　2・3：調査坑 7　SE 内出土　4・5：調査坑 10　遺構検出面出土

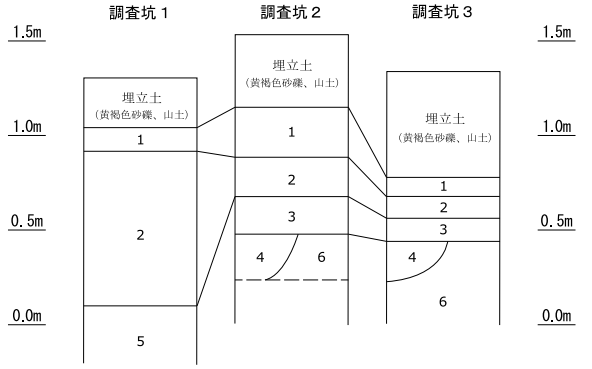
平面図（S=1/40）

出土遺物実測図

13　亀ヶ原遺跡（かめがはらいせき）２次

所 在 地　西区舞阪町舞阪 674
調査期間　2021 年８月２日
調査原因　集合住宅建設
調査面積　12 ㎡
検出遺構　土坑（３箇所）
出土遺物　弥生土器
調査結果　遺構を検出し、弥生時代の遺物が出土した。
調査担当　栗原雅也

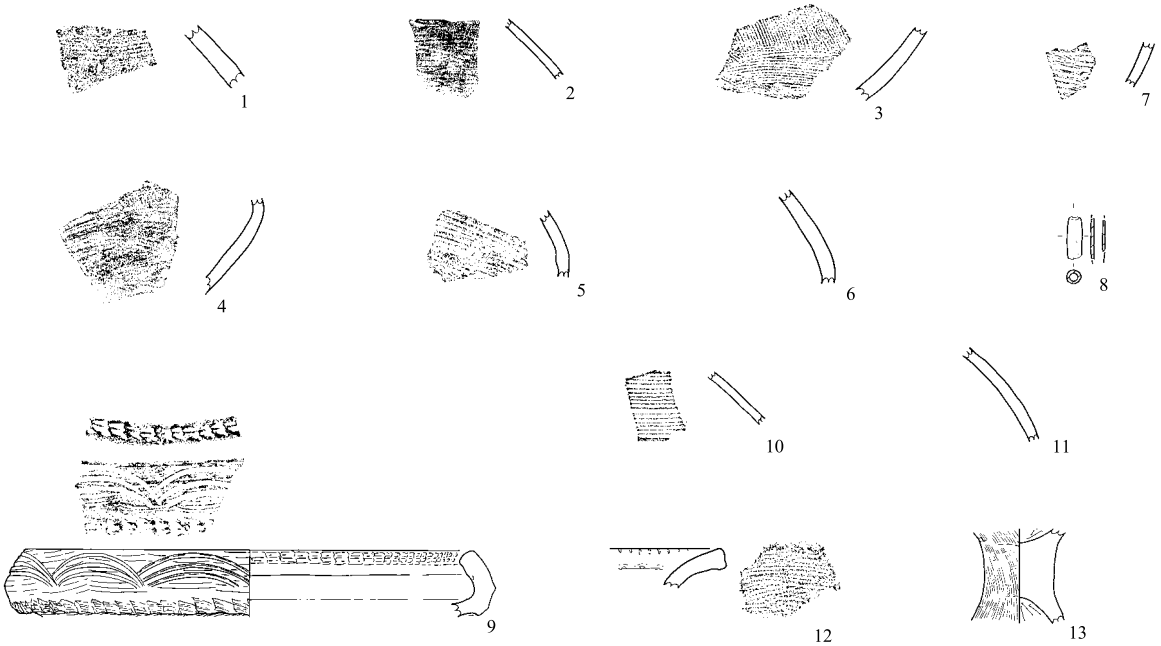
位置図（2,500分の1）



1　茶褐色砂
2　灰色砂～黄褐色砂（調査坑１では縞状）
3　褐色砂、暗褐色粘土ブロック混（包含層）
4　暗褐色粘質土（遺構埋土）
5　ピート層（暗褐色砂泥に植物遺体含む）
6　灰色砂（基盤層か）

土層柱状図（S=1/40）

主な出土遺物



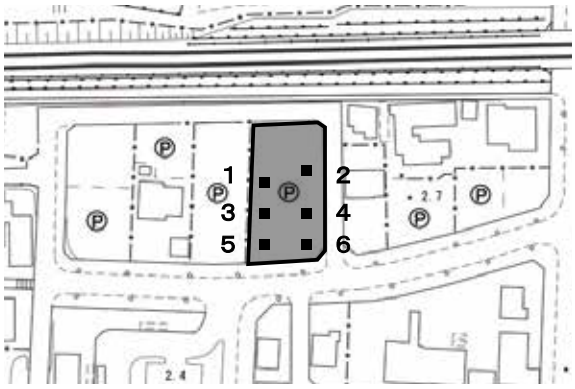
1～6・9～11：弥生土器（壺）　7・12：弥生土器（甕）　8：土製品（土錘）　13：弥生土器（高坏）
1～8：調査坑２出土　9～13：調査坑３出土

0　1:4　10cm

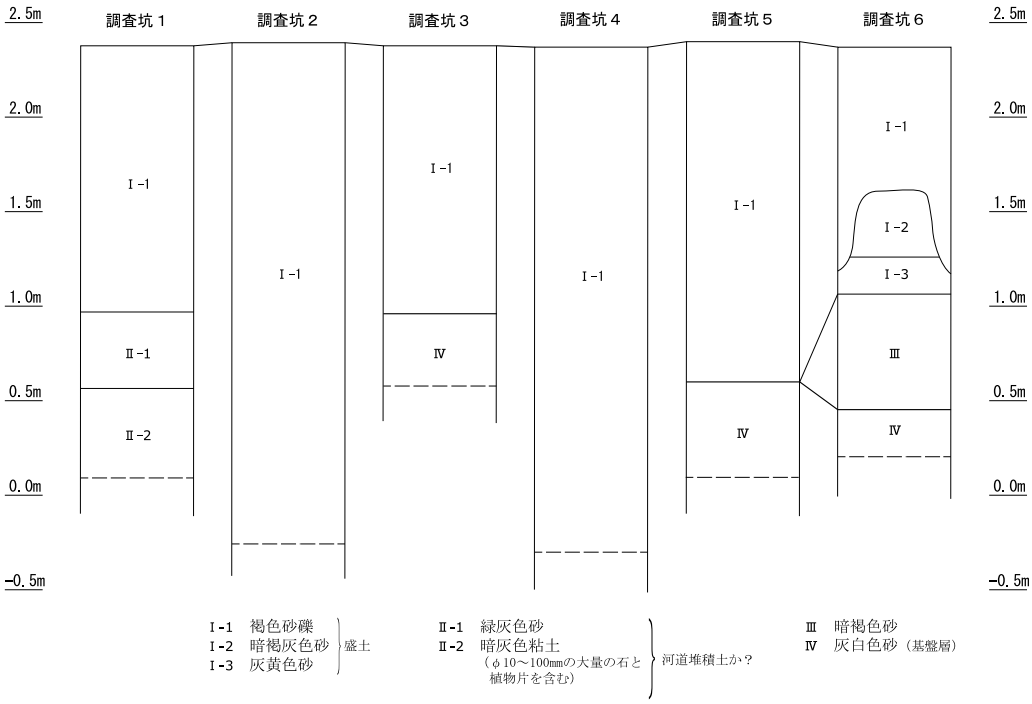
出土遺物実測図

14　別当遺跡（べっとういせき）１次

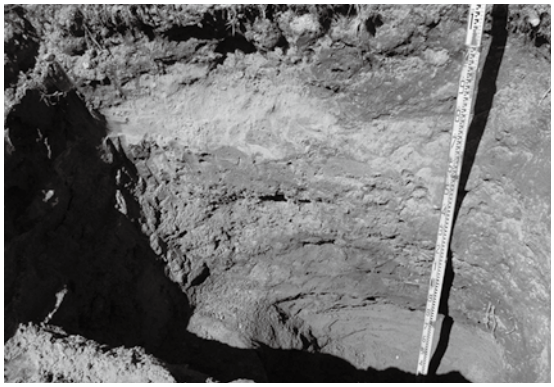
所 在 地　西区馬郡町 6074
調査期間　2021 年８月５日
調査原因　宅地造成
調査面積　24 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　川西啓喜



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

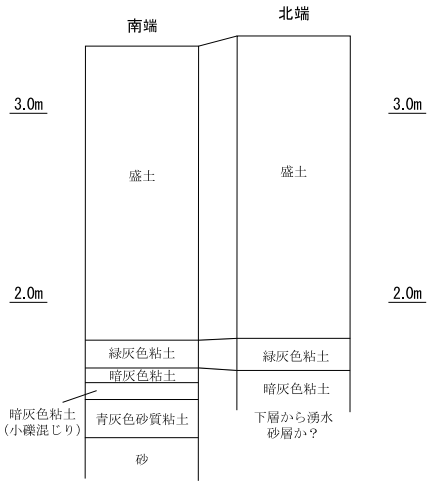

調査坑５土層堆積状況

調査坑６土層堆積状況

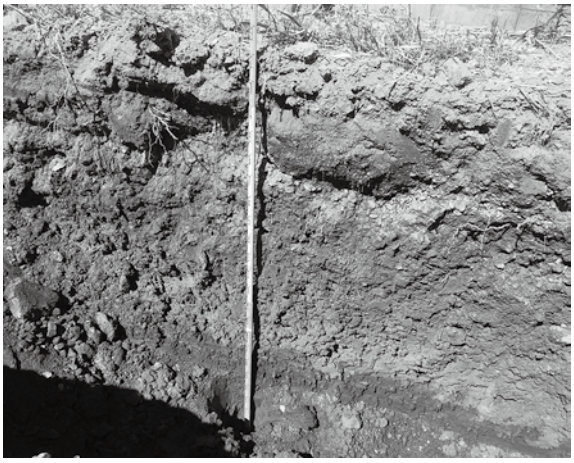
15　殿畑遺跡（とのばたいせき）４次

所 在 地　北区三ヶ日町三ヶ日 179-4 外
調査期間　2021 年８月 31 日
調査原因　個人住宅建設　　**調査面積**　11 ㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　なし
遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査結果　遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　井口智博

位置図（2,500分の1）



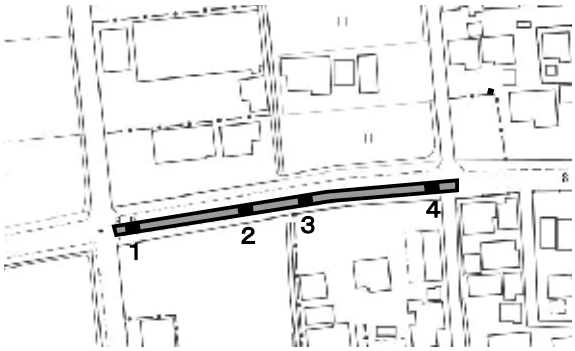
土層柱状図（S=1/40）



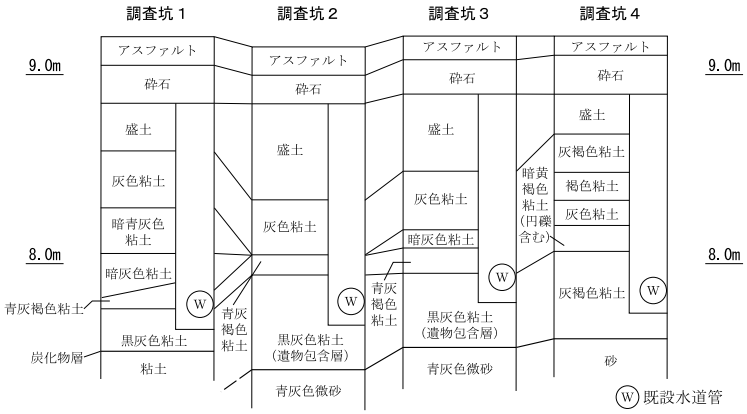
調査溝南端土層断面

16　別所前遺跡（べっしょまえいせき）６次

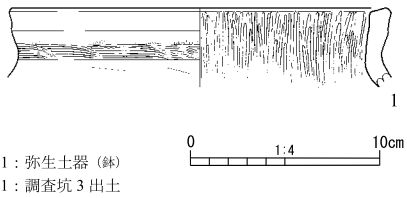
所 在 地　東区市野町地内
調査期間　2021 年９月６日、７日
調査原因　水道管埋設　　**調査面積**　16 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　弥生土器（弥生）、山茶碗（中世）
調査結果　遺構の存在は明確にできなかったが、
弥生時代後期の遺物を確認した。
調査担当　井口智博



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

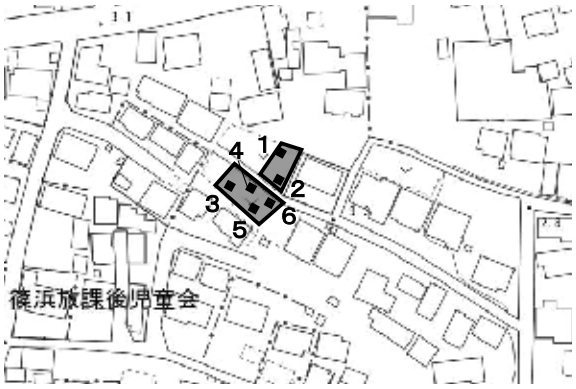


1：弥生土器（鉢）
1：調査坑３出土

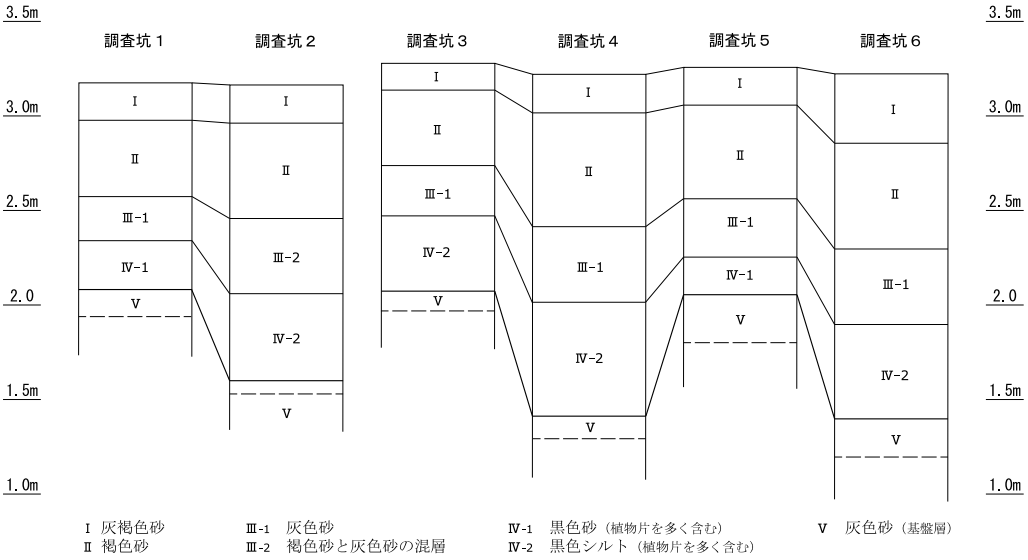
出土遺物実測図

17　篠原町西前遺跡８次（しのはらちょうにしまえいせき）

所 在 地　西区篠原町 10516-1、10614-1
調査期間　2021 年９月６日
調査原因　個人住宅建設
調査面積　13.5 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　川西啓喜



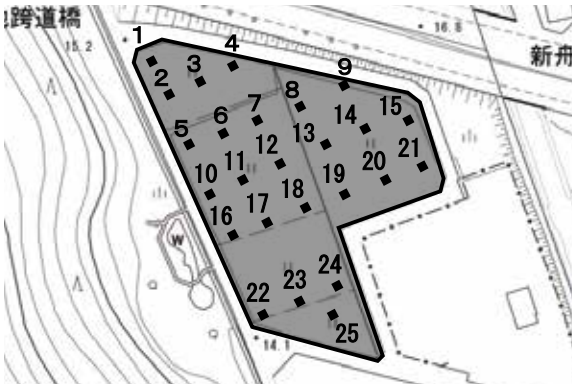
位置図（2,500分の1）



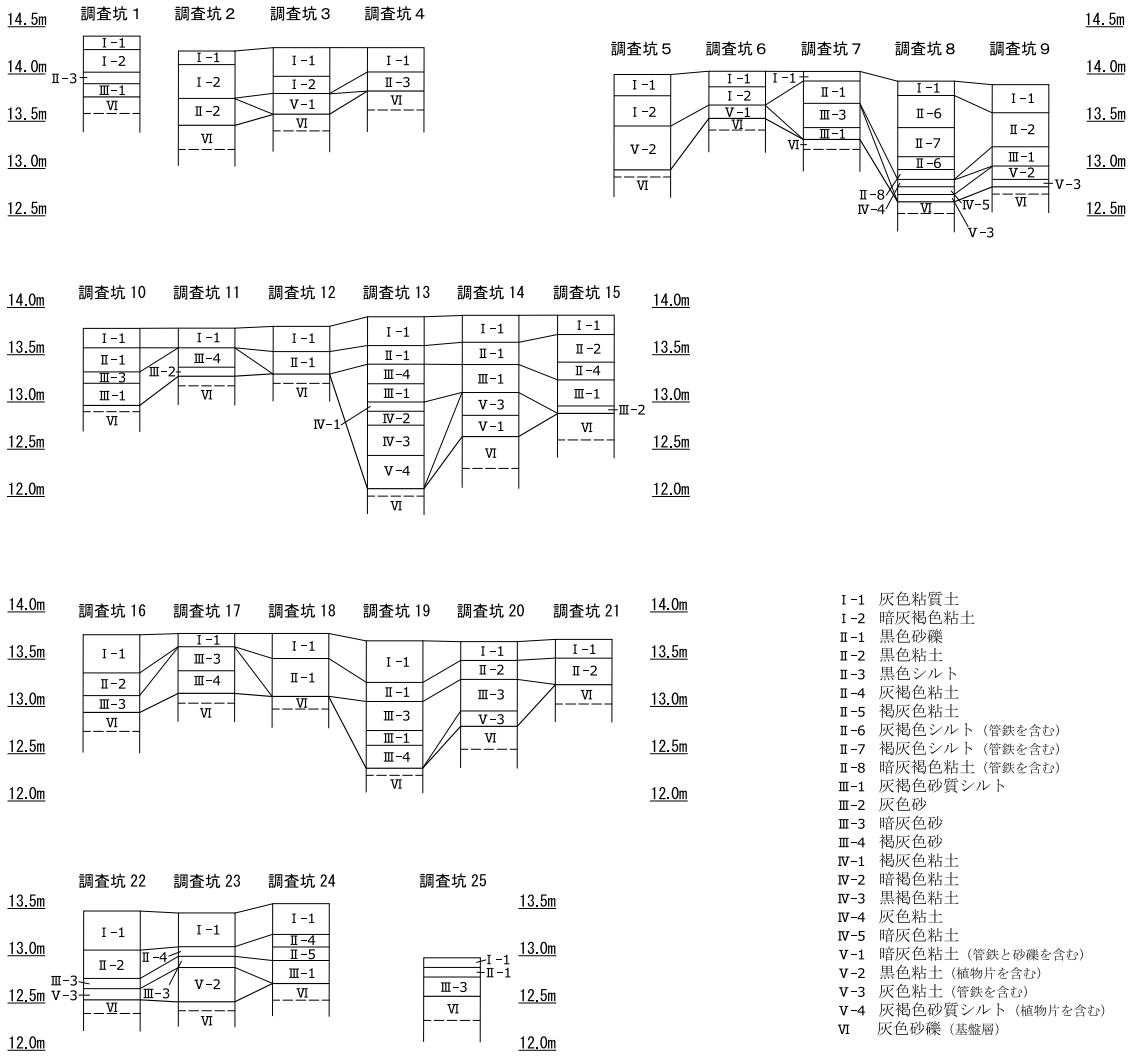
土層柱状図（S=1/40）

18　染地遺跡３次（そめんちいせき）

所 在 地　東区半田山四丁目地内
調査期間　2021 年９月 14 日～ 16 日
調査原因　工場建設
調査面積　100 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　弥生土器、磨製石斧（弥生）、土師器（古代）
調査結果　遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。一部が遺跡の範囲内、それ以外は遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　川西啓喜

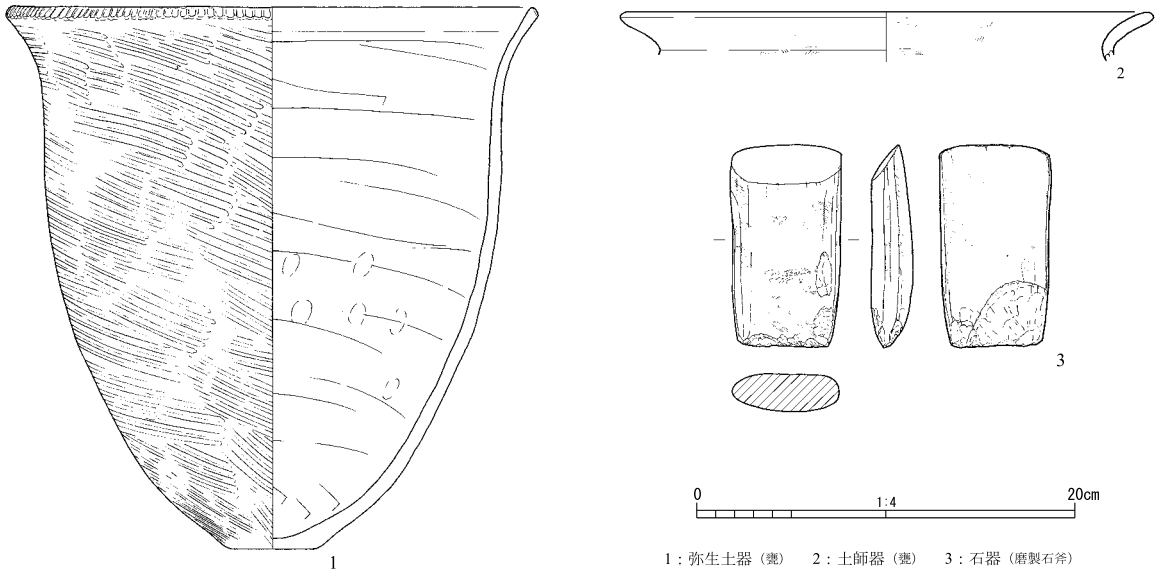


位置図（2,500分の1）



Ⅰ-1　灰色粘質土
Ⅰ-2　暗灰褐色粘土
Ⅱ-1　黒色砂礫
Ⅱ-2　黒色粘土
Ⅱ-3　黒色シルト
Ⅱ-4　灰褐色粘土
Ⅱ-5　褐灰色粘土
Ⅱ-6　灰褐色シルト（管鉄を含む）
Ⅱ-7　褐灰色シルト（管鉄を含む）
Ⅱ-8　暗灰褐色粘土（管鉄を含む）
Ⅲ-1　灰褐色砂質シルト
Ⅲ-2　灰色砂
Ⅲ-3　暗灰色砂
Ⅲ-4　褐灰色砂
Ⅳ-1　褐灰色粘土
Ⅳ-2　暗褐色粘土
Ⅳ-3　黒褐色粘土
Ⅳ-4　灰色粘土
Ⅳ-5　暗灰色粘土
Ⅴ-1　暗灰色粘土（管鉄と砂礫を含む）
Ⅴ-2　黒色粘土（植物片を含む）
Ⅴ-3　灰色粘土（管鉄を含む）
Ⅴ-4　灰褐色砂質シルト（植物片を含む）
Ⅵ　灰色砂礫（基盤層）

土層柱状図（S=1/80）

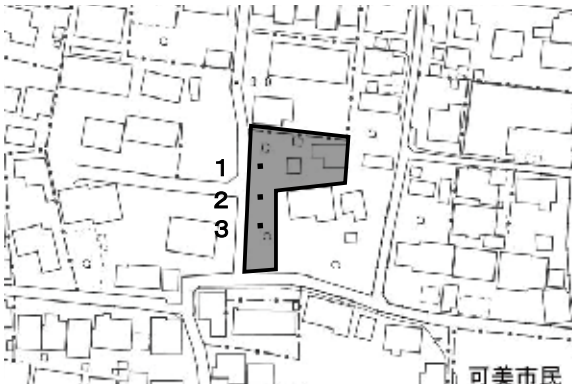


1：弥生土器（甕）　2：土師器（甕）　3：石器（磨製石斧）
1：調査坑 22 出土　2：調査坑 25 出土　3：調査坑 17 出土

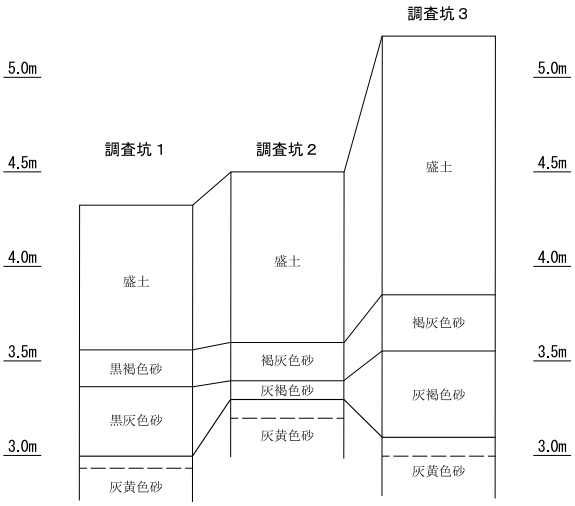
出土遺物実測図

19　若林町村西遺跡 17 次（わかばやしちょうむらにしいせき）

所 在 地　南区若林町 964-1、1197 の各一部外
調査期間　2021 年 10 月 7 日
調査原因　集合住宅建設
調査面積　6.75 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　川西啓喜



位置図（2,500分の1）

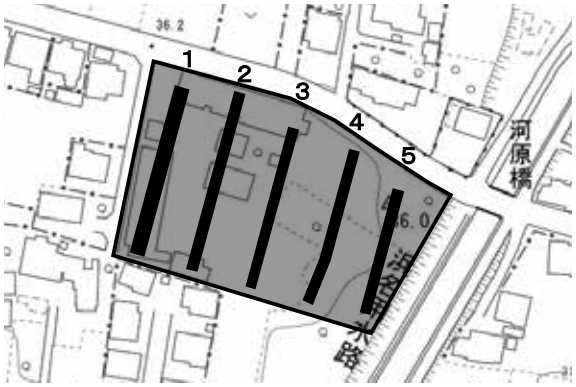


土層柱状図（S=1/40）

調査坑３土層堆積状況

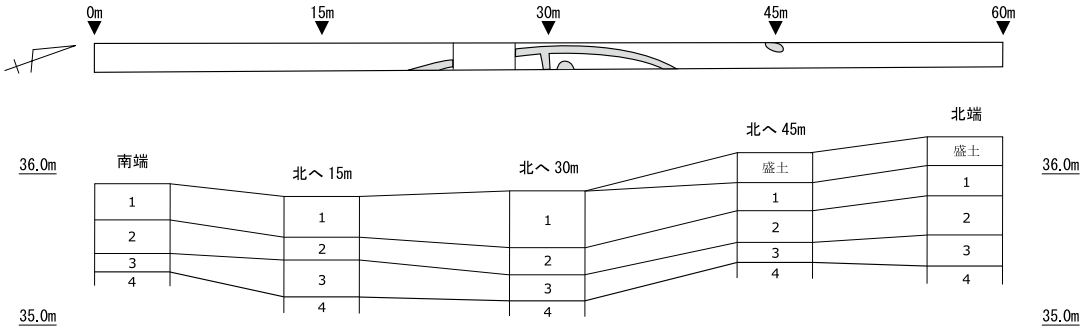
20　芝本遺跡 31 次（しばもといせき）

所 在 地　浜北区於呂 2864-1、2864-28
調査期間　2021 年 10 月 11 日、12 日
調査原因　宅地分譲
調査面積　460 ㎡
検出遺構　竪穴建物、土坑、溝、小穴
出土遺物　弥生土器
調査結果　弥生時代の遺構・遺物を確認した。
調査担当　井口智博

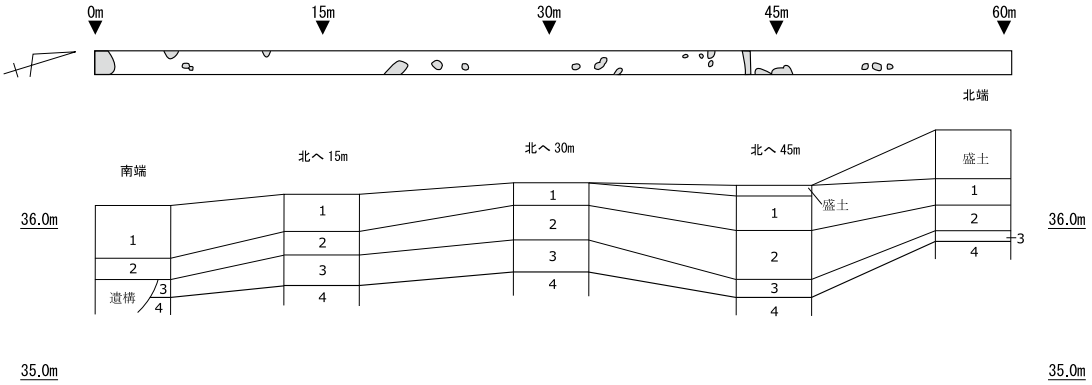


位置図（2,500分の1）

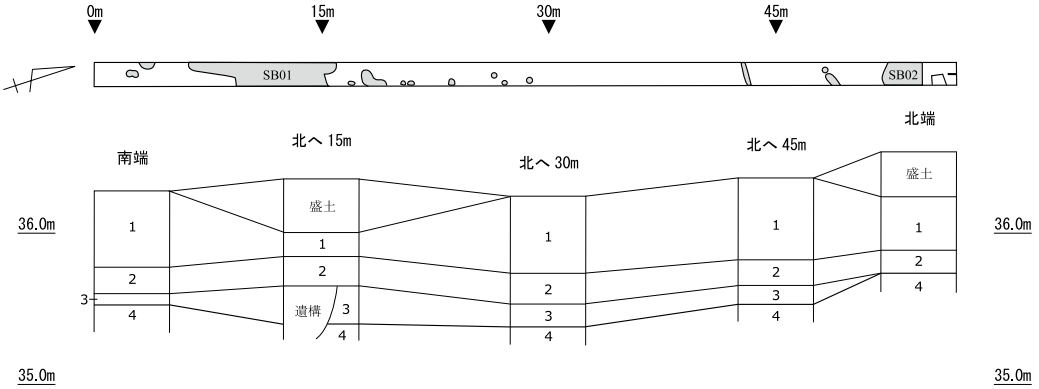
調査溝１



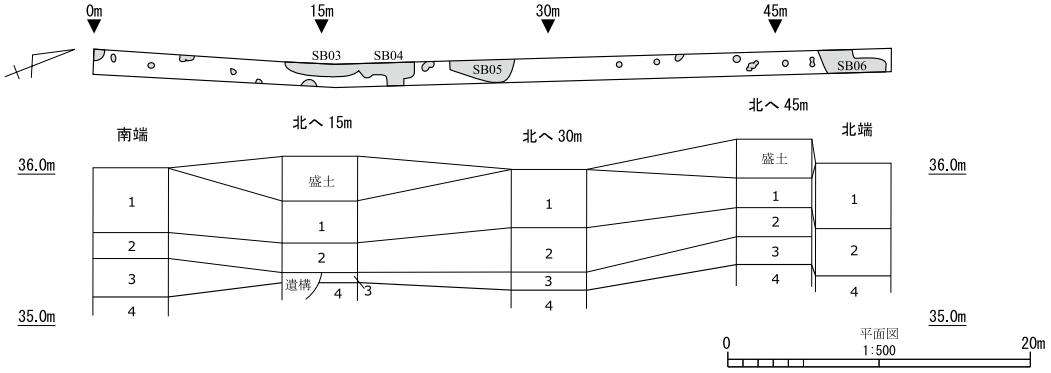
調査溝２



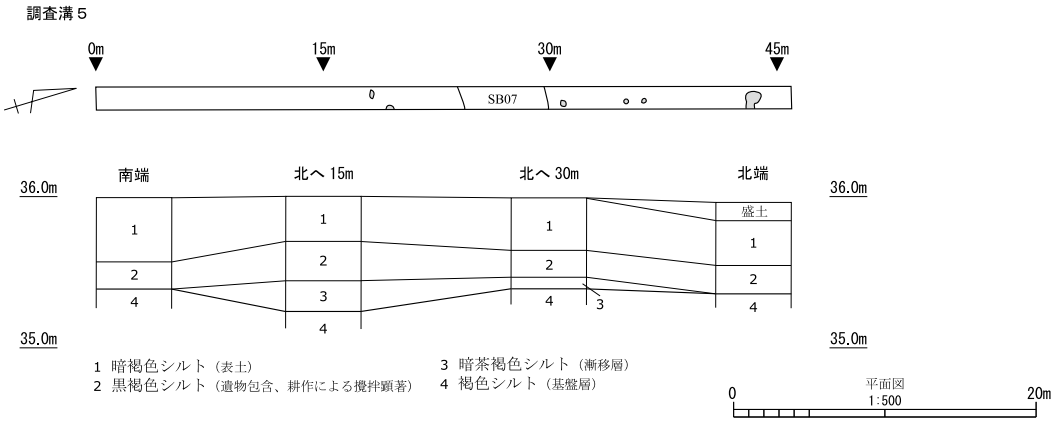
調査溝３



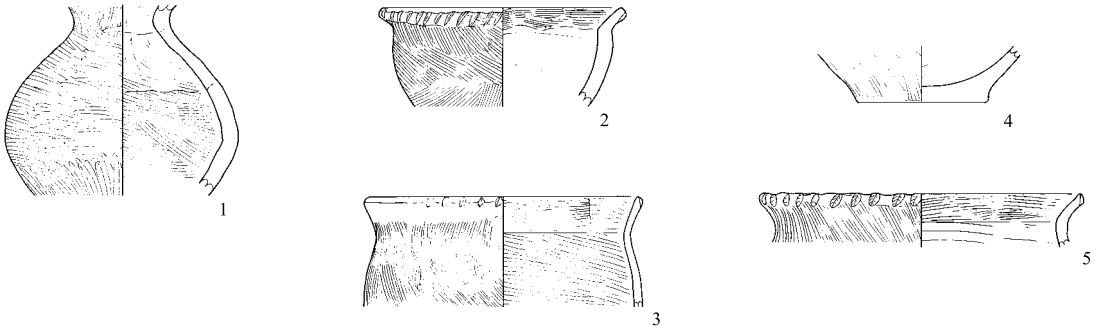
調査溝４



土層柱状図（S=1/50）及び平面図（S=1/500）



土層柱状図（S=1/50）及び平面図（S=1/500）



1：弥生土器（後期・小型壺）　2：弥生土器（後期・小型甕）　3：弥生土器（後期・甕）
4：弥生土器（後期・壺）　5：弥生土器（後期・甕）
1：調査溝１　遺構内出土　　2・3：調査溝３出土　　4：調査溝４出土　　5：調査溝５　黒褐色シルト中出土

0　1:4　20cm

出土遺物実測図

作業状況

調査溝３全景

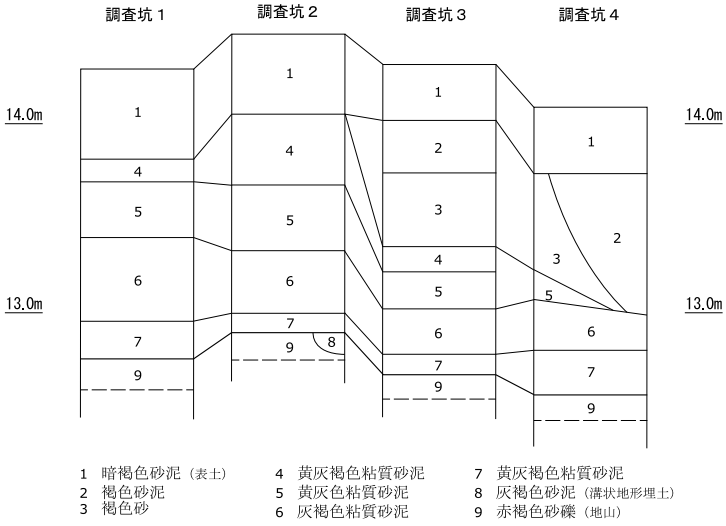
調査溝３遺構検出状況

主な出土遺物

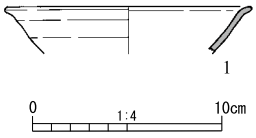
21　万斛遺跡（まんごくいせき）５次

所 在 地　東区中郡町 1505-1、1505-3
調査期間　2021 年 10 月 14 日
調査原因　擁壁設置　　**調査面積**　16 ㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　灰釉陶器
調査結果　わずかに遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　栗原雅也

位置図（2,500分の1）

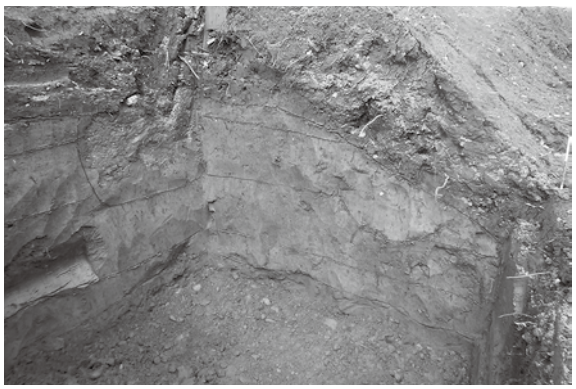


土層柱状図（S=1/40）



1：灰釉陶器（碗）
1：調査坑１出土

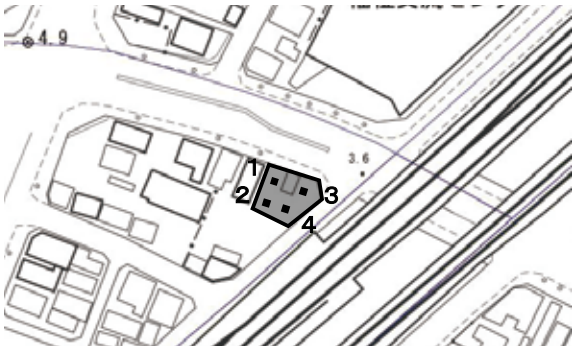
出土遺物実測図


調査坑１土層堆積状況

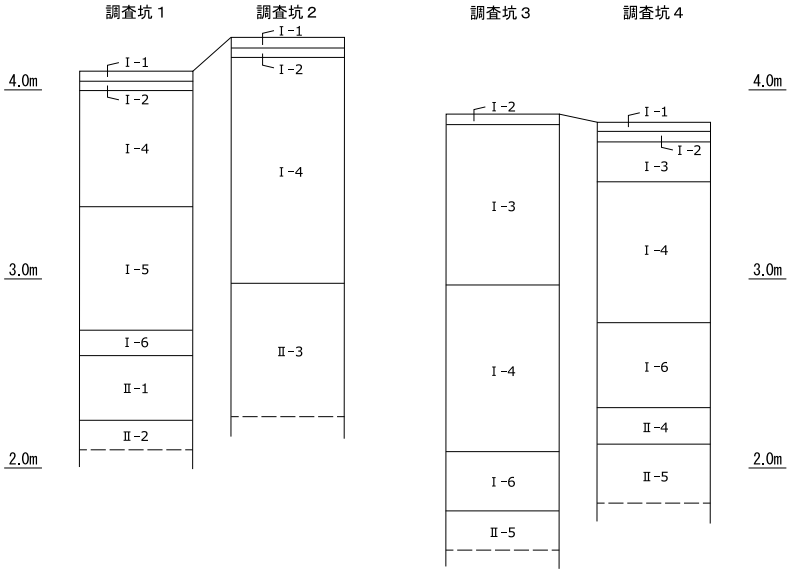
調査坑３土層堆積状況

22　浜松城下町遺跡（はままつじょうかまちいせき）20 次

所 在 地　中区菅原町 1-10 外
調査期間　2021 年 10 月 26 日
調査原因　集合住宅建設　　**調査面積**　16 ㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　和田達也



位置図（2,500分の1）



（Ⅰ層 近現代の土層）
Ⅰ-1　アスファルト舗装
Ⅰ-2　砕石
Ⅰ-3　褐灰色砂質土
Ⅰ-4　黄褐色砂礫
Ⅰ-5　がれき層
Ⅰ-6　黒灰色粘土（レンガ等を含む）

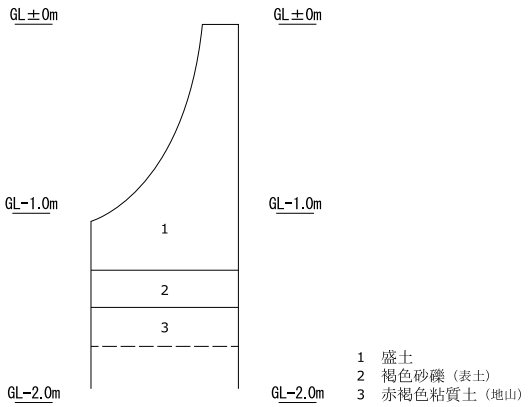
（Ⅱ層　自然堆積土）
Ⅱ-1　灰褐色粘質土
Ⅱ-2　黒色粘土
Ⅱ-3　灰色粘土
Ⅱ-4　暗青灰色粘土
Ⅱ-5　青灰色粘土

土層柱状図（S=1/40）

23　根本山古墳群（ねもとやまこふんぐん）７次

所 在 地　西区呉松町 3298-311
調査期間　2021 年 11 月 16 日
調査原因　無線基地局建設
調査面積　2.89 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査担当　栗原雅也

位置図（2,500分の1）

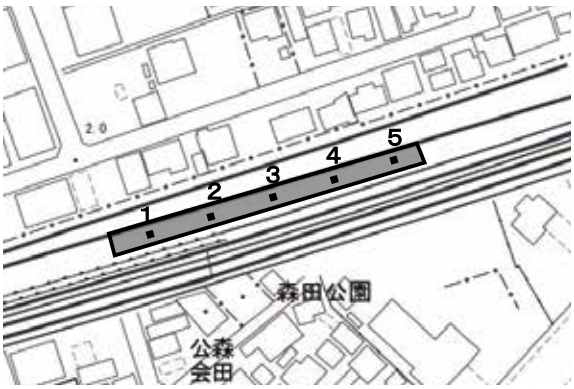


土層柱状図（S=1/40）

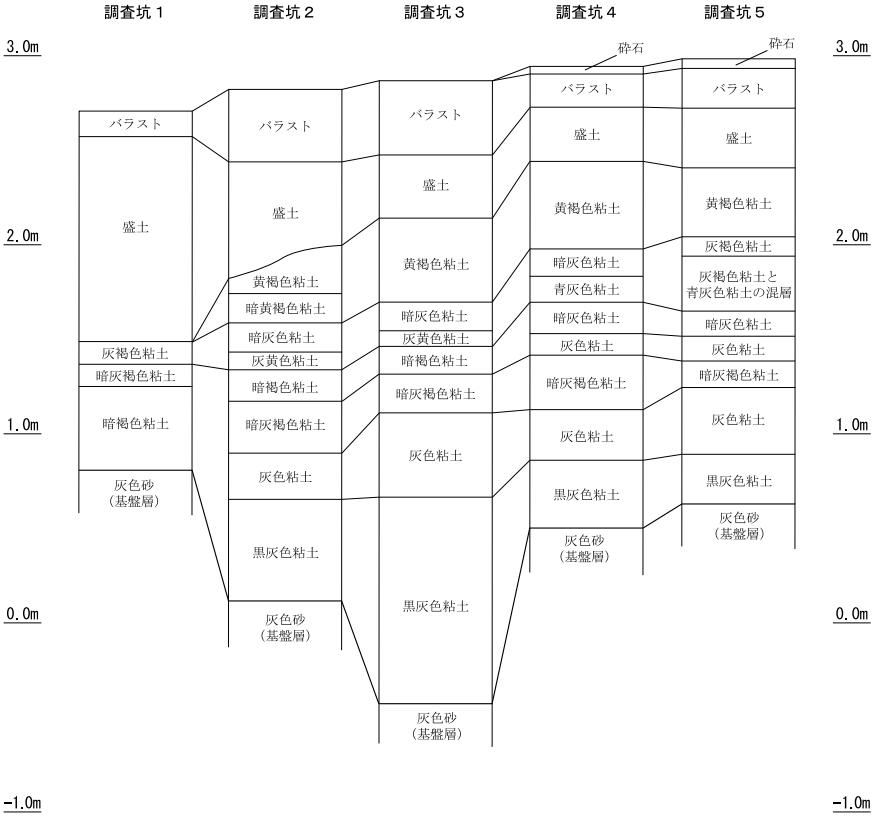
土層堆積状況

24　畷東遺跡隣接地５次（なわてひがしいせきりんせつち）

所 在 地　中区東伊場二丁目地内
調査期間　2021 年 11 月 18 日
調査原因　鉄道施設建設
調査面積　20 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　井口智博



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

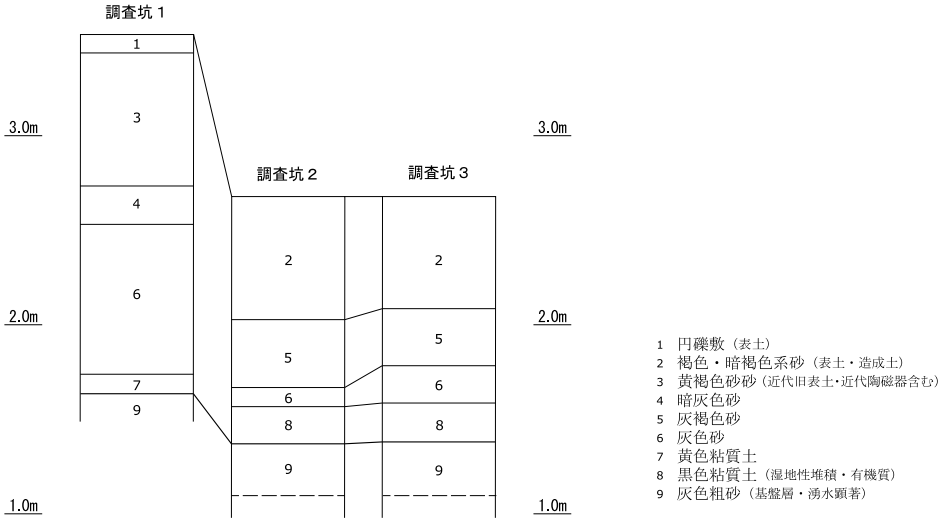
調査坑３完掘状況

調査坑５土層堆積状況

25　高塚町村中遺跡３次（たかつかちょうむらなかいせき）

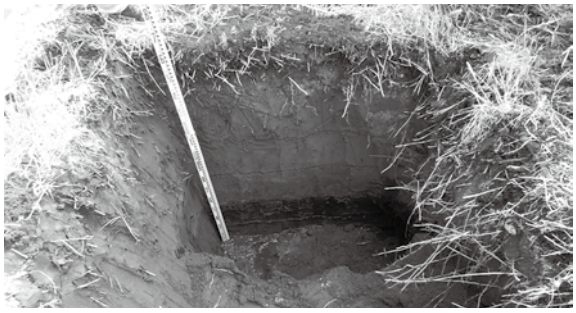
所 在 地　南区高塚町 4530、4533-1 外
調査期間　2021 年 11 月 29 日
調査原因　事務所建設
調査面積　7 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　和田達也

位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

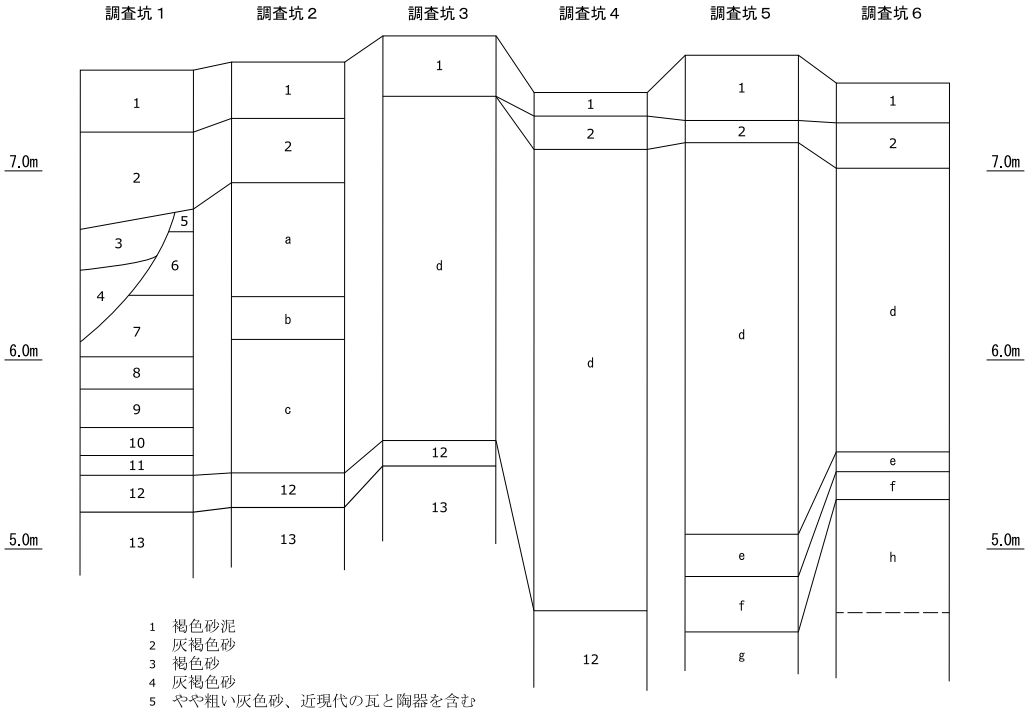
調査坑２土層堆積状況


調査坑３土層堆積状況

26　庄屋遺跡２次（しょうやいせき）

所 在 地　南区新貝町 1466
調査期間　2021 年 12 月 6 日
調査原因　宅地造成
調査面積　24 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　かわらけ片、近世陶器片
調査結果　わずかに遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。
調査担当　栗原雅也

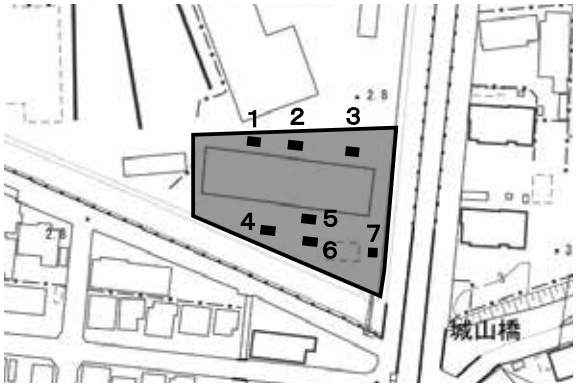
位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

27　城山遺跡（しろやまいせき）20 次

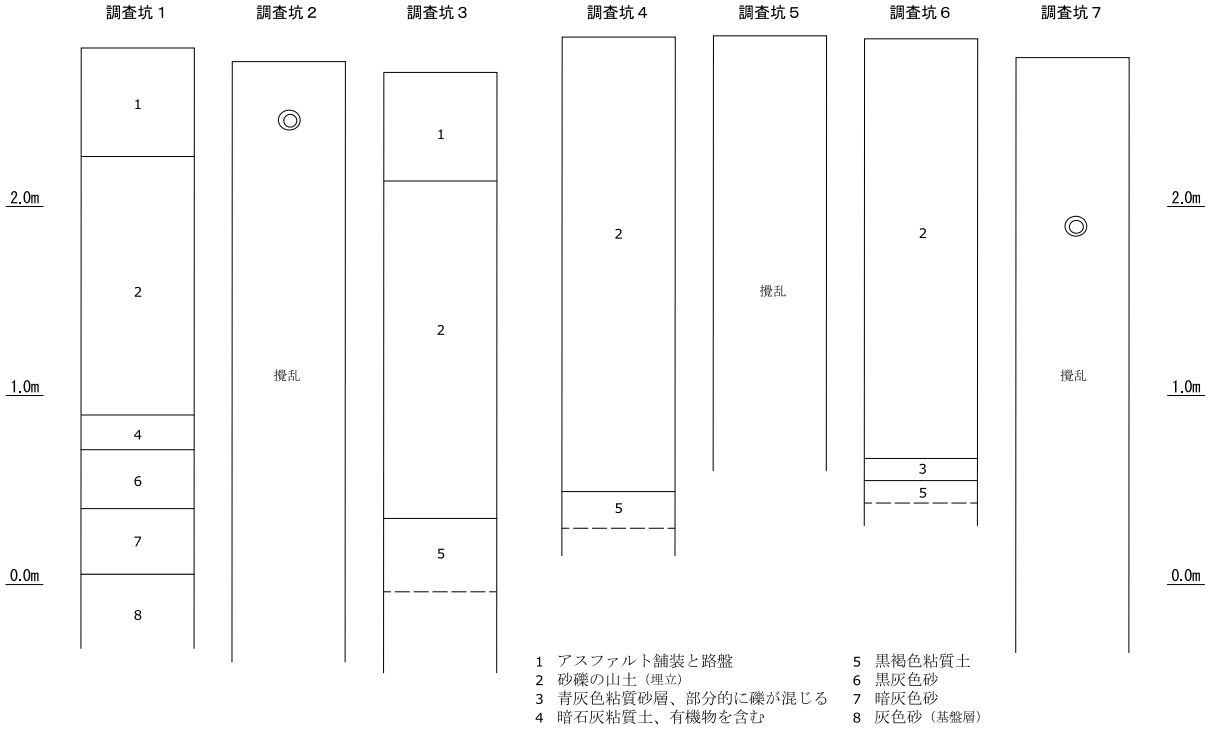
所 在 地　南区若林町 514-3
調査期間　2021 年 12 月 20 日、21 日
調査原因　事務所建設
調査面積　22 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　栗原雅也



位置図（2,500分の1）

調査坑３土層堆積状況

調査坑４完掘状況

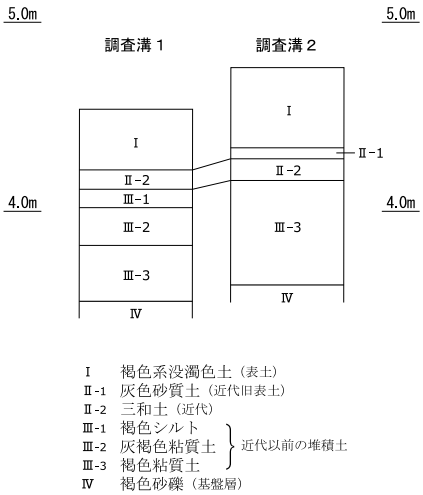


土層柱状図（S=1/40）

28　浜松城下町遺跡（はままつじょうかまちいせき）21 次

所 在 地　中区常盤町 1-9
調査期間　2021 年 12 月 21 日
調査原因　集合住宅建設
調査面積　7 ㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　和田達也

位置図（2,500分の1）



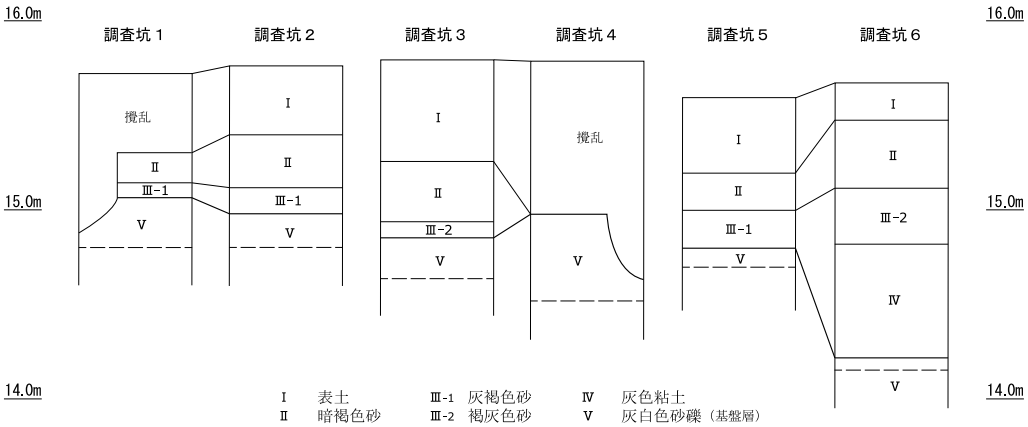
土層柱状図（S=1/40）

調査溝２土層堆積状況

29　宮東遺跡（みやひがしいせき）２次

所 在 地　浜北区寺島 335-1
調査期間　2022 年１月 13 日
調査原因　宅地分譲
調査面積　24 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
調査担当　川西啓喜

位置図（2,500分の1）

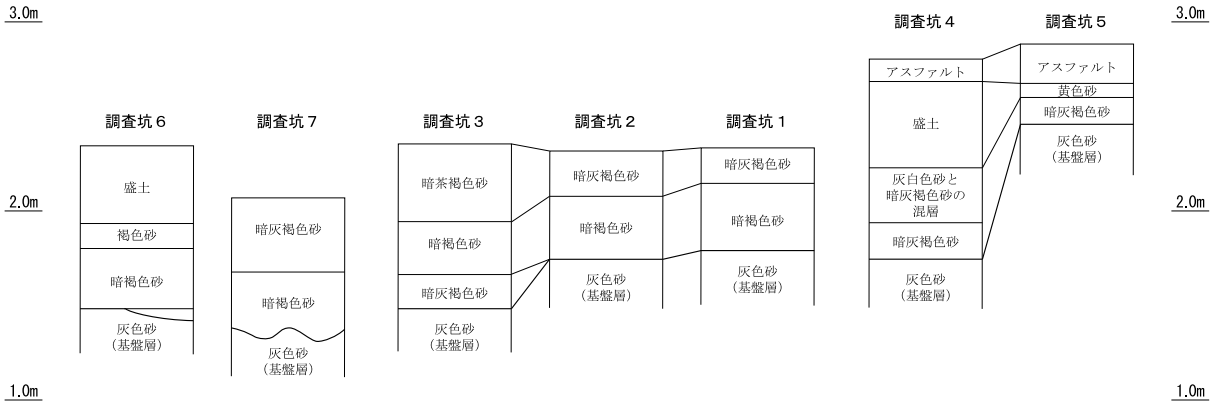


土層柱状図（S=1/40）

30　高塚遺跡（たかつかいせき）17 次

所 在 地　南区高塚町 793 外
調査期間　2022 年２月１日～３日
調査原因　土地区画整理
調査面積　24 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　土師器、かわらけ
調査結果　一部において遺物・遺構を確認した。
調査担当　井口智博、川西啓喜

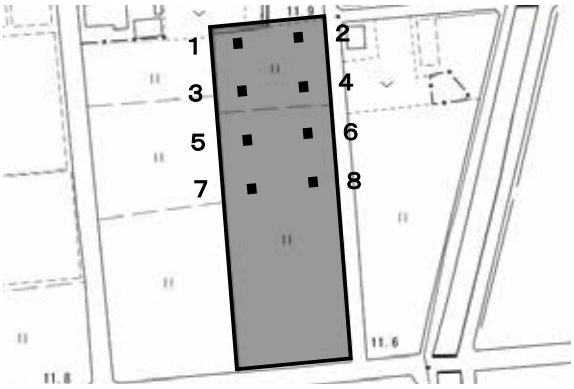
位置図（5,000分の1）



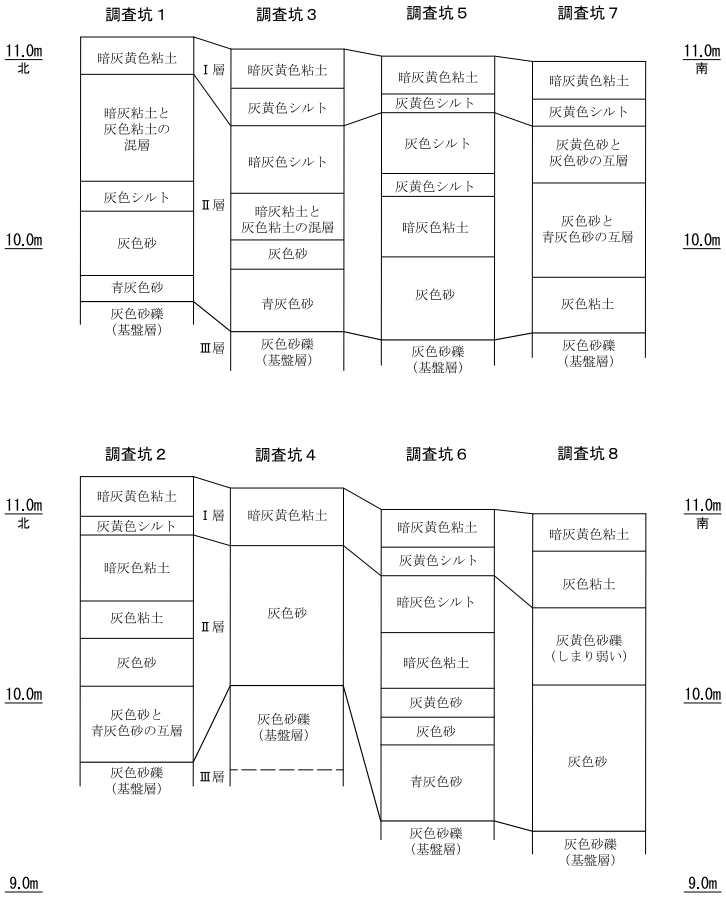
土層柱状図（S=1/40）

31　恒武西宮遺跡隣接地33次（つねたけにしみやいせきりんせつち）

所 在 地　東区貴平町691、692
調査期間　2022年2月7日
調査原因　砂利採取
調査面積　32㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　和田達也



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

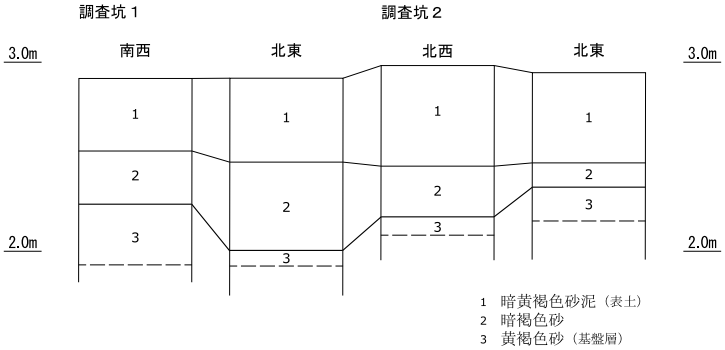
調査坑４完掘状況

調査坑６完掘状況

32　小沢渡町村中東遺跡２次（こざわたりちょうむらなかひがしいせき）

所 在 地　南区小沢渡町 434
調査期間　2022 年２月７日
調査原因　個人住宅建設　　**調査面積**　8.5 ㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　土師器の細片
調査結果　わずかに遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　栗原雅也

位置図（2,500分の1）

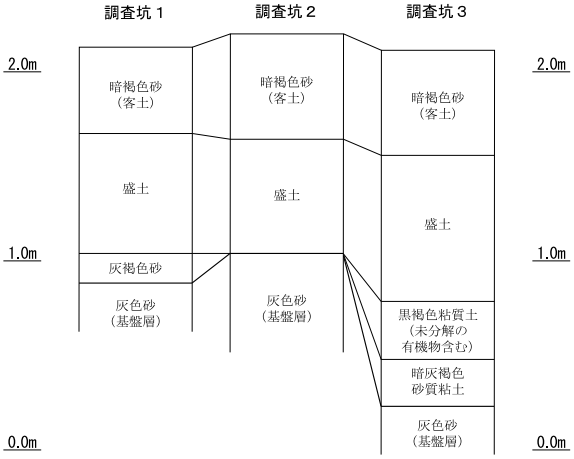


土層柱状図（S=1/40）

33　日晩遺跡 14 次（ひばんいせき）

所 在 地　南区増楽町 1621-1
調査期間　2022 年２月 14 日
調査原因　集合住宅建設　　**調査面積**　12 ㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　なし
調査結果　遺構･遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当　井口智博

位置図（2,500分の1）



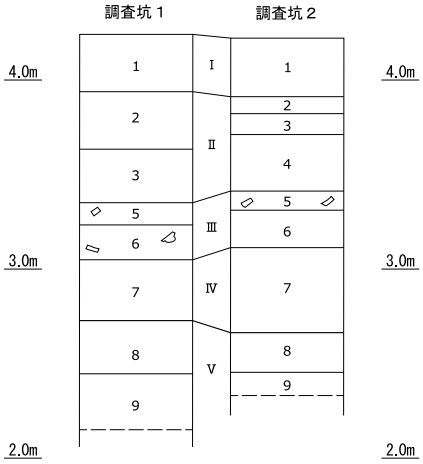
土層柱状図（S=1/40）

調査坑２土層堆積状況

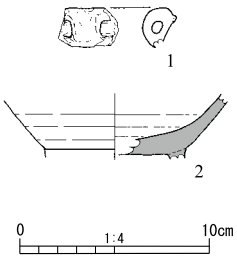
34　椋木遺跡（むくぎいせき）８次

所 在 地　東区子安町 323-8
調査期間　2022 年２月 16 日
調査原因　個人住宅建設　　**調査面積**　６㎡
検出遺構　なし
出土遺物　山茶碗、陶器、土師質土器
調査結果　遺構は確認できなかったが、中世の遺物が出土した。
調査担当　和田達也

位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）



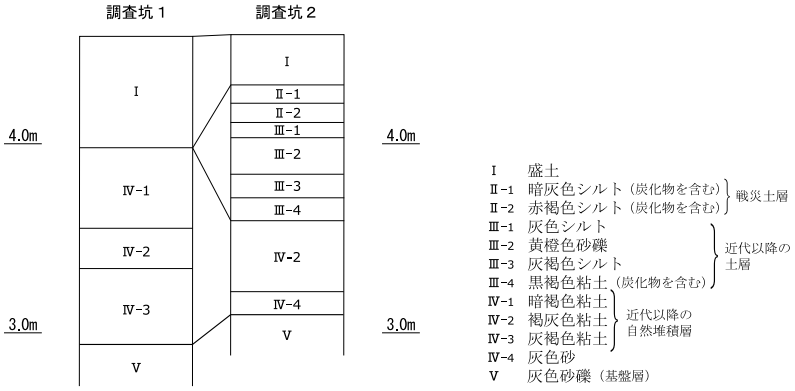
1：土師質土器（内耳鍋）　2：中世陶器（山茶碗）
1・2：調査坑１出土

出土遺物実測図

35　浜松城下町遺跡（はままつじょうかまちいせき）22 次

所 在 地　中区常盤町 134-16
調査期間　2022 年２月 17 日
調査原因　個人住宅建設　　**調査面積**　４㎡
検出遺構　なし　　**出土遺物**　なし
調査結果　遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の希薄な地点と考えられる。
調査担当　川西啓喜

位置図（2,500分の1）

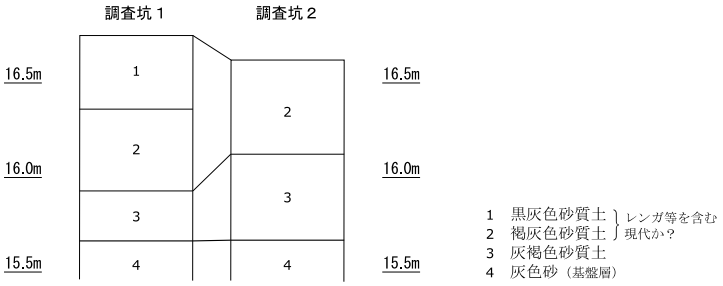


土層柱状図（S=1/40）

36　笠井上組遺跡（かさいかみぐみいせき）13 次

所 在 地　東区笠井町 201
調査期間　2022 年 2 月 25 日
調査原因　個人住宅建設
調査面積　4.5 ㎡
検出遺構　なし
出土遺物　なし
調査結果　遺構･遺物ともに確認できなかった。
調査担当　川西啓喜

位置図（2,500分の1）

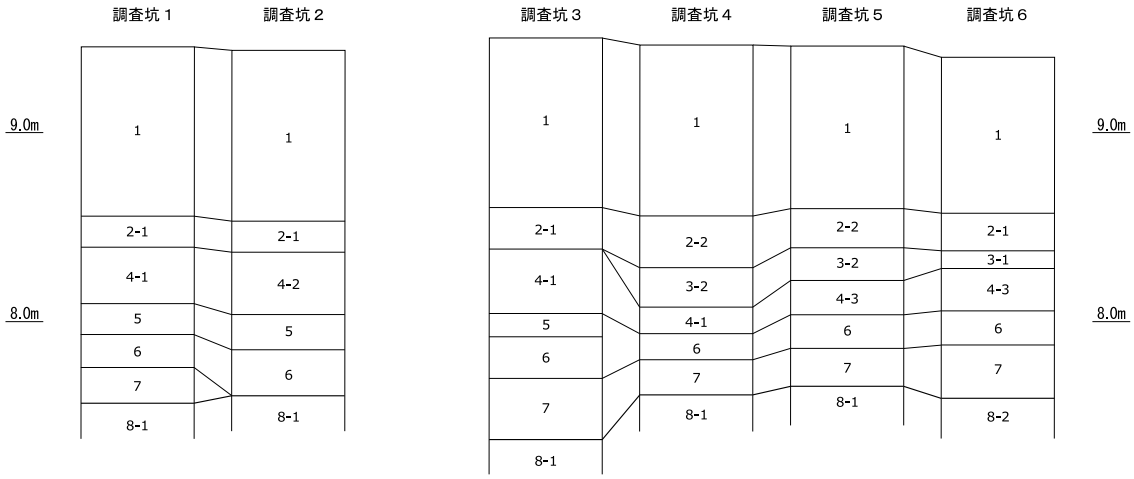


土層柱状図（S=1/40）

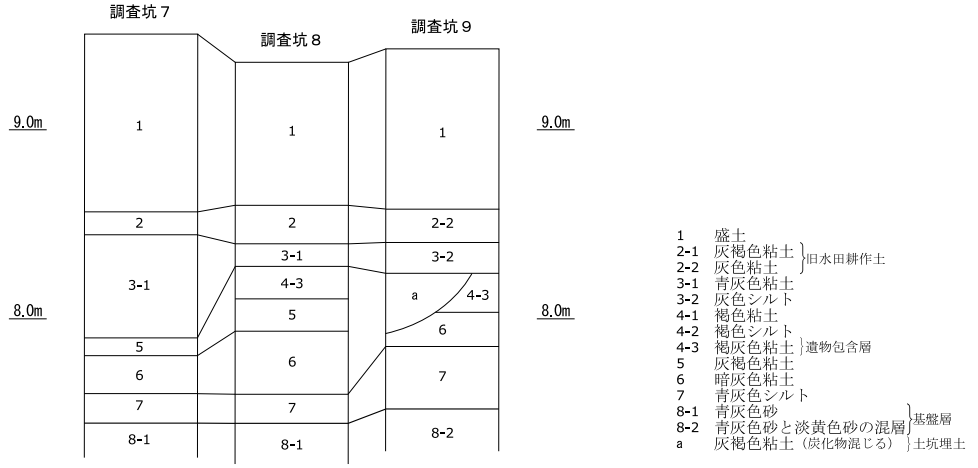
37　市野遺跡（いちのいせき）9 次

所 在 地　東区市野町 1729、1730-2
調査期間　2022 年 3 月 2 日、3 日
調査原因　福祉施設建設
調査面積　36 ㎡
検出遺構　土坑
出土遺物　弥生土器
調査結果　遺構・遺物を確認した。遺跡の範囲が拡大する可能性がある。
調査担当　川西啓喜

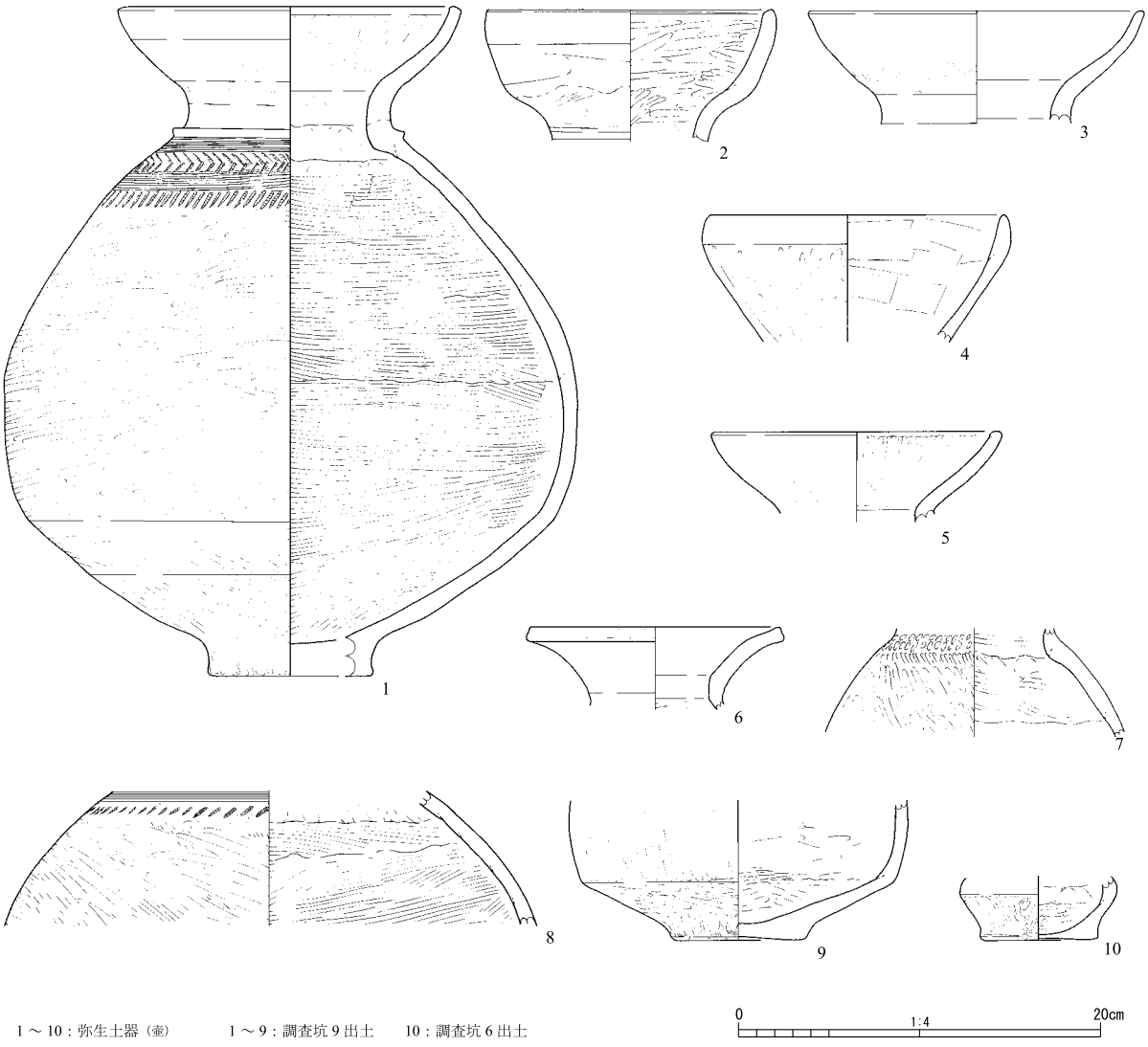
位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

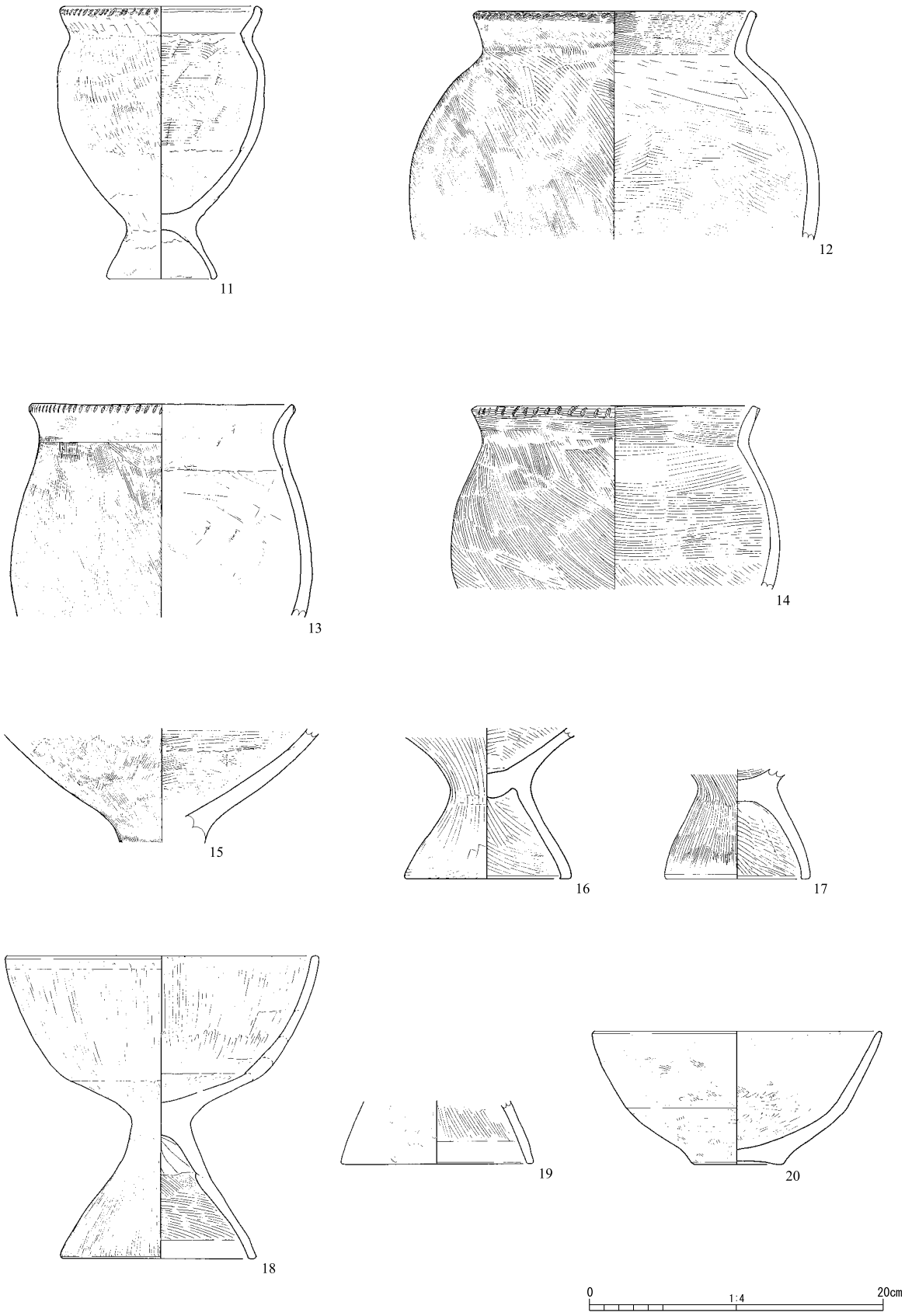


土層柱状図（S=1/40）



1～10：弥生土器（壺）　　1～9：調査坑９出土　　10：調査坑６出土

出土遺物実測図（１）

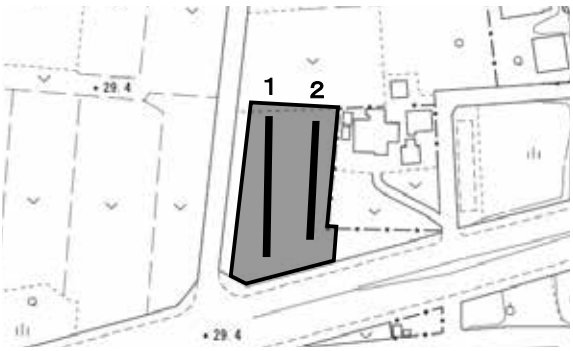


11 ～ 17：弥生土器（甕）　18・19：弥生土器（高坏）　20：弥生土器（鉢）
11 ～ 20：調査坑 9 出土

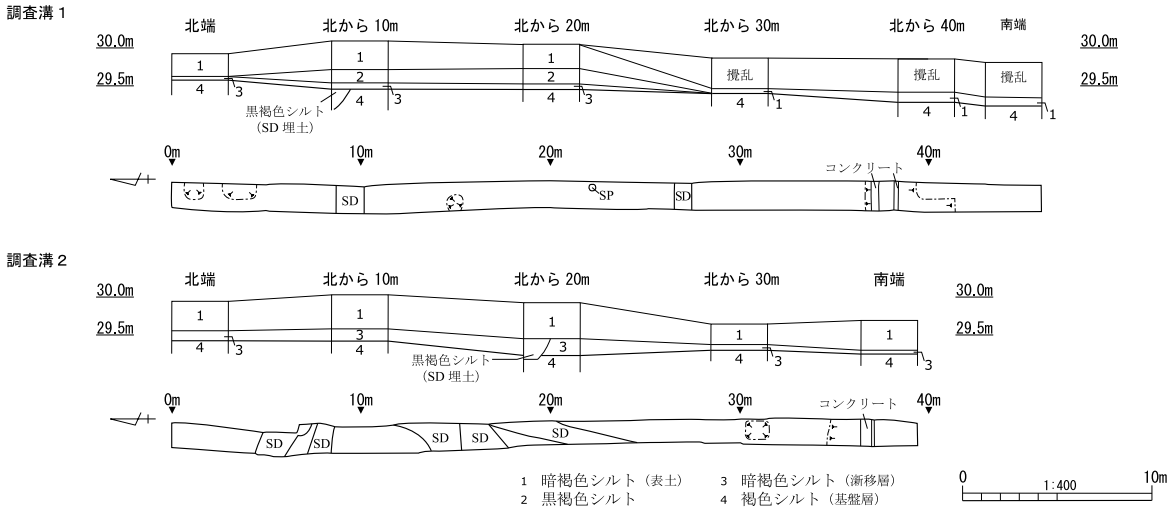
出土遺物実測図（２）

38　東原遺跡（ひがしばらいせき）48 次

所 在 地　浜北区新原 5063、5064
調査期間　2022 年３月７日、８日
調査原因　店舗建設　　**調査面積**　130 ㎡
検出遺構　溝、小穴　　**出土遺物**　なし
調査結果　遺構を検出したが、遺物は確認できなかった。
調査担当　井口智博

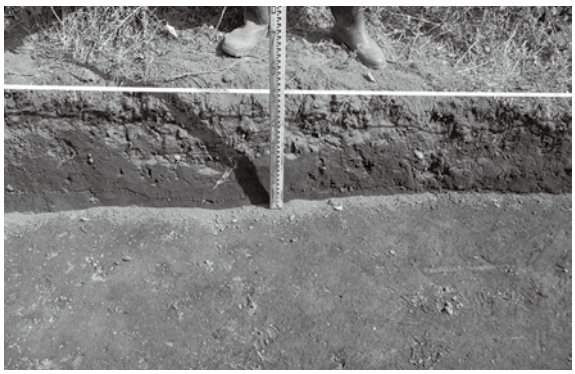


位置図（2,500分の1）



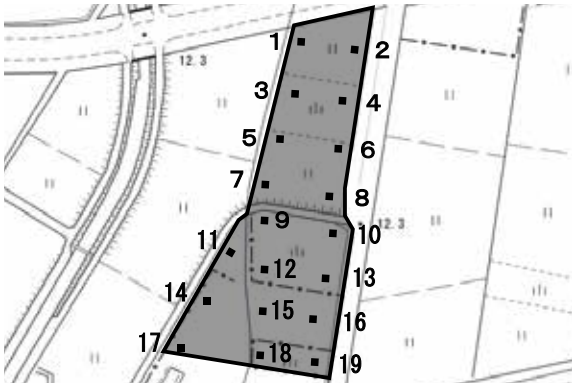
土層柱状図（S=1/100）　及び平面図（S=1/400）

調査溝２遺構検出状況

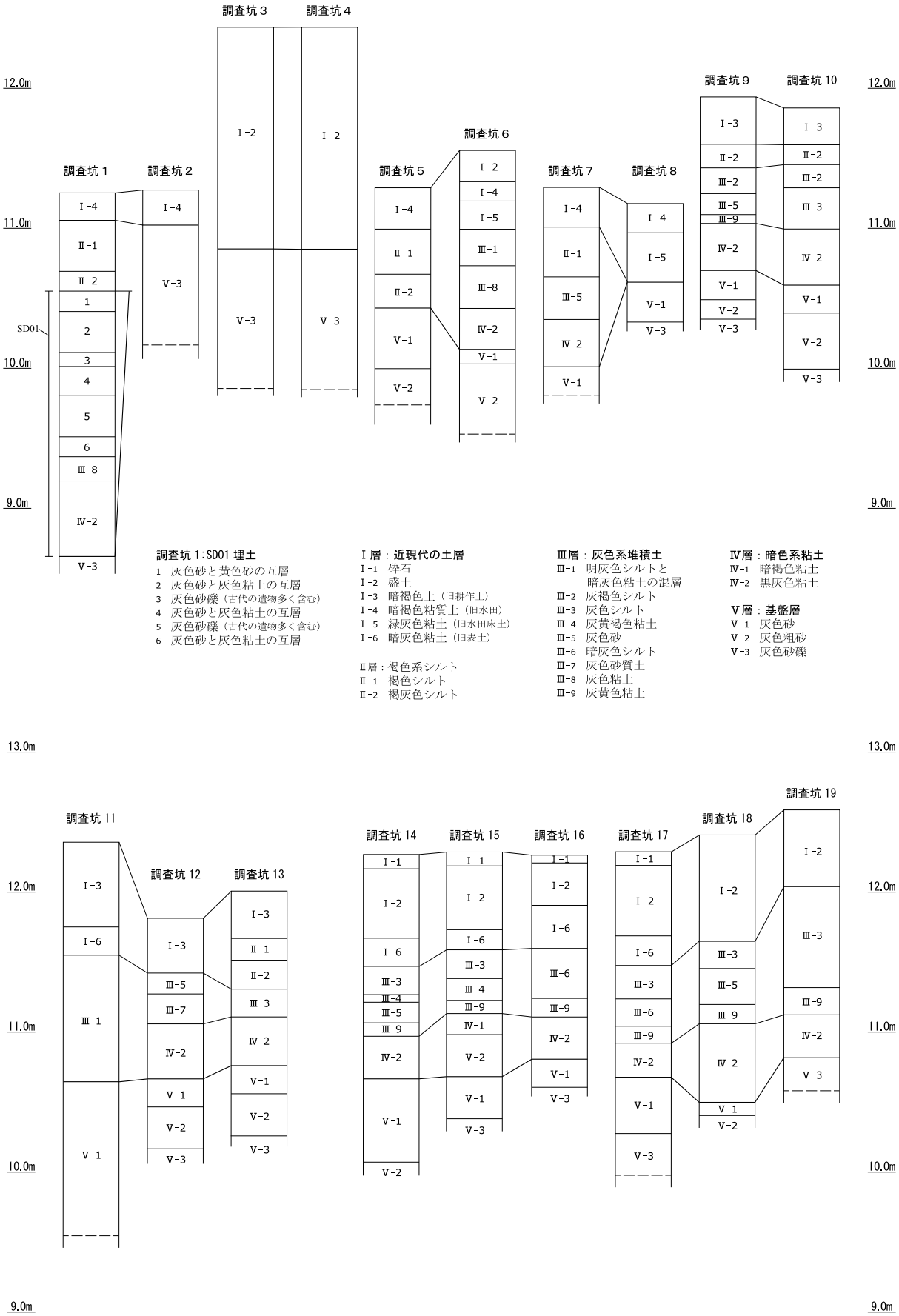

調査溝２土層堆積状況（30 m地点）

39　恒武西宮遺跡（つねたけにしみやいせき）34 次

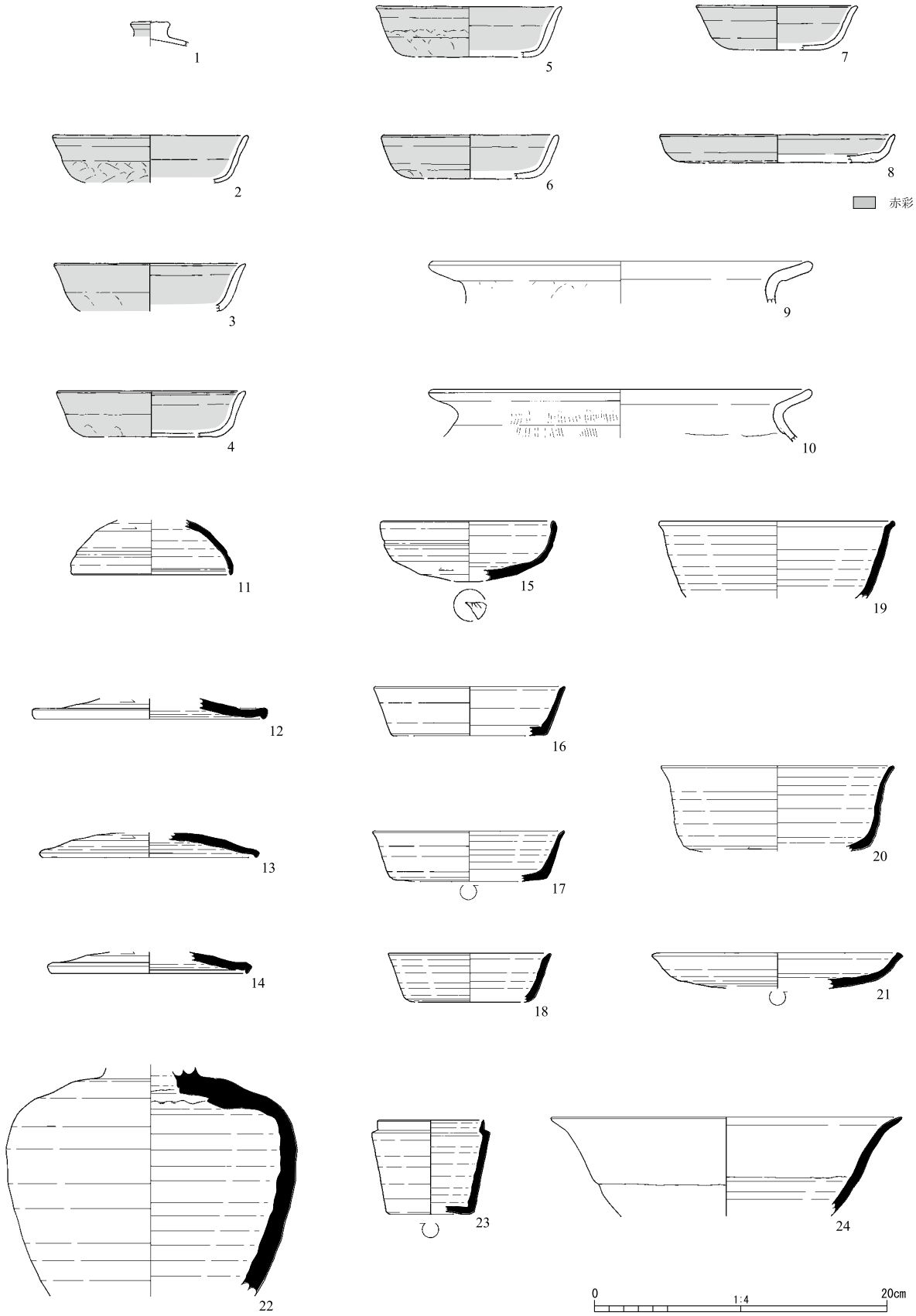
所 在 地　東区恒武町 137-1 外
調査期間　2022 年３月 14 日～ 16 日
調査原因　事務所建設
調査面積　76 ㎡
検出遺構　自然流路（奈良・平安）
出土遺物　土師器、須恵器（奈良・平安）、山茶碗（鎌倉）
調査結果　一部で遺構・遺物を確認した。
調査担当　和田達也



位置図（2,500分の1）


調査坑 1
調査坑 2
調査坑 3
調査坑 4
調査坑 5
調査坑 6
調査坑 7
調査坑 8
調査坑 9
調査坑 10
調査坑 11
調査坑 12
調査坑 13
調査坑 14
調査坑 15
調査坑 16
調査坑 17
調査坑 18
調査坑 19
12.0m
11.0m
10.0m
9.0m
13.0m
SD01
調査坑 1:SD01 埋土
1 灰色砂と黄色砂の互層
2 灰色砂と灰色粘土の互層
3 灰色砂礫（古代の遺物多く含む）
4 灰色砂と灰色粘土の互層
5 灰色砂礫（古代の遺物多く含む）
6 灰色砂と灰色粘土の互層
Ⅰ層：近現代の土層
Ⅰ-1 砕石
Ⅰ-2 盛土
Ⅰ-3 暗褐色土（旧耕作土）
Ⅰ-4 暗褐色粘質土（旧水田）
Ⅰ-5 緑灰色粘土（旧水田床土）
Ⅰ-6 暗灰色粘土（旧表土）
Ⅱ層：褐色系シルト
Ⅱ-1 褐色シルト
Ⅱ-2 褐灰色シルト
Ⅲ層：灰色系堆積土
Ⅲ-1 明灰色シルトと暗灰色粘土の混層
Ⅲ-2 灰褐色シルト
Ⅲ-3 灰色シルト
Ⅲ-4 灰黄褐色粘土
Ⅲ-5 灰色砂
Ⅲ-6 暗灰色シルト
Ⅲ-7 灰色砂質土
Ⅲ-8 灰色粘土
Ⅲ-9 灰黄色粘土
Ⅳ層：暗色系粘土
Ⅳ-1 暗褐色粘土
Ⅳ-2 黒灰色粘土
Ⅴ層：基盤層
Ⅴ-1 灰色砂
Ⅴ-2 灰色粗砂
Ⅴ-3 灰色砂礫

土層柱状図（S=1/40）



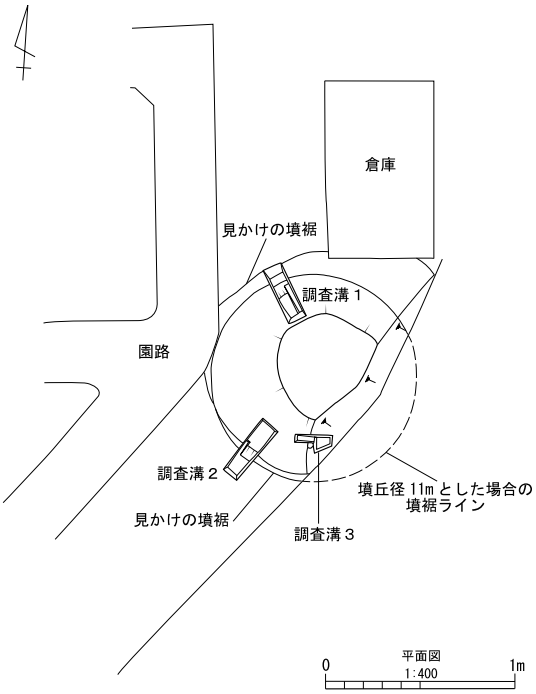
1：土師器（摘蓋、外面赤彩）　2～8：土師器（無台坏身、両面赤彩）　9・10：土師器（甕）　11：須恵器（蓋、坏蓋）　12～14：須恵器（摘蓋）
15～18：須恵器（無台坏）　19～20：須恵器（鉢）　21：須恵器（皿）　22：須恵器（瓶）　23：須恵器（壷）　24：須恵器（鉢）
1～24：調査坑 1 出土

出土遺物実測図

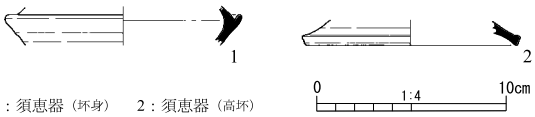
40　福長古墳群１次（ふくながこふんぐん）

所 在 地　北区三ヶ日町福長 70-20
調査期間　2022 年３月 23 日～ 25 日
調査原因　保存活用
調査面積　８㎡
検出遺構　古墳
出土遺物　須恵器
調査結果　埋葬施設の確認には至らなかったが、周溝を検出し、遺物が出土した。
調査担当　井口智博、和田達也

位置図（2,500分の1）



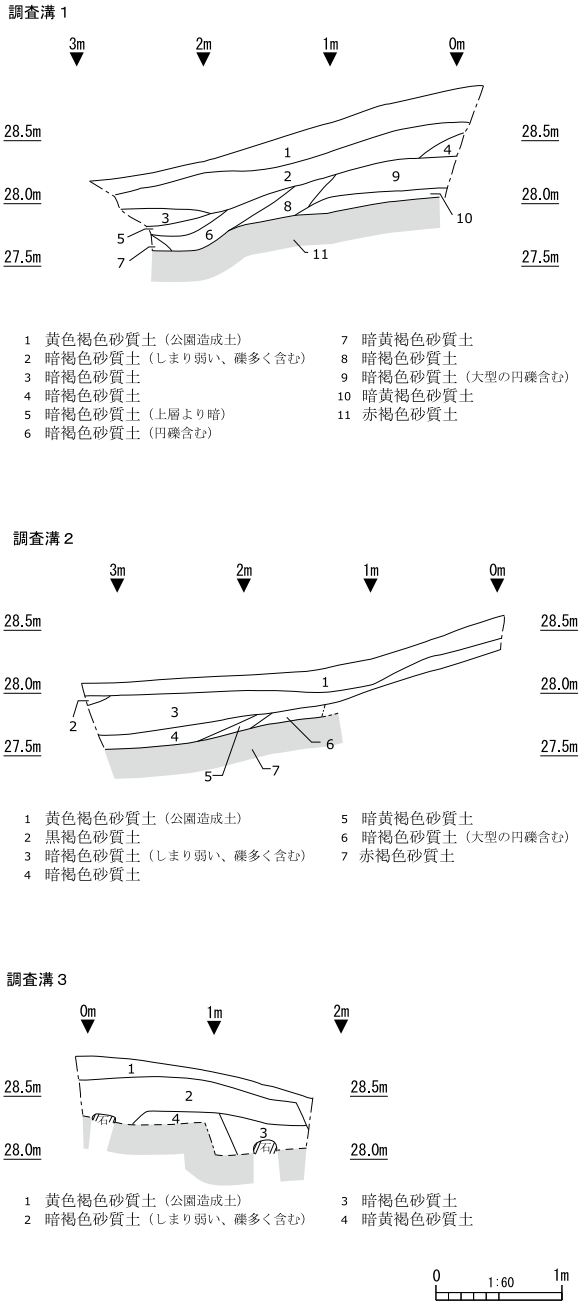
平面図（S=1/400）



1：須恵器（坏身）　2：須恵器（高坏）
1・2：調査溝２ 周溝埋土出土

出土遺物実測図

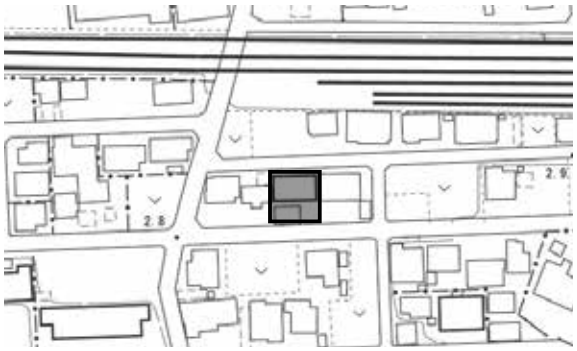
出土遺物



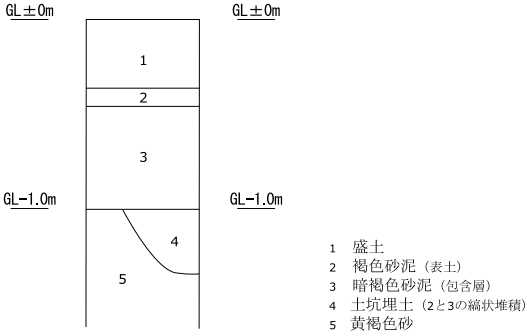
土層断面図（S=1/60）

21　増楽町村中遺跡（ぞうらちょうむらなかいせき）

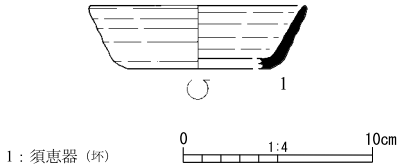
所 在 地　南区増楽町 1053-1
調査期間　2021 年７月２日
調査原因　既存住宅解体
検出遺構　土坑もしくは溝か
出土遺物　須恵器片
調査結果　土坑もしくは溝状遺構と思われる落ち込みを確認し、その上層で須恵器片が出土した。



位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

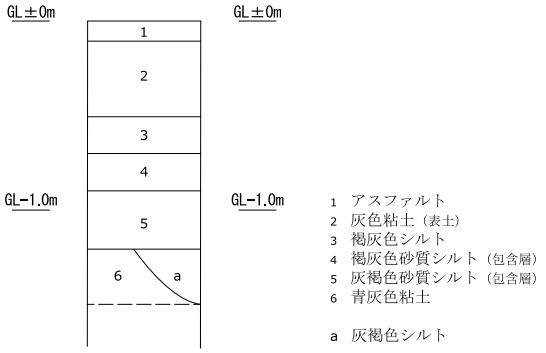


出土遺物実測図

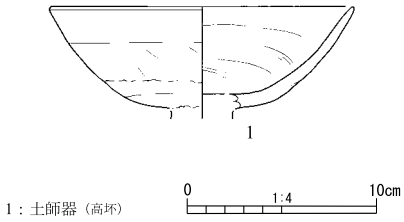
22　山ノ花遺跡（やまのはないせき）

所 在 地　東区恒武町 1175
調査期間　2021 年７月６日
調査原因　上水道管引込工事
検出遺構　なし
出土遺物　土師器
調査結果　古墳時代の包含層（４、５層）を確認した。６層より掘り込まれた遺構を検出したが、遺物は確認されなかった。

位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）

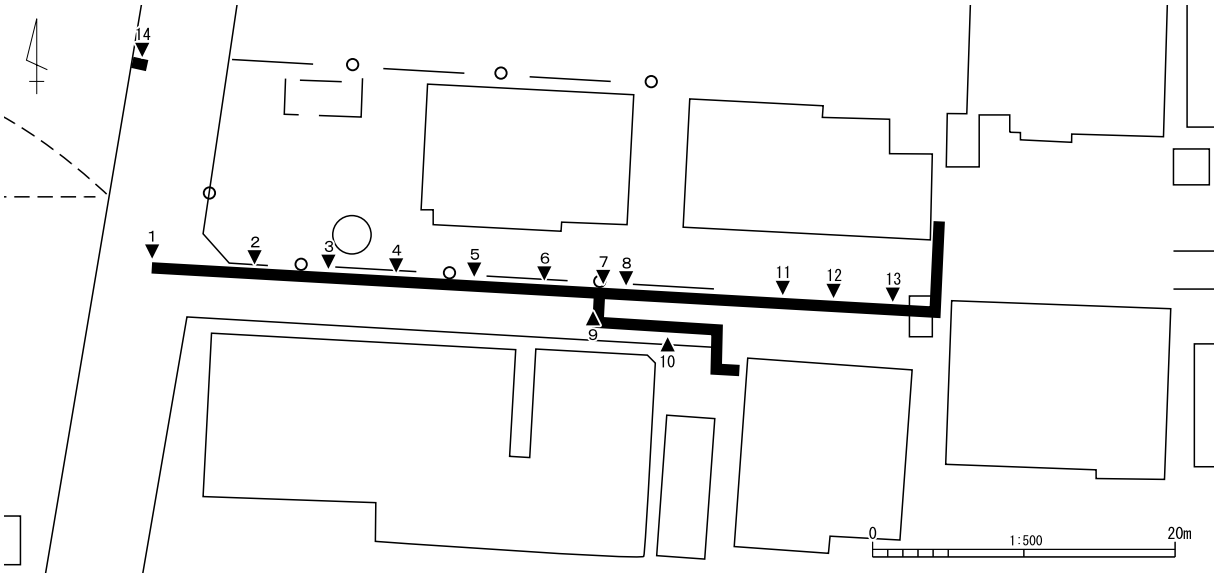


出土遺物実測図

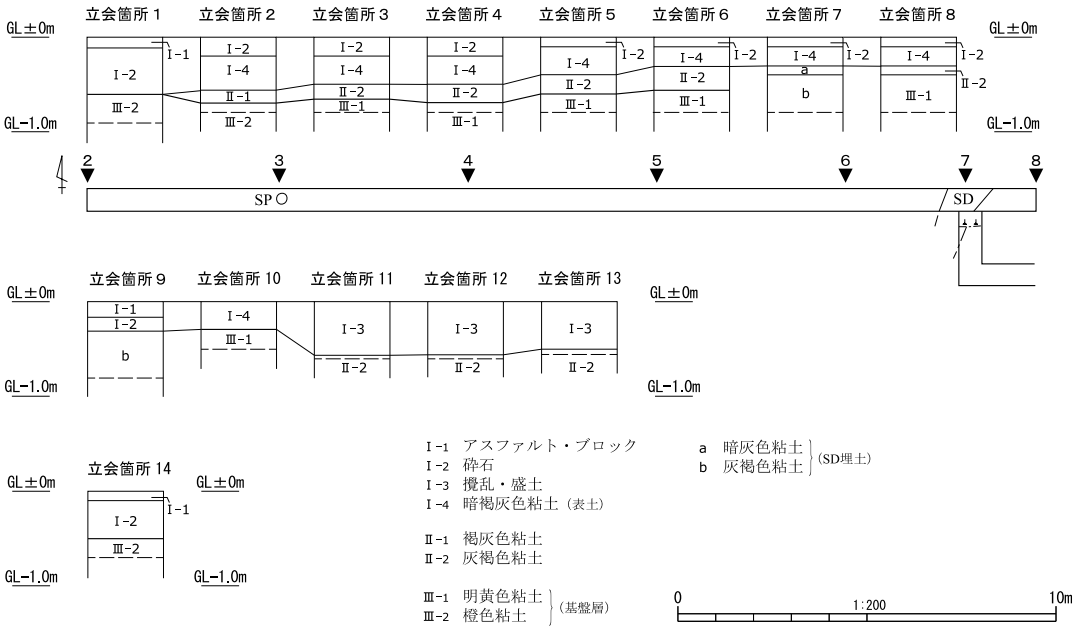
32　東原遺跡（ひがしばらいせき）

所 在 地　浜北区於呂 3072-40 地先
調査期間　2021 年 7 月 19 日、20 日、21 日、27 日
調査原因　水管新設工事・既設排水管の閉栓工事
検出遺構　溝、小穴　　**出土遺物**　弥生土器
調査結果　溝は立会箇所外へと延びていたため全長は不明だが、溝の埋土内からまとまった量の遺物が出土した。周辺の調査事例から、方形周溝墓の可能性が考えられる。

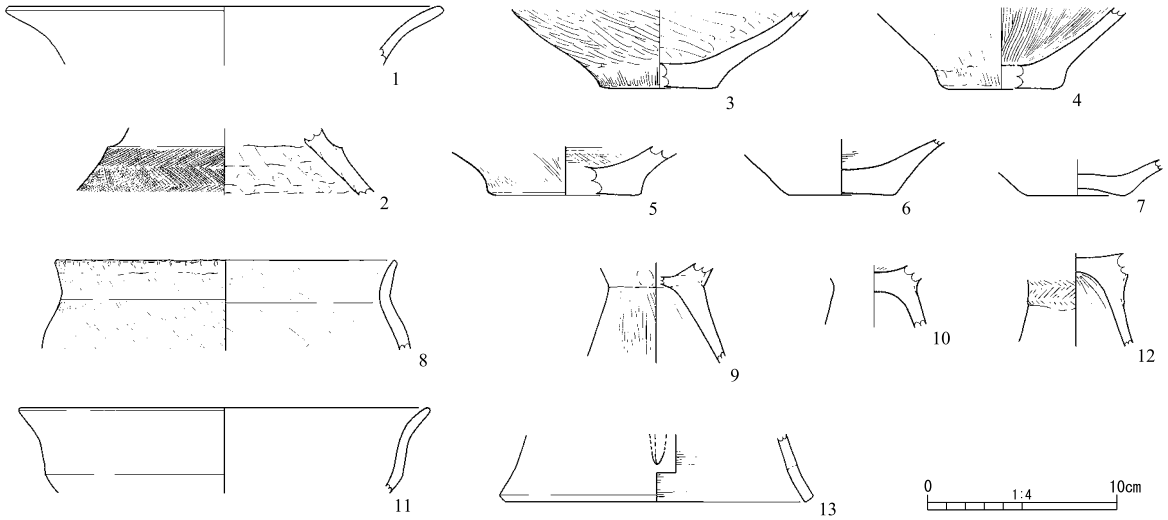
位置図（2,500分の1）



立会い箇所位置図（S=1/500）



土層柱状図（S=1/80）及び平面図（S=1/200）



1～7：弥生土器（壺）　8～10：弥生土器（甕）　11・12：弥生土器（高坏）　13：弥生土器（装飾高坏か？）
1～3・5～13：SD01 出土　4：表土出土

出土遺物実測図

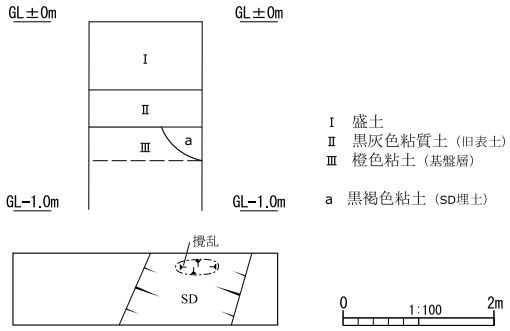
SD 検出状況

SP 検出状況

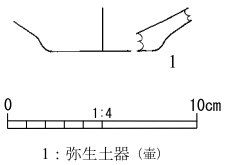
65　東原遺跡（ひがしばらいせき）

所 在 地　浜北区於呂 3072-43、3072-64
調査期間　2022 年２月 22 日
調査原因　見切設置
検出遺構　溝　　**出土遺物**　弥生土器
調査結果　検出位置・規模・出土遺物から令和３年７月の工事立会いで確認した溝と同一遺構と考えられる。

位置図（2,500分の1）



土層柱状図（S=1/40）及び平面図（S=1/100）



1：弥生土器（壺）

出土遺物実測図

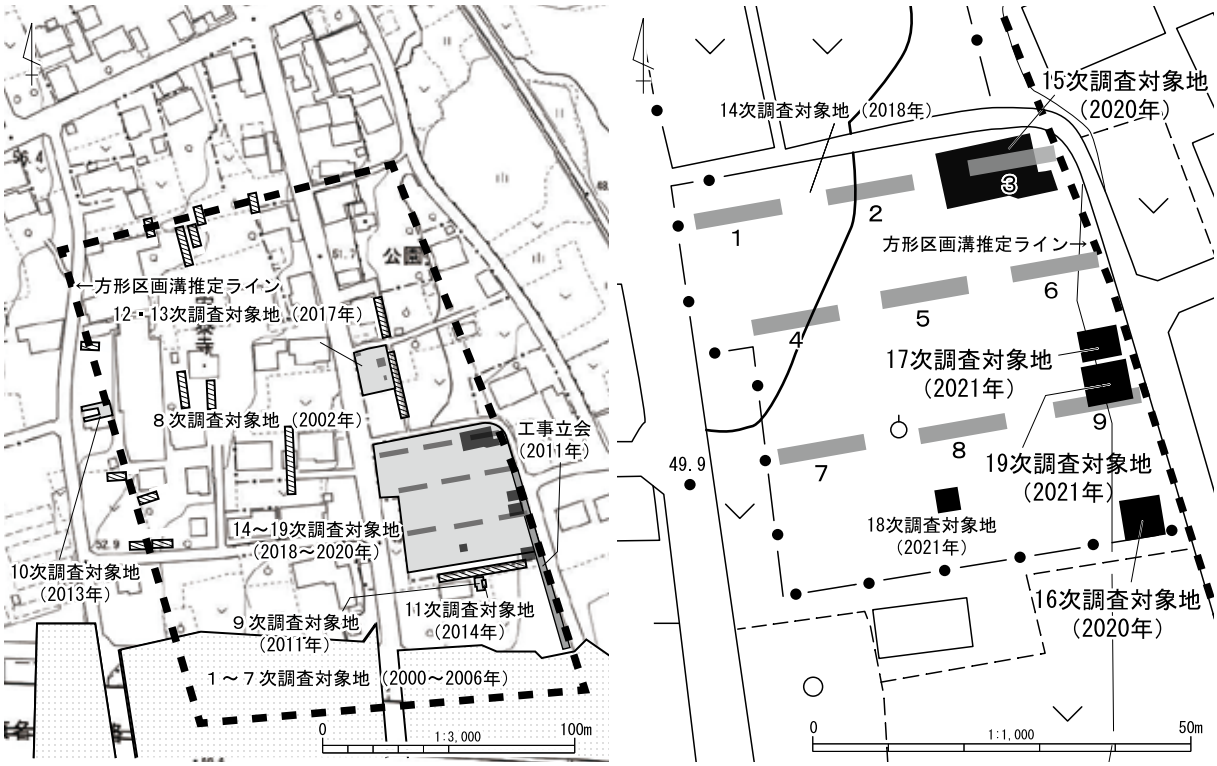
第４章　詳細報告

１　中屋遺跡 15・16・17・19 次調査報告

（１）遺跡の立地と概要

中屋遺跡は、天竜川が形成した河岸段丘（浜北面）上に立地する古代から近世にかけての遺跡である。北側の丘陵上には、旧石器時代の人骨が出土した根堅遺跡をはじめ、古墳時代後期の群集墳や中世墓群が分布している。一方、当遺跡の南側では遺跡の分布が乏しいが、南東側の河岸段丘端部において縄文時代から近世にかけての遺跡が高密度で確認されている。

中屋遺跡は、新東名高速道路建設に伴う発掘調査（1 ～ 7 次調査　財団法人静岡県埋蔵文化財調査事務所 2010）により、存在が明らかとなった遺跡である。7 次調査以降は、開発に伴う小規模な調査が行われており、現在 19 次にわたる発掘調査が実施された結果、遺跡の様相が徐々に明らかとなりつつある。なかでも、東西約 160m、南北約 200m に及ぶ方形区画溝と土塁の存在が明らかとなっており、方形区画溝内からは 12 世紀後半～ 13 世紀代にかけての山茶碗、陶器及び瓦等が出土している。まとまった量の瓦が出土していることから、区画溝は寺院に関連する遺構の可能性が指摘されており、北東約 500m に位置する岩水寺との関連性が想起されるが、依然として不明な点が多く残る。また、方形区画溝の東側では、河川跡に築造された護岸施設内から、完形に近い状態で鎌倉時代の黒漆塗の螺鈿鞍が 1 点出土している。遺存状態の良い鎌倉時代の螺鈿鞍としては、国内初の事例であり、現在静岡県の有形文化財に指定されている。また、螺鈿鞍の下からは５枚の呪符木簡とヤダケの束が出土しており、鞍を含めたこれらの遺物は、護岸工事の際に行われた地鎮祭祀等に伴うものと考えられる。



第１図　中屋遺跡における調査履歴

調査経緯　平成 31（2019）年に中屋遺跡の埋蔵文化財包蔵地内において、宅地造成の計画が浮上したため、予備調査（14 次調査）を実施した。調査の結果、対象地の東側において方形区画溝を検出したほか、13 世紀代の遺構・遺物を確認した。こうした結果を受けて遺跡の取扱いについて協議を行った結果、遺跡の保護を図れない部分を対象として本発掘調査を実施した。15 次調査は令和２（2020）年４月６日～ 10 日、調査面積は約 88 ㎡、16 次調査の調査は令和２（2020）年 10 月８日、調査面積は約 32 ㎡、17 次調査の調査は令和２（2020）年７月５日、調査面積は約 36 ㎡、19 次調査の調査は令和３（2021）年３月３日、調査面積は約 16 ㎡である。

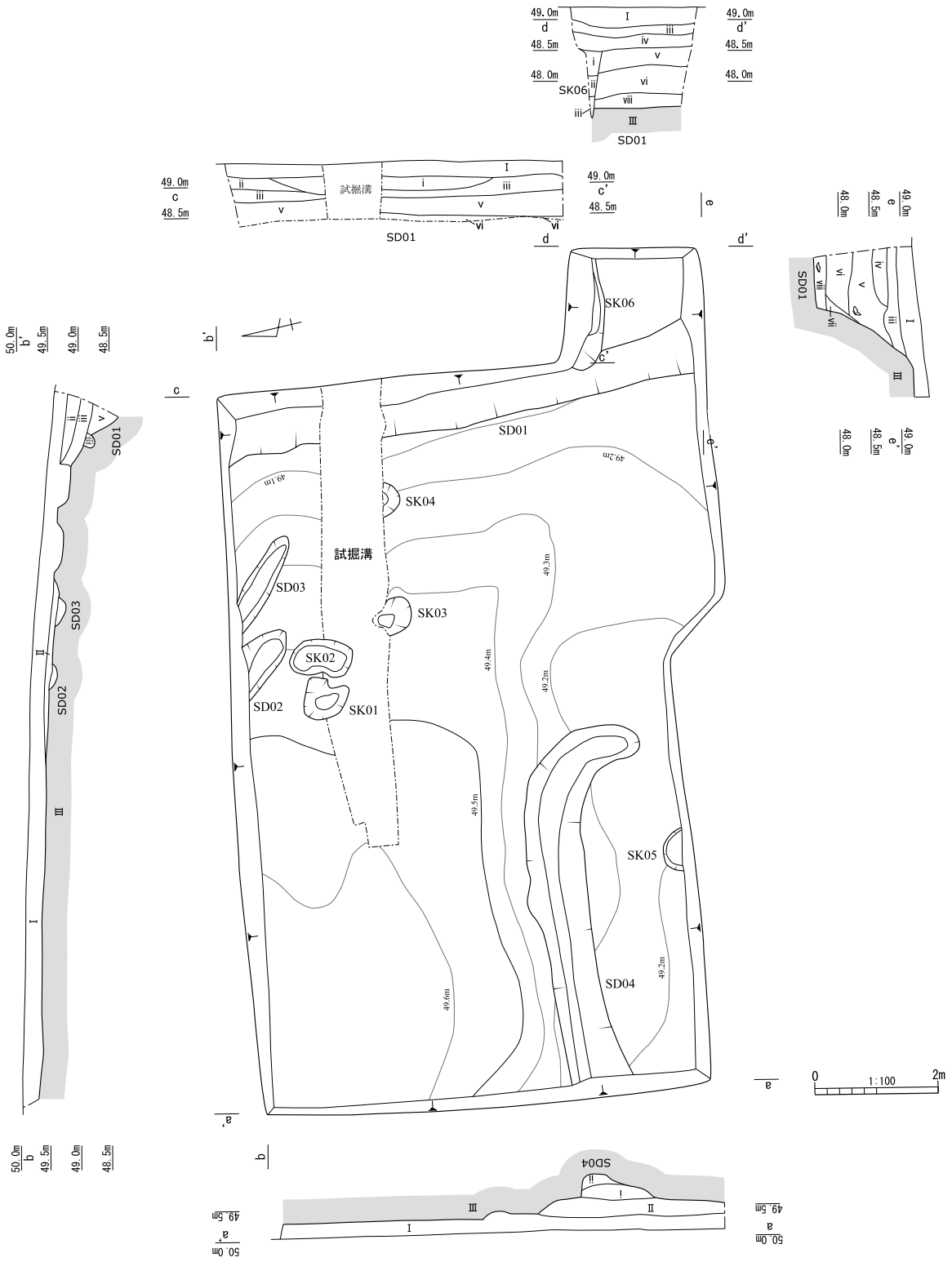
（２）15 次調査の成果

土層堆積状況　調査対象地内における基本層序は、上層より黒褐色粘質土（表土）、黄褐色粘質土（基盤層）の順である。基盤層は南側に向かって低くなり、調査区の南西側においては、基盤層直上に、20 ～ 30cm 程度暗褐色粘質土（礫混じる）の堆積を確認した。

検出遺構　溝４条、土坑６基を検出した。調査区の東端で南北に延びる SD01 を検出した。SD01 の規模は、延長 7.7m、幅 2.1m、検出面からの深さは 1.6m である。出土遺物から 13 世紀代の遺構と考えられ、検出した位置や出土遺物の年代から、これまでの調査で確認されていた方形区画溝の一部と捉えられる。SD02・SD03 を調査区の北端で検出した。調査区外へと延びているため、本来の規模は不明であるが、SD02 は延長 80cm、幅 70cm、深さ 18cm、SD03 は延長 1.5m、幅 48cm、深さ 18cm を測る。いずれの遺構内からも遺物が出土しなかったため、時期は不明である。SD04 は調査区の西側で検出した東西方向に延びる溝である。SD04 の西端は調査区外へと延び、東端では進路を南へと 90°屈曲しているが、調査区内で延長約 6.5m を確認した。出土した遺物から中世の遺構と捉えられる。調査区の東側を中心に土坑を６基検出した。SK05 は調査区の南端で検出した浅い土坑である。SK05 の南側は、調査区外へと及んでいるため本来の規模は不明であるが、直径 70cm 程度と考えられる。調査区の東端において SK06 を検出した。土層断面を精査したところ、SK06 は SD01 がある程度埋没した段階で掘り込まれた状況を確認した。遺物が出土しなかったため、SK06 の時期は不明と言わざるをえないが、SD01 の年代から推察すると、Sk06 は中世末～近世の遺構と捉えておきたい。

出土遺物　出土遺物を第３図に示す。1 ～ 23 は SD01 から出土した遺物である。1 ～ 11 は山茶碗、12・13 は山皿である。いずれも 13 世紀代のものと考えられる。14 は常滑焼の甕の口縁部であり、13 世紀後半のものとみられる。15 は渥美産の甕の体部であり、12 世紀頃のものと考えられる。16 は青磁碗の底部である。17 ～ 21 は非ロクロ成形のかわらけである。22・23 は丸瓦である。いずれも凹面に布目痕がみられ､22 には吊り紐痕が認められる。24 ～ 26 は SD04 から出土した遺物である。24・25 は山茶碗の底部である。高台部が扁平化しており、13 世紀代の遺物とみられる。26・27 は瀬戸美濃産の皿であり、14 ～ 15 世紀代の遺物と捉えられる。28 は SK05 から出土した非ロクロ成形のかわらけである。29 ～ 31 は遺構外からの出土遺物である。29 は山茶碗､30 は志戸呂産の丸皿、31 はかわらけである。29･31 は 13 世紀代、30 は 16 世紀後半から 17 世紀初頭の遺物と考えられる。

結　語　今回の発掘調査の結果、方形区画溝（SD01）など 13 世紀代を中心とした遺構・遺物を確認した。方形区画溝は、14 次調査においても確認されていたが、今回の調査から方形区画溝の東端の位置が追認されたと言える。方形区画溝の内部では、土坑及び溝を検出した。SD04 からは山茶碗や瀬戸美濃産の陶器など 13 世紀～ 15 世紀代の遺物を確認した。出土遺物に時期幅が見られるが、方形区画溝と同時期の遺物も出土していることから、関連する遺構の可能性が考えられる。



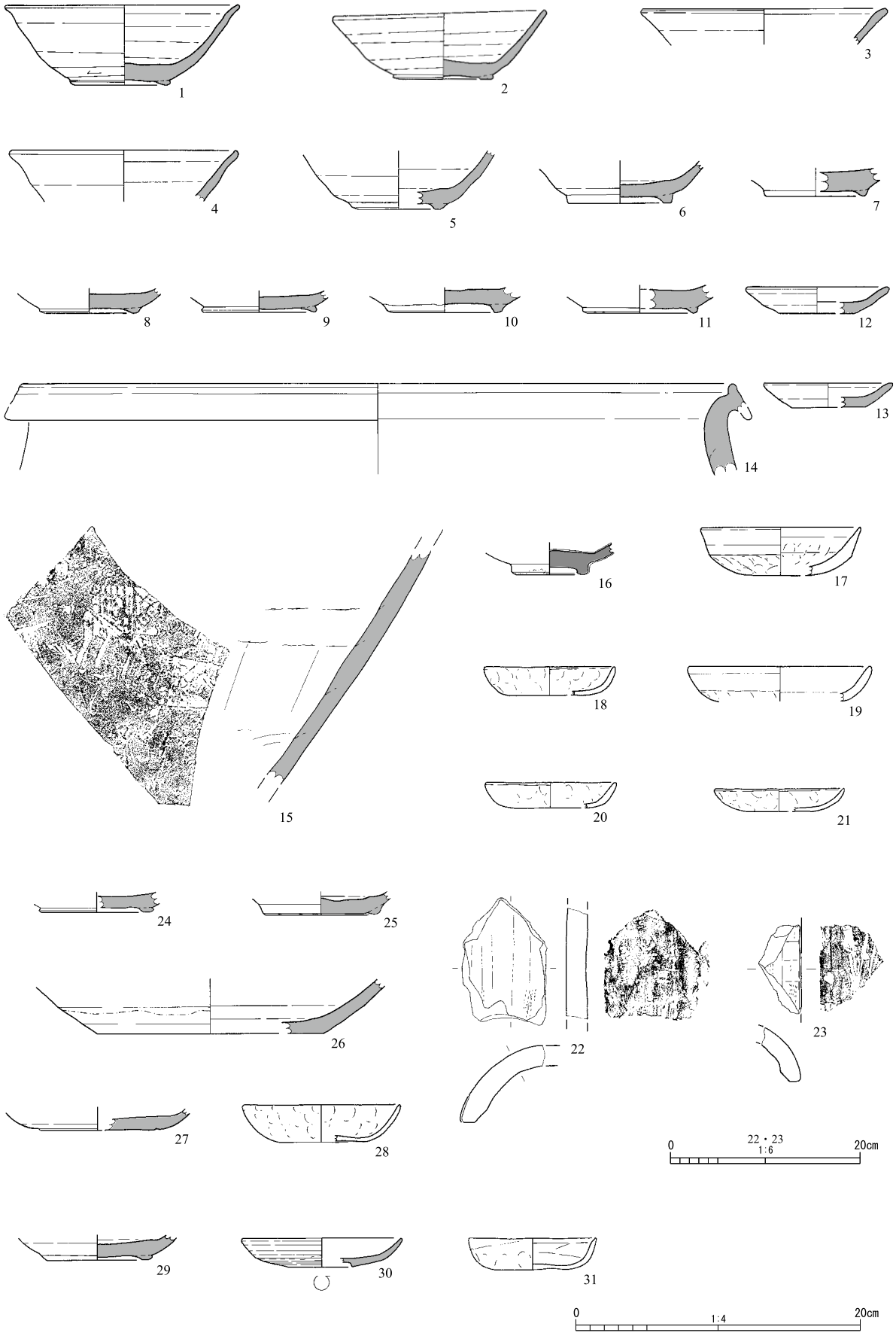
Ⅰ　黒褐色粘質土（表土・小礫混じる）
Ⅱ　暗褐色粘質土（小礫混じる）
Ⅲ　黄褐色粘質土

SD01
- i　黒褐色粘質土・黄褐色粘質土の混層（拳大の礫多く混じる）
- ii　黒褐色粘質土（小礫混じる）
- iii　暗褐色粘質土（小礫混じる）
- iv　暗灰色粘質土（礫少量混じる）
- v　暗褐色粘質土（礫少量混じる）
- vi　黒褐色粘質土（礫少量混じる）
- vii　暗褐色粘質土・黄褐色ブロック混層（小礫混じる・初期混入）
- viii　暗黄褐色粘質土（礫混じる　初期流入か）

SD03　黒褐色粘質土
SD02　暗黄褐色粘質土
SD04
- i　暗褐色粘質土
- ii　黒褐色粘質土

SK06
- i　褐色粘質土
- ii　暗褐色粘質土
- iii　暗灰色粘質土

第２図　15 次調査平面図及び土層断面図



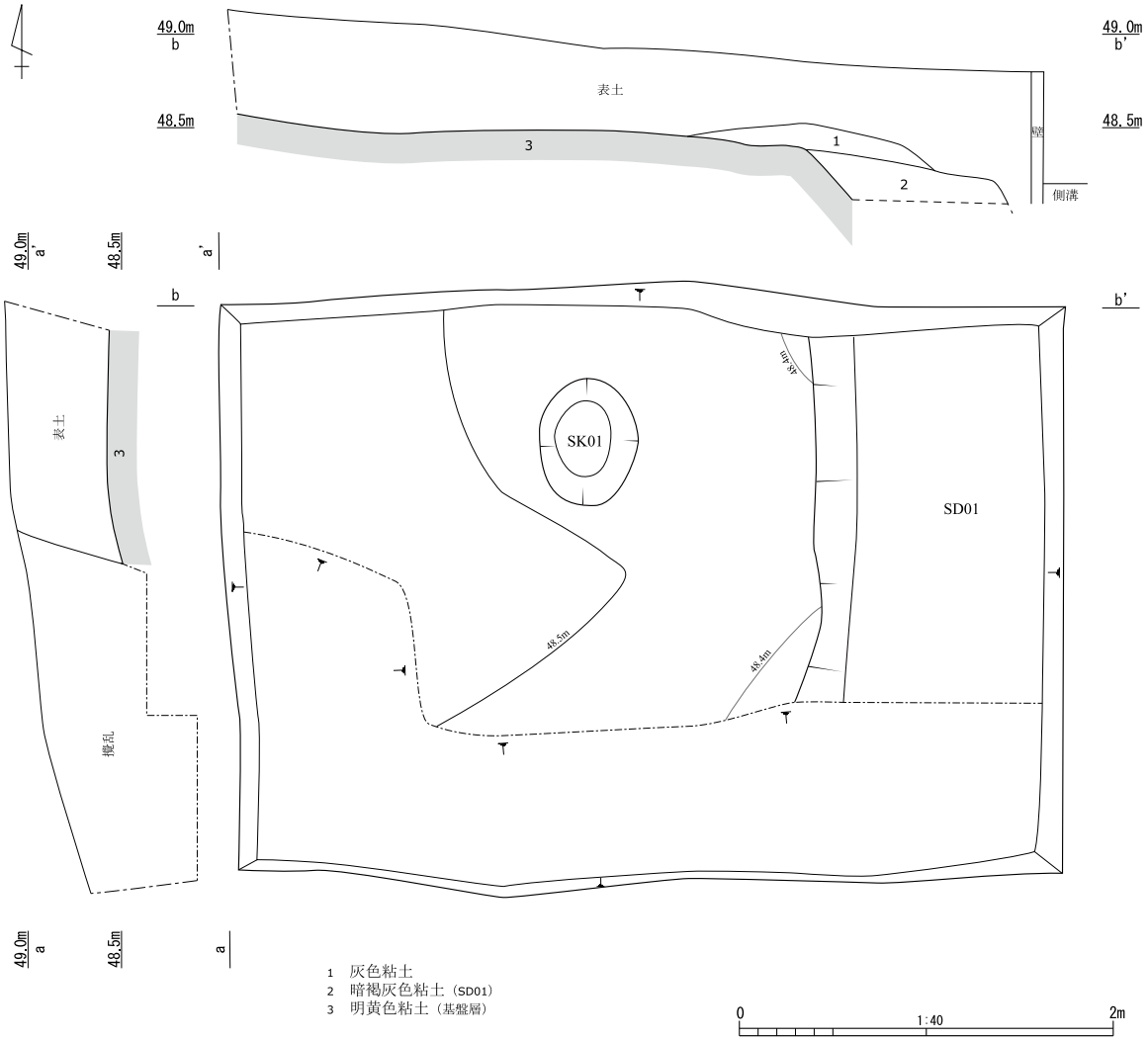
第３図　15 次調査出土遺物実測図

（３）16 次調査の成果

土層堆積状況　調査対象地内における土層堆積状況は、現況地盤より 50cm 程度表土が堆積し、その直下に明黄色粘土の基盤層を確認した。基盤層はおおむね西側で高く、東側に向かって緩やかに低くなることを確認した。なお、対象地の南側は、攪乱と湧水の影響により、基盤層は確認できなかった。

検出遺構　溝１条、土坑１基を検出した。調査区の東側で南北に延びる SD01 を検出した。検出面での規模は、延長 2.0m、幅 1.2m である。遺構の保護が可能な深さまでの調査に留めたため、検出面から 30cm まで掘削したが、完掘には至らなかった。SD01 内からは、遺物は確認されなかったが、検出した位置や規模から、過去の調査で確認されている方形区画溝と同一遺構と考えられる。調査区の中央北側で SK01 を検出した。SK01 の規模は、長辺 75cm、短辺 50cm のやや南北に長い楕円形を呈する。深さは 23cm、埋土は黒褐色粘土である。遺物は出土しなかったため、帰属時期は不明である。

結　語　今回の発掘調査の結果、方形区画溝（SD01）の一部と土坑１基を確認した。調査範囲が狭小であり、遺物も出土しなかったこと等から、SD01 の全容は明らかにできなかったが、区画溝の東辺の位置が確認された。



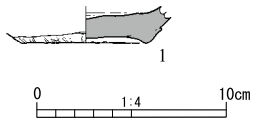
第４図　16 次調査出土遺物実測図

（４）17 次調査の成果

土層堆積状況　宅地化する以前の調査対象地は農地として利用されていたが、表層の削平が進んでおり、西側は撹乱が顕著な褐色砂質土、東側は暗褐色シルトの遺構埋土が露出している状態であった。基盤層は黄褐色粘質土である。

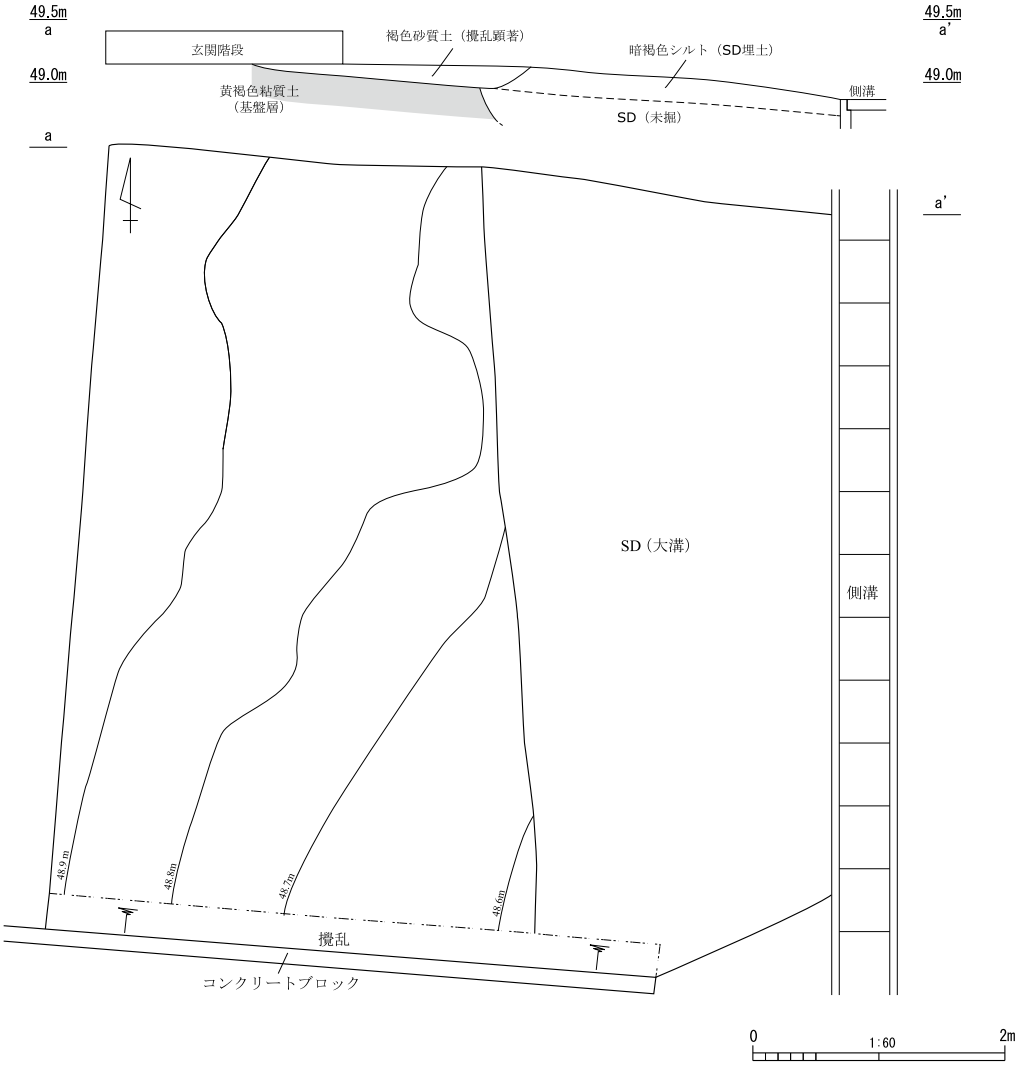
検出遺構　調査区の東側で南北に延びる大型の溝 SD01 を検出した。検出面での規模は、全長 6.2m、幅 2.7m である。溝の東端は既存の道路下に続いており、本来の幅はさらに拡大すると考えられる。工事の施工内容から遺構の保護が可能であることから、調査は平面検出に留め底面まで掘削は行わなかった。SD01 内からは、後述する山茶碗が出土した。検出した位置や規模から、過去の調査で確認されている方形区画溝と同一遺構と考えられる。

出土遺物　SD01 の埋土中から 1 の山茶碗が出土した。底部の破片であり、13 世紀代のものと考えられる。



第５図　17 次調査出土遺物実測図

結　語　今回の発掘調査の結果、方形区画溝（SD01）の一部を確認した。平面検出に留めたため深さは明確ではないが、過去の調査で検出されている方形区画溝の延長方向が明らかとなり、区画東辺の様相が確認できた。

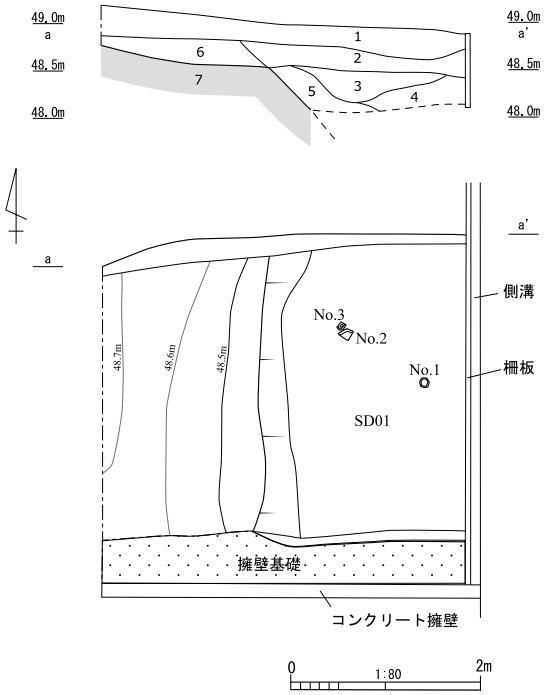


第６図　17 次調査平面図及び土層断面図

（５）19 次調査の成果

土層堆積状況　調査対象地内における土層堆積状況は次のとおりである。上層より、褐色砂泥（表土）、褐色砂泥（赤褐色や黄褐色の小礫と黄褐色粘質土のブロックを含む漸移層）、黄褐色粘質土（基盤層）の順に確認した。

検出遺構　溝１条を検出した。調査区の中央から東側にかけて、南北に延びる SD01 を検出した。過去の調査で確認されている方形区画溝の一部と考えられる。検出面での規模は、延長 3.15m、幅 2.15m である。なお、遺構の保護層が確保できる深さまでの調査に留めたため、完掘には至らなかった。埋土は、暗褐色～黒褐色砂泥であり、上層（２・３層）には小礫が含まれるが、下層（４・５層）は小礫が含まれず、粘性が強い傾向が見られる。SD01 は主体となる遺物の年代から 13 世紀代の遺構と捉えられる。



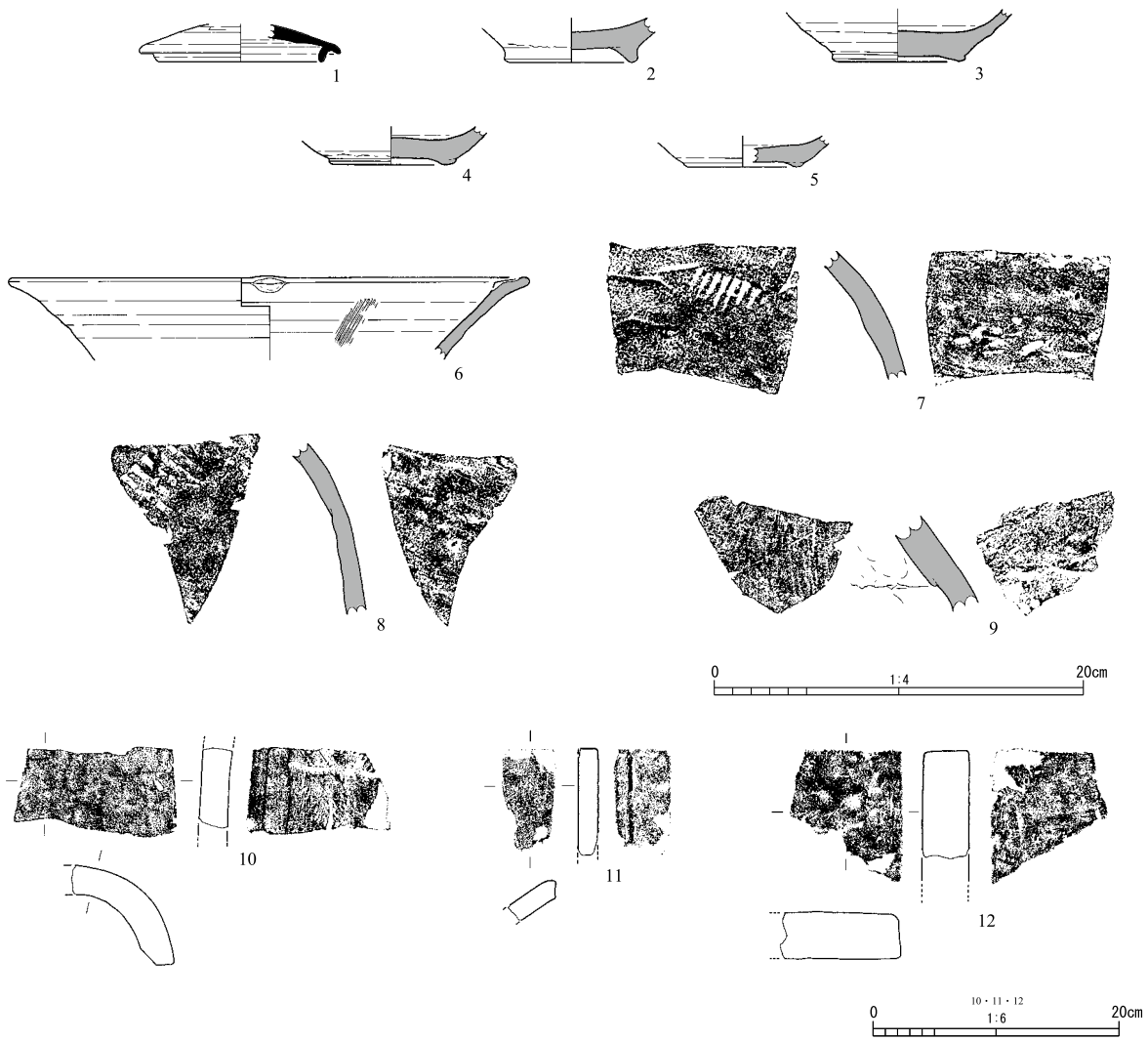
1　褐色砂泥（表土）
2　褐色砂泥、赤褐色や黄褐色の小礫（5mm-1cm）を含む
3　暗褐色砂泥、赤褐色や黄褐色の小礫（5mm-1cm）を含む
4　暗褐色砂泥
5　黒褐色砂泥、粘質が強い
6　褐色砂泥、赤褐色や黄褐色の小礫と黄褐色粘質土のブロックを含む（漸移層）
7　黄褐色粘質土（地山）
(2-5　SD01埋土)

第７図　19 次調査平面図及び土層断面図

出土遺物　第８図に出土遺物を示す。遺物は全て SD01 からの出土である。1 は須恵器の蓋である。形態的特徴から 7 世紀前半の遺物と考えられる。2 ～ 5 は山茶碗の底部片である。底部には糸切痕が見られる。高台は、2 はやや高い形態を呈するが、3 ～ 5 は扁平化が進んでいる。いずれも 13 世紀代の遺物と考えられる。6 は志戸呂産の擂鉢の口縁部である。口縁部の特徴から 18 世紀頃の遺物と考えられる。7・8 は渥美産、9 は在地産の甕の体部片である。外面にはタタキ痕が見られ、中世のものと考えられる。10 は丸瓦である。凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残り、端部は面取りが施されている。11 は平瓦である。両面に離れ砂が認められる。摩滅が顕著ではあるが、凹面には僅かに布目痕が見られ、端部は面取りが施されている。12 は磚である。厚さは 3.8cm、離れ砂が認められる。

結　語　今回の発掘調査の結果、方形区画溝（SD01）の一部を検出した。13 世紀代を中心とした遺物が出土したが、注目される遺物として瓦と磚があげられる。中屋遺跡では、過去に方形区画溝の南辺を検出した２～５次調査において、まとまった量の瓦が出土している。方形区画溝の東辺においては、これまでに瓦と磚の出土例は無く、今回の調査が初めての出土例であり、磚は当遺跡内においても２例目の出土例である。瓦や磚は寺院関連の施設を想定する遺物であるが、これまでに方形区画の内側での調査事例は乏しく、様相は不明確な点が多い。今後、方形区画の内側での調査事例の増加を待って、検討を行っていく必要があるが、今回の調査成果は方形区画の内側の性格を明らかにする上で重要な成果と言えよう。

（井口智博・川西啓喜）



第８図　19 次調査出土遺物実測図

【参考文献】

山下峰司　1995『4. 灰釉陶器・山茶碗』「概説　中世の土器・陶磁器」真陽社

金谷町史編さん委員会　2003『金谷町史　資料編四　考古・窯業史』

浜北市教育委員会　2003『中屋遺跡　範囲確認調査報告書』

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2010『中屋遺跡　第二東名 NO.130 地点　第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 浜松市－2』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第 234 集

浜松市教育委員会　2011『中屋遺跡９次』

浜松市教育委員会　2014『平成 24 年度 浜松市文化財調査報告』

浜松市教育委員会　2019『平成 29 年度 浜松市文化財調査報告』

浜松市教育委員会　2020『平成 30 年度 浜松市文化財調査報告』

２　別所前遺跡７次調査報告

（１）遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要　別所前遺跡は、浜松市東区市野町地内の平野上に立地する。2019 年に実施した 4 次調査では弥生時代後期の遺構を多数検出し、弥生土器とともに銅鏃が出土した。

調査経緯　遺跡の範囲内において、水道管埋設工事が計画されたことから 2021 年 9 月に予備調査を実施した結果、施工予定範囲の一部で遺物包含層を確認した。このため、工事により影響を受ける部分について本発掘調査を実施した。

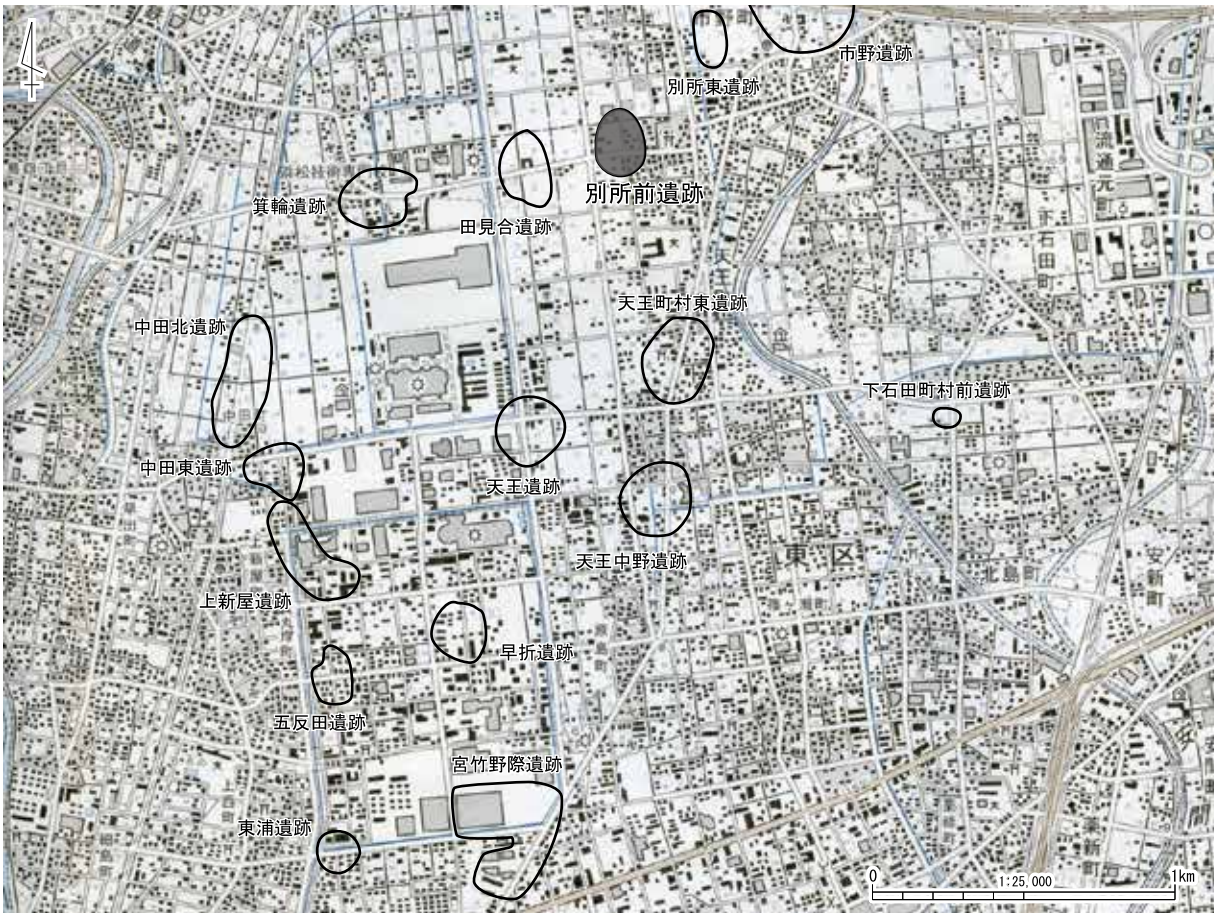
（２）調査の詳細

調査の方法と経過　調査は水道管埋設工事の進捗に合わせ 2021 年 11 月 9 ～ 10 日と 2022 年 2 月 21 ～ 25 日に実施した。現地の事情により工事施工が夜間となったため、調査も夜間に行った。

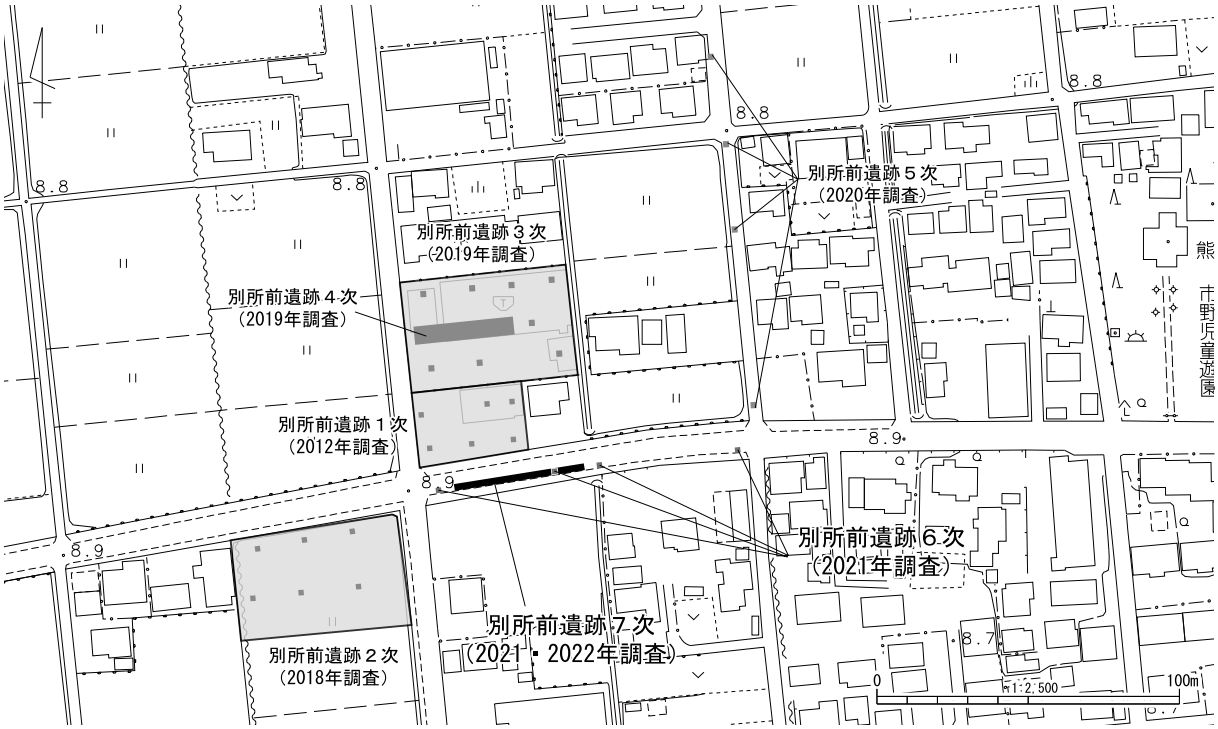
土層堆積状況　調査区は道路内に位置しており、舗装下の土層堆積状況は、道路構築前の水田耕作土である灰色粘土を確認し、青灰褐色粘土、黒灰色粘土、基盤層である青灰色微砂の順に堆積していた。

検出遺構　調査区内を精査した結果、土坑を 1 基検出し、弥生土器が出土した。包含層は比較的良好に残存していたが、その他に遺構は確認できず遺物も出土しなかった。

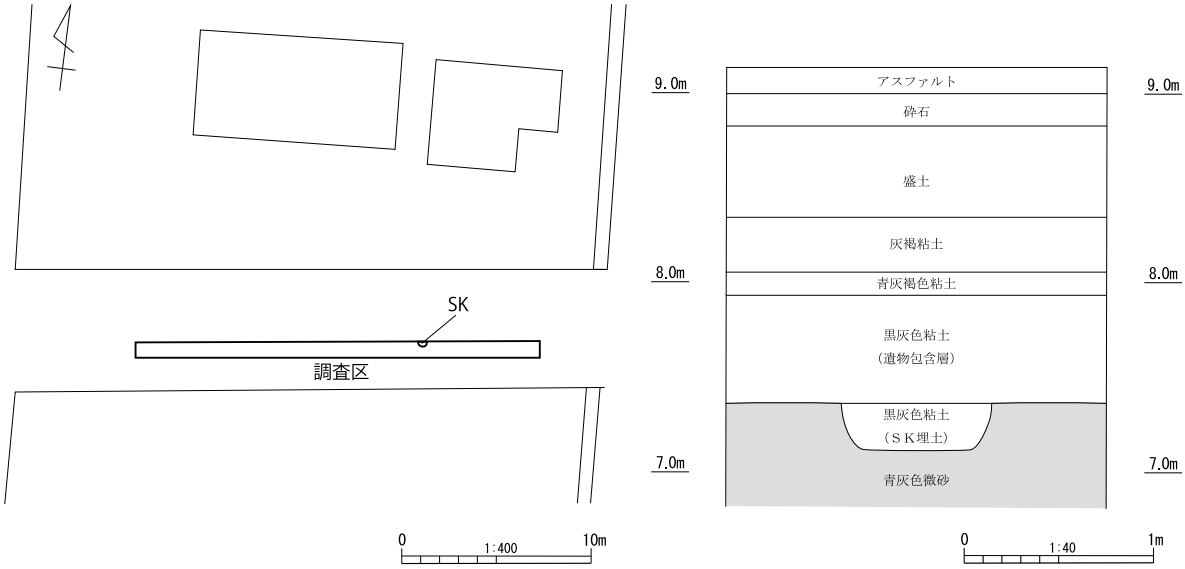
出土遺物　1 は土坑の埋土中から出土した、弥生時代後期の台付甕の口縁部片である。外面はハケ調整が施され、口線端部には刺突が認めらる。



第 9 図　別所前遺跡周辺の遺跡分布



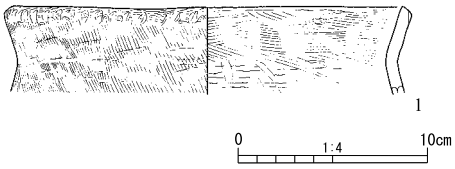
第 10 図　別所前遺跡周辺の遺跡分布



第 11 図　７次調査平面図及び土層柱状図

（３）結　語

今回の調査の結果、密度は低いものの弥生時代後期の遺構と遺物を確認した。北側に位置する４次調査区においては、同時期の遺構と遺物が高い密度で分布していたが、今回の調査地点における遺構と遺物の検出量に乏しく集落の中心域からは外れていると推定される。別所前遺跡における弥生時代後期の集落の様相について未だ不明確な点が多いことから、今後の調査の進展に期待したい。（井口智博）



第 12 図　７次調査出土遺物実測図

３　芝本遺跡 32 次調査報告

（１）遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要　芝本遺跡は、浜松市浜北区於呂の河岸段丘上に立地する弥生時代から中世の遺跡である。遺跡は河岸段丘に沿って南北に細長く広がっており、その長さは 1.4 ㎞ほどに及ぶ。古くから遺跡の存在が知られ、これまでに浜名高等学校や浜北市教育委員会による発掘調査が複数回実施され、弥生時代後期を中心に遺構や遺物が検出されており、隣接する東原遺跡とともに浜北地区を代表する弥生時代の集落跡として知られている。芝本遺跡内は遺構や遺物の展開状況からＡ～Ｈの８地点に細分されており、今回の調査地点は、Ｃ地点に位置する。現地は浜名用水路に面した段丘端になっており、近傍では、1965 年に道路を挟んで北側の一帯で、浜名高等学校による発掘調査（３次調査）が実施され、弥生時代中期の遺構と遺物を検出している。

調査経緯　遺跡の範囲内において宅地造成が計画されたことから、埋蔵文化財の有無を確認するための予備調査を 2021 年 10 月に実施した結果、対象地のほぼ全域で遺構と遺物が確認され、特に東側において複数の竪穴建物跡など多数の遺構を検出した。事業者と協議の結果、宅地造成により影響を受ける部分について本発掘調査を実施することとなった。

（２）調査の詳細

調査の方法と経過　開発対象地のうち、宅地造成により埋蔵文化財が影響を受ける部分について調査区を設定した。調査区は敷地北側の駐車場及び通路造成部分をＡ区、南側の擁壁設置部分をＢ区とした。調査はＡ区を 2021 年 12 月 20 日～ 23 日に、Ｂ区を 2022 年 1 月 17 日に合計 153 ㎡を対象に実施した。

土層堆積状況　土層堆積状況はＡ区、Ｂ区ともにほぼ共通しており、暗褐色シルト層（Ⅰ層）、黒褐色シルト層（Ⅱ層）、漸移層である暗茶褐色シルト層（Ⅲ層）、基盤層である褐色シルト層（Ⅳ層）の順に堆積していたが、Ａ区の東側及びＢ区全域では耕作による深耕が進んでおり、Ⅱ層の存在は明確ではなかった。

第 13 図　弥生時代における芝本遺跡と周辺の遺跡

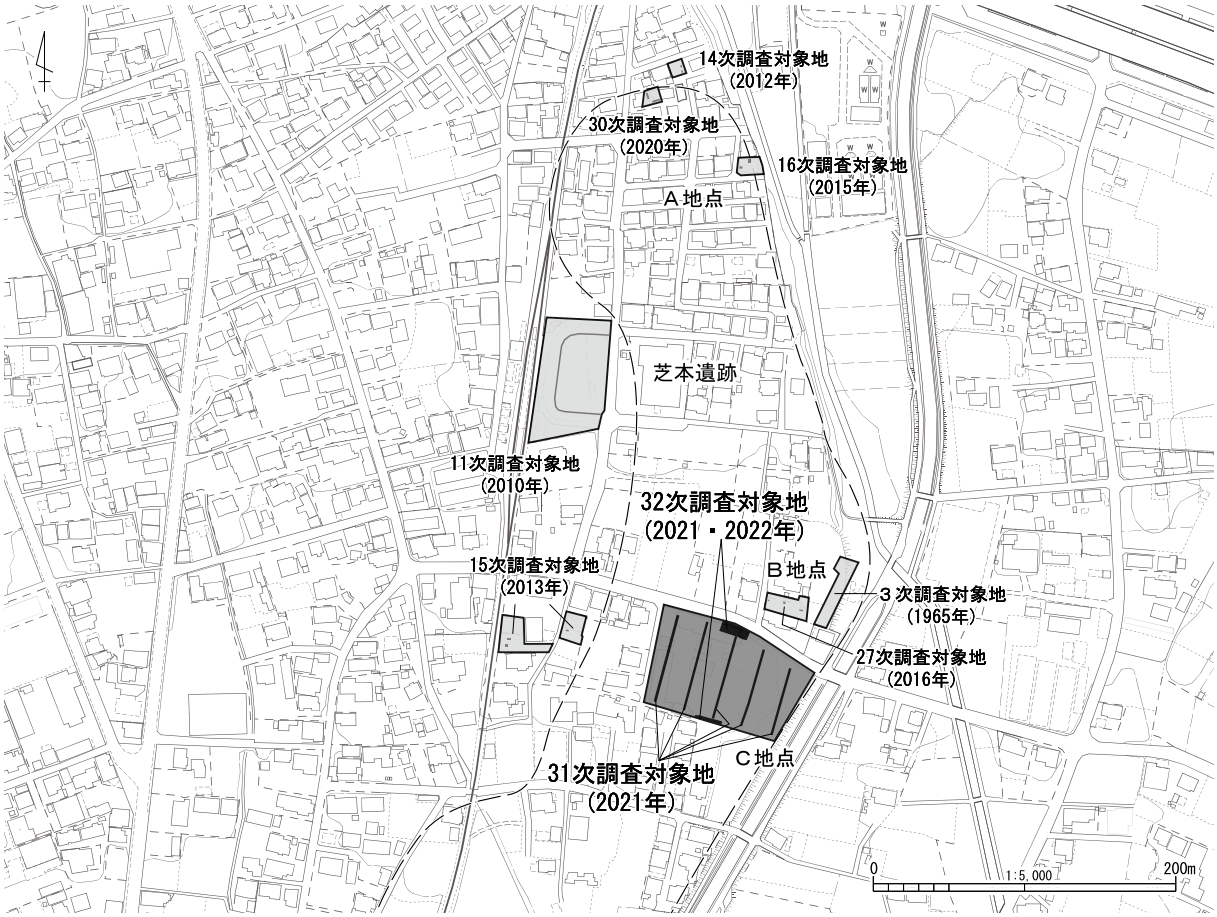
検出遺構　調査区内を精査した結果、Ａ区においては、複数の竪穴建物、土坑、溝、小穴を検出し、Ｂ区では溝や小穴を検出した。

Ａ区では５基の竪穴建物を検出した。いずれも建物規模は小さく、やや不整形なものの平面形は隅丸方形を呈する。SB01 は調査区北側で検出した１辺 3.2 ｍの建物である。重複して SP14 を確認しているが、出土遺物から SB01 に伴う柱穴ではないと考えられる。SB02 は調査区南側で検出したやや不整形な建物である。床面には貼床が認められたほか、炉跡とみられる焼土塊が確認できた。SB03 は中央東寄りで検出した調査区一辺 3.5 ｍの建物である。床面には貼床が認められるが、貼床の範囲は建物外周の平面形と方向が一致しないことから、同一箇所で建替えが行われたと考えられる。SB04 は調査区南東側で検出した建物跡である。南側は調査区外、東側は削平を受けていたため、全体形は不明である。床面近くまで削平を受けていたため遺存状態は良くなかったが、貼床が僅かに認められた。SB05 は調査区南西端で検出した建物であるが、大部分が調査区外のため全体形は不明である。

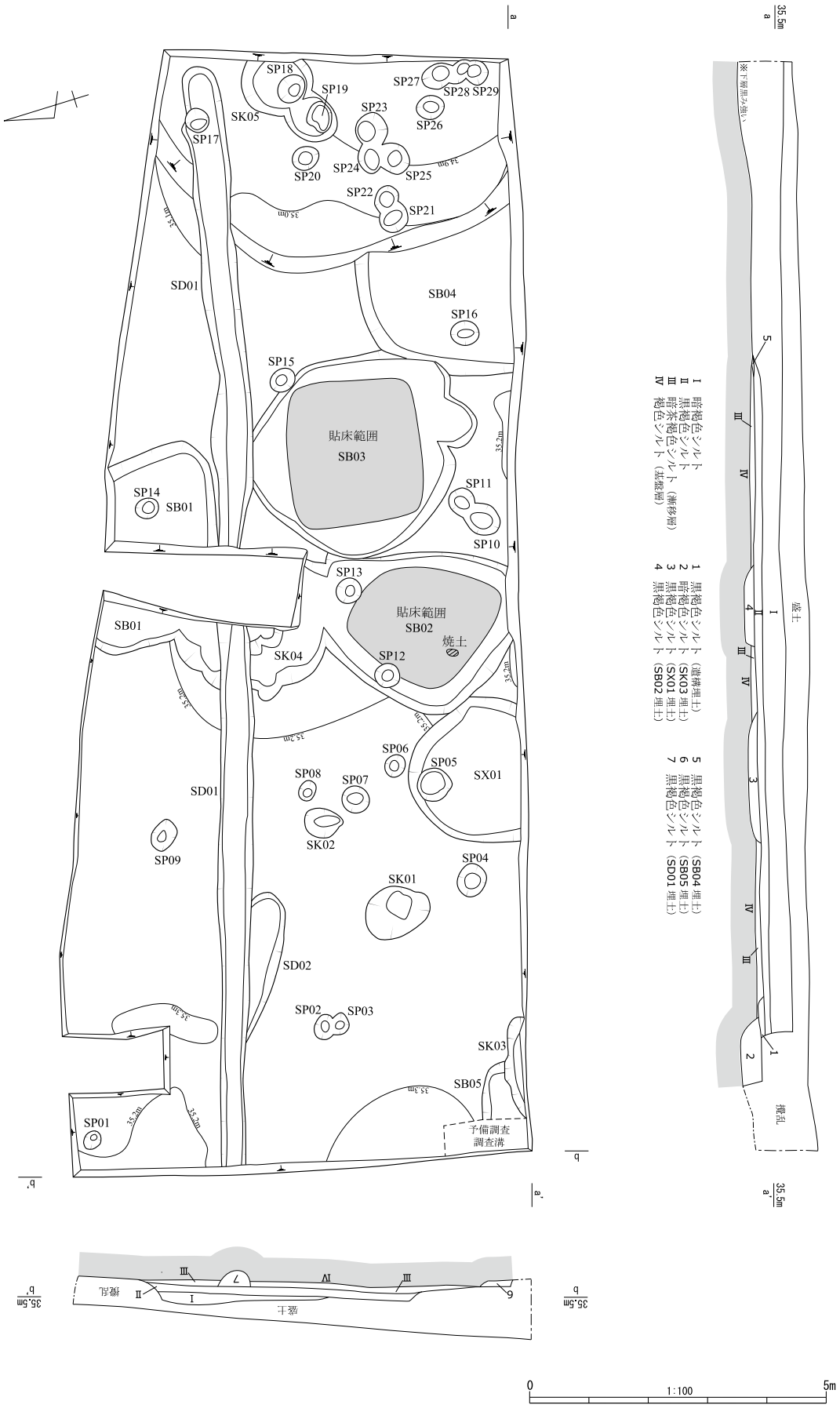
土坑は大型のものを１基、小型のものを５基検出した。SX01 は調査区南側で検出した長軸 2.5 ｍの大型の土坑である。SB02 と接しており、竪穴建物に付随する遺構の可能性がある。

溝は２条を検出した。SD01 は調査区を東西方向に横切る溝である。幅は 0.4 ～ 0.7 ｍ程で直線的に掘られている。遺物は弥生土器が出土しているが、埋土の特徴や他の遺構との重複関係から比較的新しい時期に掘削されたものと考えられる。

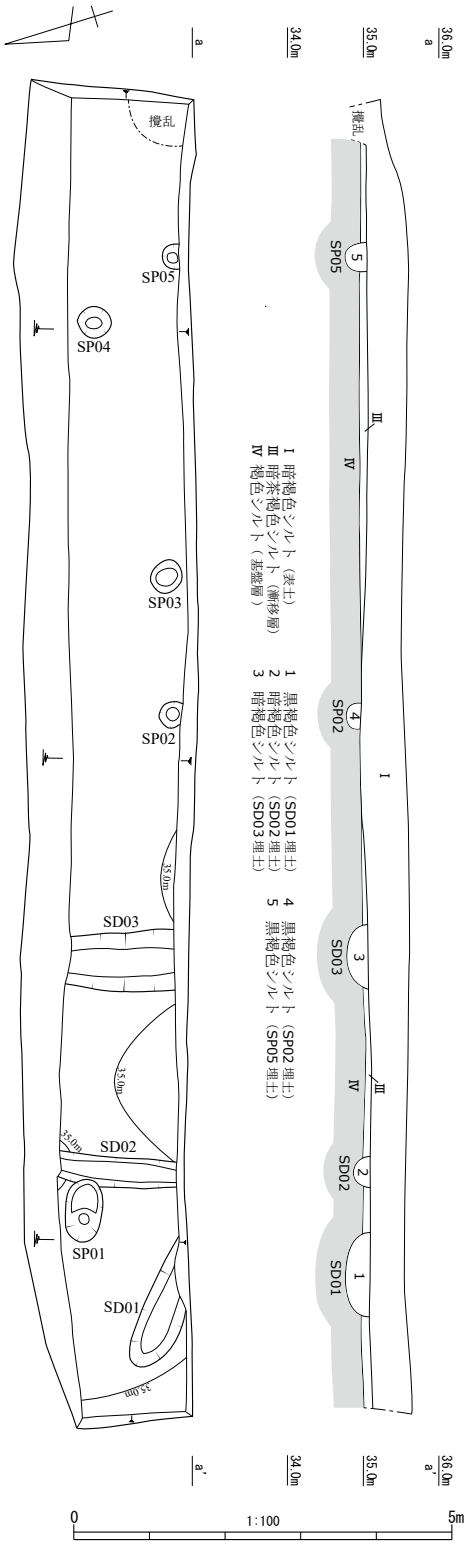
小穴は 29 基を検出し、規模や形状から建物の柱穴の可能性が考えられるが、配置から明確に建物跡を見出すことはできなかった。



第 14 図　32 次調査地点と周辺の調査箇所



第 15 図　A 区調査区全体図



第16図　B区調査区全体図

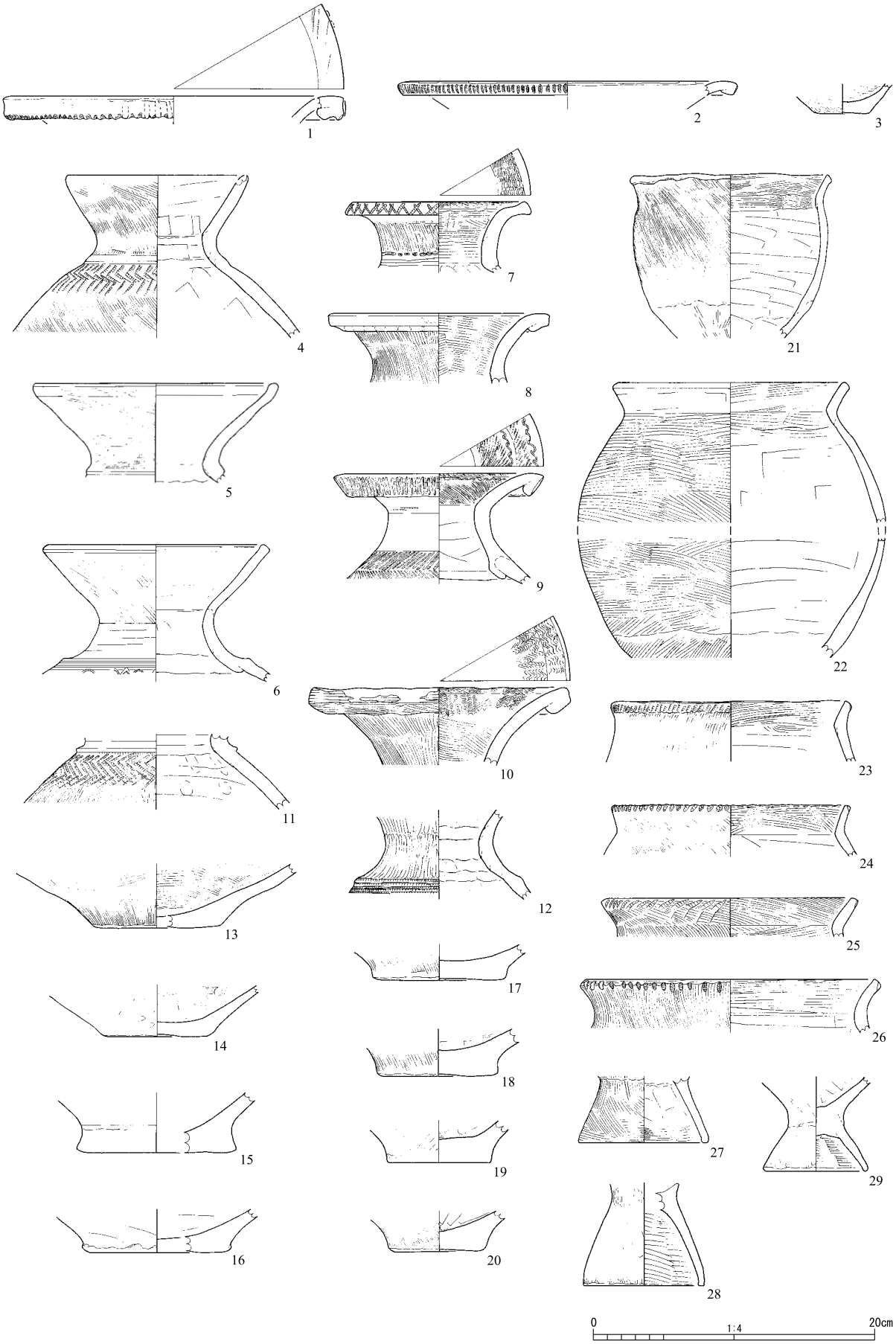
遺物は弥生土器が出土し、特にSB03からの出土量が多かった。弥生土器の大半は後期のものであり、多くの遺構の帰属時期はここに含まれると考えられるが、中期のものも少量含まれており、SP14及びSP15はこの時期と考えられる。

B区では、調査区が狭小であるため確認できた遺構は多くはなかったが、溝や小穴を検出した。溝は３条を検出した。SD01は北西方向から南東方向に掘削されていたのに対し、SD02とSD03は調査区と直交するように南北方向に掘削されていた。小穴は５基を検出したが、建物跡は見出せなかった。遺物は弥生土器が出土し、特にSD01からの出土量が多かった。弥生時代中期に遡る可能性がある遺物が少量認められるものの、遺構の帰属時期はいずれも弥生時代後期と考えられる。

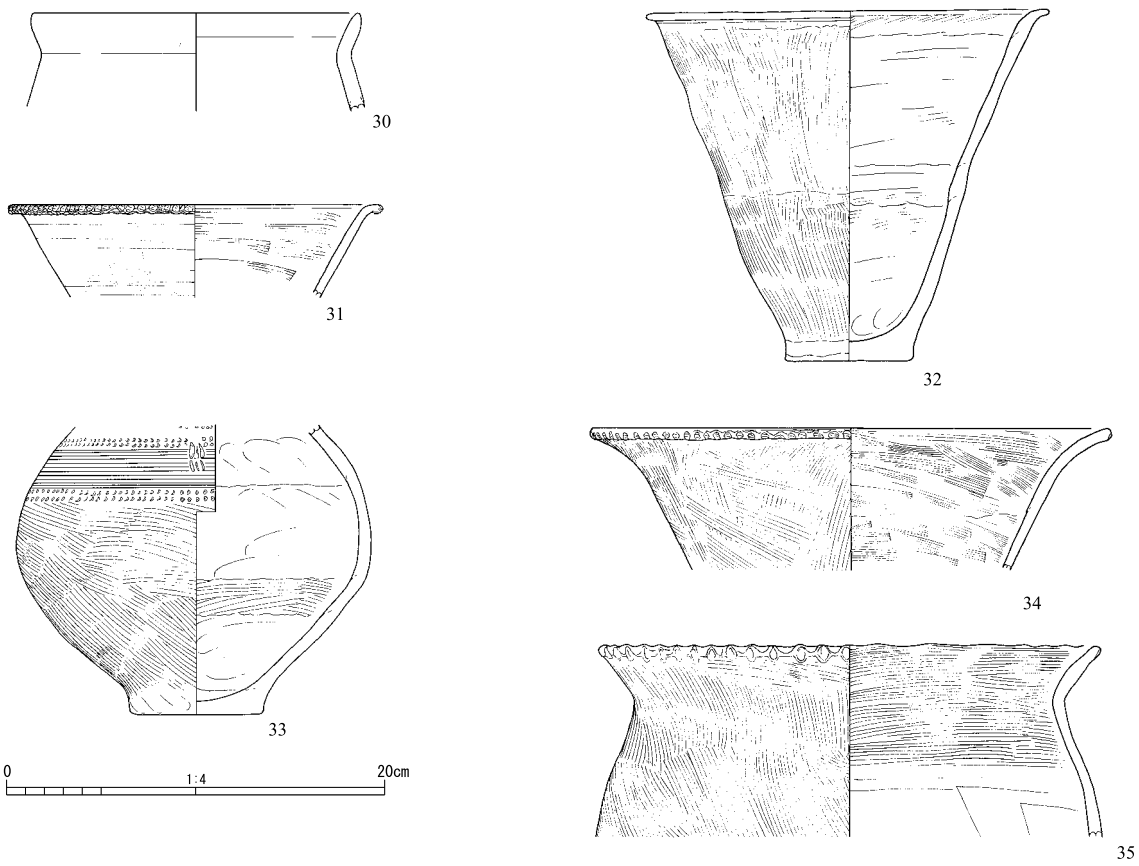
出土遺物　今回の調査における出土遺物を第17図と第18図に示した。１～32はA区からの出土遺物、33～34はB区からの出土遺物で、いずれも弥生土器である。

１と２はSB02の出土遺物である。１は比較的大型の壺の口縁部で、口縁端部を折り返して上面及び端面に刺突文が認められる。２は高坏の口縁部である。形状から菊川様式の影響を受けたものと考えられる。３～29はSB03の出土遺物である。３は小型壺の底部である。４～10は壺の口縁部である。４～６は内彎口縁壺である。４は外面肩部に羽状刺突文が、６は外面肩部に突帯と横線文が施されている。７は拡張口縁壺であり、口縁端部には交差した刺突文が施されている。8～10は折返口縁壺である。9と10の口縁上面には施文が認められる。11は壺の肩部で外面に羽状刺突文が認められる。13～20は壺の底部である。21～29は台付甕である。21と22の口縁端部には刺突文が認められないが、23～26の口縁端部には刺突文が認められる。30はSK01から出土した甕の口縁である。表面は摩滅が著しく調整痕が確認できない。31はSP14から、32はSP15から出土した甕である。口縁端部は外反した形状で、特徴から中期の遺物と考えられる。

33～35はいずれもB区のSD01から出土した遺物である。33は壺の体部で､外面はハケ調整され、肩部には刺突文と横線文が施されている。34は甕の口縁、35は台付甕の口縁である。34は口縁端部が外反した形状であり、中期に遡りうる可能性がある。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
1:4
20cm

第 17 図　出土遺物（1）



第 18 図　出土遺物（２）

（３）結　語

今回の調査の結果、いずれの調査区においても弥生時代後期を中心とする遺構と遺物を検出した。特にＡ区については、複数の竪穴建物や建物の柱穴と考えられる小穴が検出できた。竪穴建物の平面形は隅丸方形を呈し、床面には貼床が認められるものが存在する。過去の芝本遺跡及び隣接する東原遺跡の調査において検出した建物と共通した特徴を有する。

遺物については弥生時代後期の土器が主体であるが、中期に遡るものも少量認められた。出土した土器の形状や文様構成に着目すると、天竜川東岸の菊川様式の影響を受けたものが認められ、芝本遺跡の立地の特質を示したものと言える。

芝本遺跡では、これまでの発掘調査において広範囲で弥生時代後期を中心とする遺構と遺物を確認し、河岸段丘の端部に大規模な集落が形成されていたことが明らかになっている。今回の調査の結果、これまで面的な調査が及んでいなかった芝本遺跡のＣ地点一帯において竪穴建物を配した集落跡が確認できたことは成果と言える。（井口智博）

【参考文献】

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2007 『東原遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所第 173 集

浜北市教育委員会　1985 『浜北市芝本遺跡Ｂ地点』浜北市史資料 5

浜松市教育委員会　2016 『芝本遺跡』

財団法人浜松市文化振興財団　2011 『東原遺跡 34 次』

１　Ａ区全景（南西から）

２　Ａ区全景（北東から）

図版２

１　Ａ区 SB02・SB03 完掘状況（南西から）

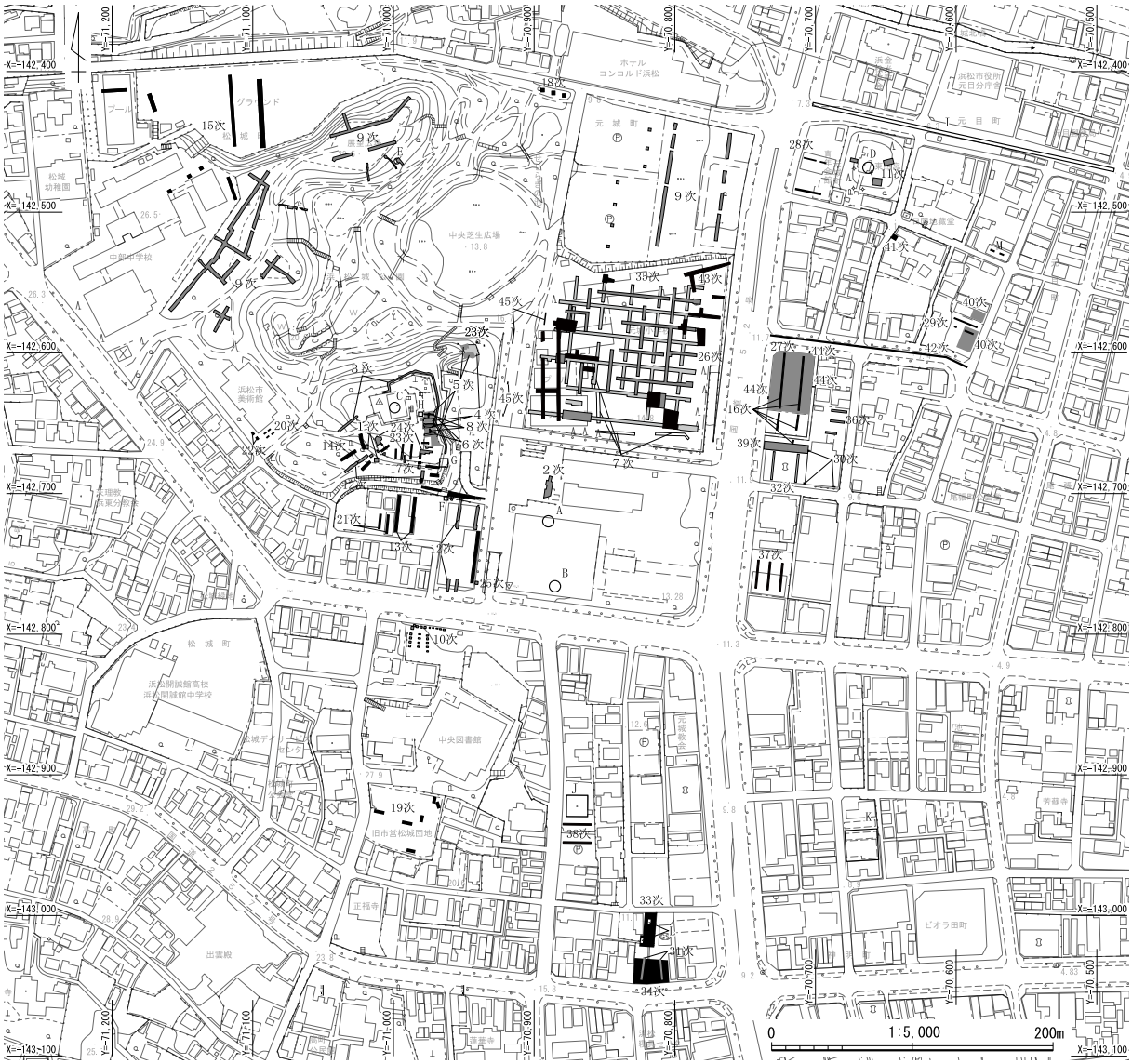
２　Ｂ区全景（北西から）

4　浜松城跡 41・42 次調査報告

（1）遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要　浜松城跡は浜松市中区元城町とその周辺に築かれた戦国時代から近世に至る間、地域拠点として機能した城郭である。城郭の規模が最大となった江戸時代には東西 600 m、東西 650 mの範囲に及んだ。浜松城の前身は、引間城と呼ばれ、築城時の城主は明らかではないが、斯波氏や吉良氏、今川氏の配下によって、15 世紀のうちには築城・改築されたとみられる。引間城は徳川家康による浜松城の築城に伴い、浜松城の一部に取り込まれた。近世浜松城において古城と呼ばれた地区を中心としていたとされ、浜松城に取り込まれている。

調査・報告経緯　41 次調査は駐車場造成、42 次調査は上水道管埋設及びガス管埋設に伴う工事立会い調査である。調査区や調査時期が近接し、引間城や近世浜松城における古城地区といった関連性の高い調査の成果でもあることから合わせて報告を行う。（2）41 次調査の詳細を井口智博（浜松市文化財課）が、その他を和田達也（浜松市文化財課）が分担して記載した。



第 19 図　浜松城の調査履歴と 41 次・42 次調査地点

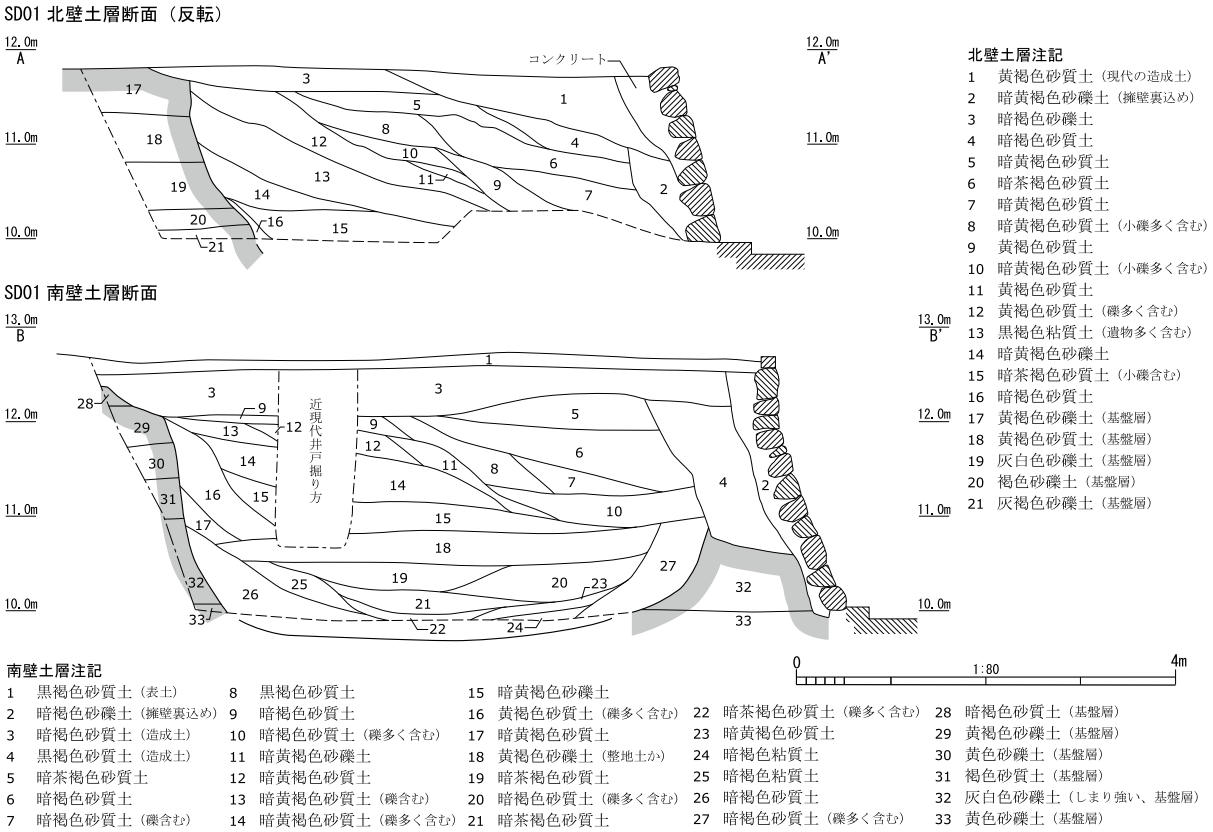
（２）41 次調査の詳細

調査の方法と経過　41 次調査は駐車場造成工事に伴う掘削工事に合わせ立会い調査を実施し、遺構や遺物の埋蔵状況を確認した。調査対象地は浜松城跡の北東側、元城町東照宮の南東に位置する。調査は工事の進捗に合わせ 2020 年 10 月 1 日～ 2 日と 10 月 15 日～ 16 日に実施した。

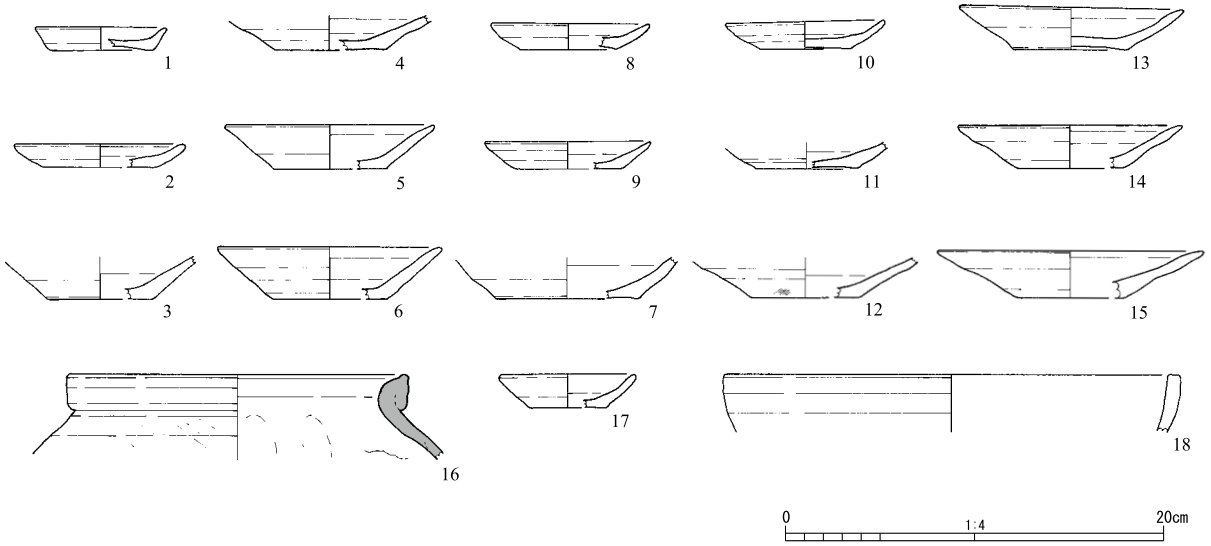
土層堆積状況　調査対象地は西側と北側を公道に挟まれた高まりとなっており、現状で道路面に対して 2.0 ～ 2.8 ｍの比高差がある。西側進入路部分の擁壁設置のため掘削した壁面について、南北それぞれの土層断面を観察した。南壁の上層は、黒褐色砂質土の表土の下は造成土である暗褐色砂質土の堆積であり、西側の道路側は擁壁設置による撹乱が顕著であった。北壁も同様の堆積状況であり、基盤層はいずれもしまりの強い黄褐色砂礫土や灰白色砂礫土の堆積であった。

検出遺構　掘削箇所を精査した結果、大型の溝である SD01 を検出した。SD01 は推定幅 6 ～ 7 ｍ前後の溝で、底面まで調査が及んでいないものの南壁部分で深さ 2.7 ｍ程度と推定される。土層堆積状況は暗褐色や暗黄褐色砂質土が底面に向かって交互に堆積している状況が確認できたが、南壁においては中層にほぼ水平に堆積した黄褐色砂礫土の堆積を確認した。この黄褐色砂礫土層は上下の堆積土と著しく特徴が異なっており、人為的に整地された可能性が考えられる。遺物は、陶器のほか、かわらけの出土量が多く、特に北壁の黒褐色粘質土中からの出土が顕著であった。

第 20 図　41 次調査区平面図



第 21 図　41 次調査土層断面図



第 22 図　41 次調査出土遺物

出土遺物　いずれもSD01からの出土品である。1～7はSD01の平面検出時に出土したかわらけで、いずれもロクロ成形である。8～16は調査区北壁のSD01断面中から出土したものであり、8～15はロクロ成形のかわらけ、16は常滑産の広口壺である。17と18は南壁のSD01断面中から出土したものであり、17はロクロ成形のかわらけ、18は内湾内耳鍋の口縁部である。かわらけはいずれもロクロ成形のもので、口径7～9㎝程度の小型品と11～14㎝の中型品が認められる。16の広口壺は常滑10型式期（15世紀後半）の特徴を示すが、かわらけは口縁部に向けて強く外傾し、口縁端部が薄く成形されるものが主体であり、16世紀中葉の特徴を示す。

（３）42 次調査の詳細

調査の方法と経過　42 次調査は、上水道埋設に伴う掘削工事時に工事立会い調査を実施し、遺構や遺物の埋蔵状況を確認した。工事立会い調査の期間は、令和３年１月 26 日から令和３年２月 12 日にかけてであり、工事の進捗に合わせて調査を実施した。また、近接箇所において実施したガス管埋設に伴う工事立会い調査の成果も合わせて 42 次調査の成果として報告する。ガス管埋設に伴う工事立会い調査は、令和３年３月 29 日に実施した。

土層堆積状況　基本層序は、大きく３つの特徴と時期に分けて認識することができる。上位層からⅠ層：アスファルト舗装、砕石、攪乱及び近現代の造成土層、Ⅱ層：中世から近世のものと捉えられる旧表土（暗褐色粘質土）、Ⅲ層：基盤層（黄色系・灰色系の粘質土や砂礫）である。遺構の検出は基盤層直上で実施したが、土層断面の観察により、旧表土よりも上面から掘削されたことが明らかな遺構（SP01、SD02）も認められた。

検出遺構　検出遺構は、堀跡とみられる大規模な遺構３箇所、土坑１基、小穴１基である。遺構は工事により掘削が及んだ堀跡の一部を除き、平面検出に留まっている。なお、遺構の時期を示す遺物は出土していない。検出した堀跡は、工事立会い調査対象地の西から順に SD01、SD02、SD03 とした。SD01 は古城の南西角に描かれた堀（古城南西堀）、SD02 は古城の南側中央部に描かれた堀（古城南堀）、SD03 は古城の東側に描かれた堀（浜松城東堀（40 次調査 SD01 の南側延長部）、浜松市教委 2022b）に相当すると考えられる。なお、土坑や小穴はいずれも工事立会い調査対象地の西側において検出した。

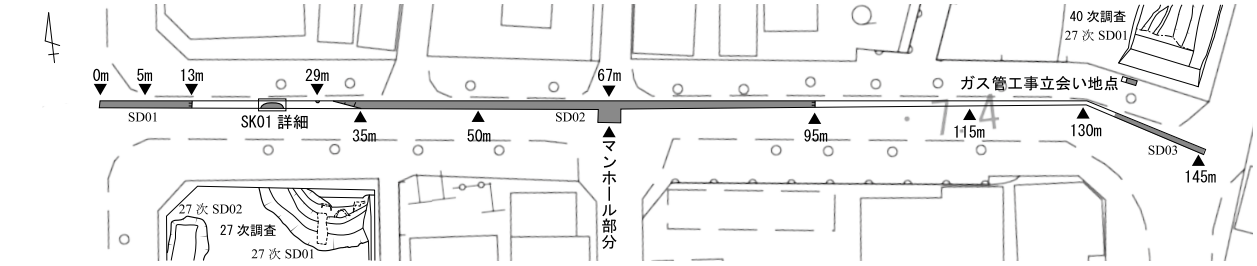
SD01 は、対象地西側において SD01 の東側肩部から西側へつづく部分を検出した。調査による検出面は基盤層（21 層：灰黄色粘質土）であり、基盤層直上まで近・現代の造成が及んでいたため SD01 形成時や廃絶時の地表面は明らかではない。SD01 の埋土は SD01 の中心部に近いと捉えられる部分が黒色有機質土（a）、肩部付近が褐灰色粘土（b）であった。肩部では、検出面から下に 0.4 ｍの地点まで工事による掘削が及んだが、それよりも下部は保存されている。SD01 は東肩部から西側の一部にかけて東西約 12 ｍの範囲で検出したが、SD01 の深さが明らかになる深さまで工事に伴う掘削が及ばず SD01 の深さは不明である。

SD02 は、対象地中央部において南側肩部の一部を検出した。いっぽう、東側の肩部は当該工事による掘削が遺構検出可能な深さまで及ばなかったため明確ではないが、堆積状況や調査対象地北側の地形から東側肩部の位置を推定することが可能である。SD02 西側肩部では基盤層直上に堆積した近世以前の旧表土（19 層：暗褐色粘質土）より上層から掘削して構築されたことを確認した。SD02 の埋土は暗褐色粘質土（d）、黒色有機質土（e）、灰黄色土（f）、暗褐色礫土（g）、灰色砂質土（h）である。東側肩部は、西側へ向け傾斜して堆積する SD02 埋土の灰色砂質土（h）や北側隣接地に認められる地形の段差から東肩がこの付近に存在すると想定することができる。SD02 は東西方向に全長約 65 ｍの規模の堀と捉えられる。

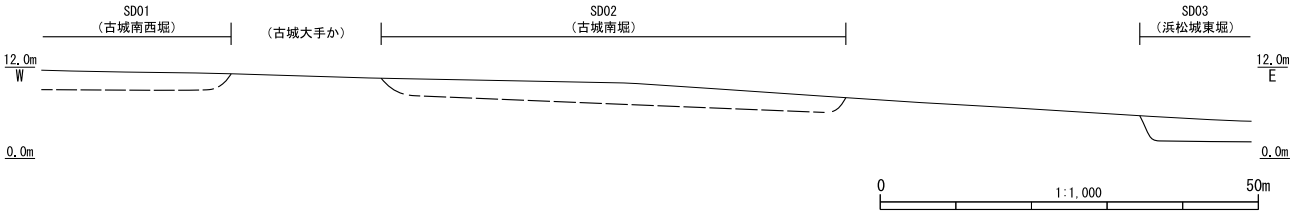
SD03 は、浜松城跡 40 次調査において検出した SD01（浜松城東堀）の南側延長部にあたる。SD03 は水道管埋設工事の立会い調査とガス管埋設部分における立会い調査によって堀埋土や西側肩部を検出した。なお、西側肩部はガス管埋設工事部分においてのみ検出し、水道管埋設工事部分では SD03 西側肩部付近における掘削が攪乱や整地土内に留まったため未検出である。SD03 の埋土は調査対象地東端では灰褐色粘質土（i）、西側肩部では褐灰色粘質土（j）を検出した。

SK01 は、SD01 と SD02 の間において検出した直径 1.9 ｍの土坑状の遺構である。南半は調査区外

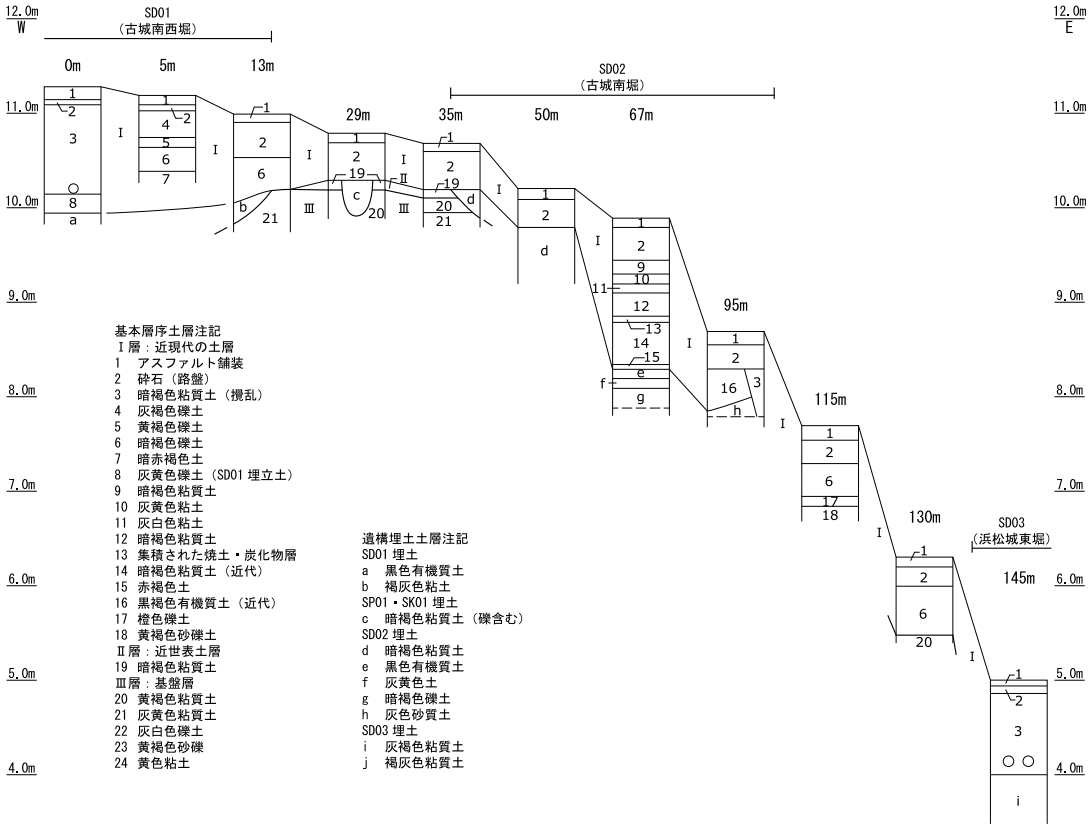
浜松城跡 42 次調査区平面図



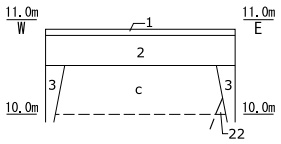
検出遺構（堀跡）断面模式図



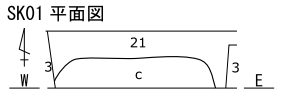
土層柱状図



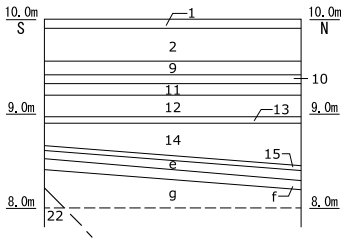
SK01 断面図



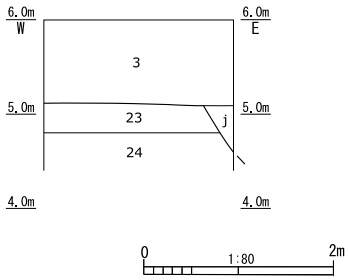
SK01 平面図



SD02（マンホール部分）



SD03（ガス管埋設部分）



第 23 図　42 次調査の成果

へと続いており全体形は不明である。検出面は基盤層直上（21 層：灰黄色粘質土）であり、埋土は礫を含む暗褐色粘質土（c）である。

SP01 は、SD01 と SD02 の間において検出した直径約 0.3 m、深さ約 0.4 mの小穴である。検出面は基盤層（20 層：黄褐色粘質土）であり、埋土は礫を含む暗褐色粘質土（c）である。土層断面の観察から、SP01 はⅡ層（19 層：暗褐色粘質土）から掘削されていることが明らかである。SK01 と埋土が共通しており、同時期に形成された遺構と捉えられる。

出土遺物　遺物は出土しなかった。近現代の土地利用に伴う掘削等が基盤層まで及んでいる部分が多くみられ、近世以前の旧表土や包含層が失われていることや、当該工事による掘削が、遺構に及ぶ地点が極めて限られていたためと捉えられる。

（4）結　語

引間城南東曲輪西堀（41 次 SD01）　41 次調査において古城南東曲輪西堀とみられる大型遺構を検出した。出土した土師質土器かわらけや常滑産広口壺の特徴が示す時期は 15 世紀後半から 16 世紀中頃まである。これまで絵図や地形から引間城の４つの曲輪を田の字形に区画した堀を道路として転用したことが指摘されてきたが、発掘調査により堀跡が検出された初めての事例である。引間城とその周辺も浜松城三の丸と同様に市街地化が顕著であるが、掘削が深い井戸や掘跡等の遺構については地中に残存していることを示す事例と捉えられる。これまで元城町東照宮境内を中心に大量のかわらけが出土することが知られていたが、41 次調査地までかわらけを大量に用いる空間が及んでいることが明らかになった。

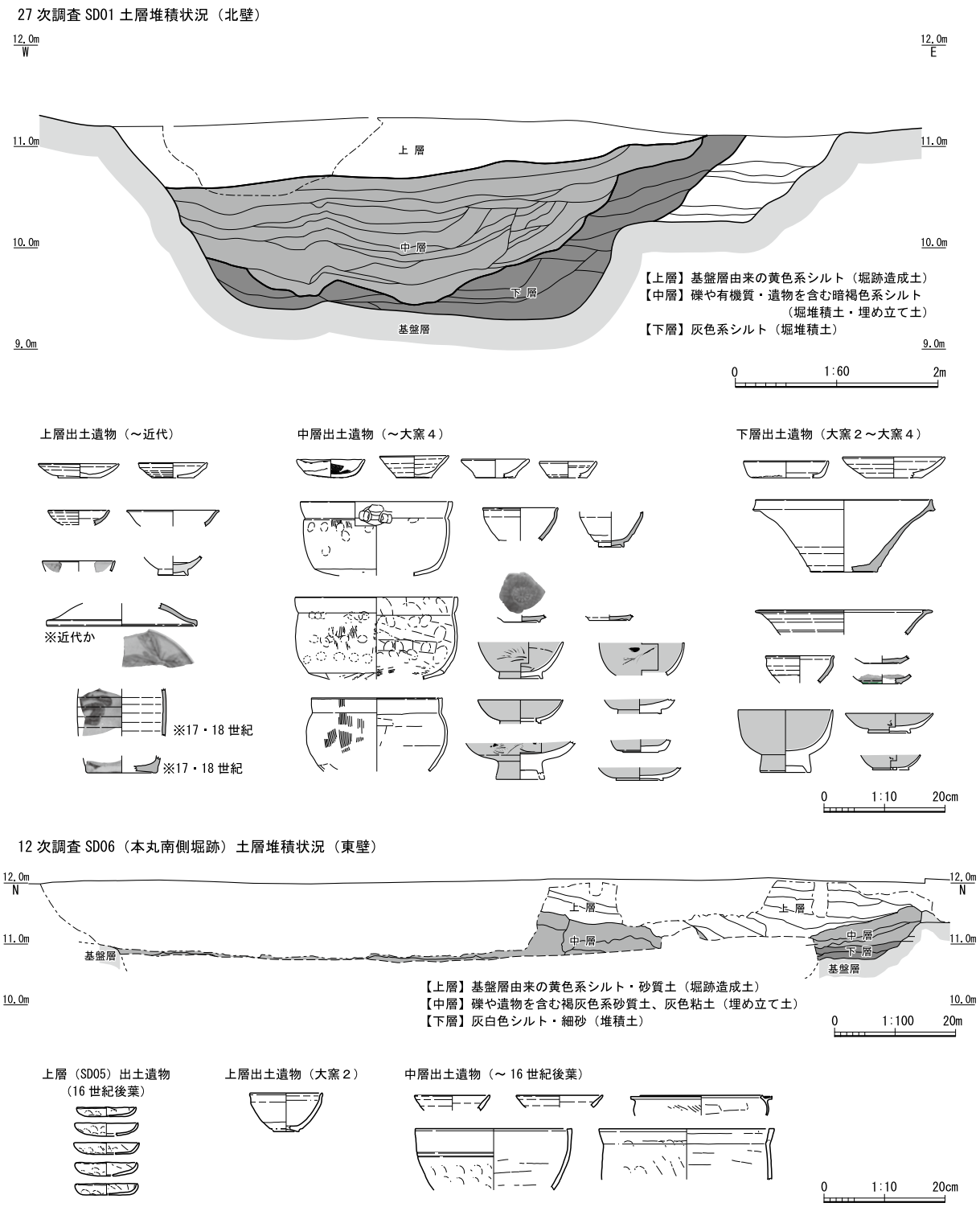
古城南西堀（42 次 SD01）　古城南西堀は、42 次調査対象地西端において検出した堀跡であり、今回の検出が初例である。検出部は東端と捉えられ、引間城の時代を含めた浜松城の構造を検討するうえで重要な調査成果といえる。

古城南堀（42 次 SD02）　古城南堀を 42 次調査対象地の中央において東西約 65 mにわたり検出した。なお、南西隣接地において実施した 27 次調査において調査区北東で検出した 27 次調査 SD01 が古城南堀と評価されているが、27 次調査 SD01 と 42 次調査 SD01 の位置関係から同一の遺構と捉えることは困難である。27 次 SD01 の調査成果について再検討を行い、42 次調査 SD02 が古城南堀である蓋然性が高いと判断した。

27 次 SD01 埋土は、下層（堆積土）、中層（礫や遺物を含む土砂）、上層（基盤層由来の土砂、造成土）に大別して認識されている。出土遺物についても下層、中層、上層に分けて取り上げられ、報告されている。下層と中層の出土遺物は大窯４段階までの遺物に限られ出土量は豊富である。いっぽう、上層出土遺物は戦国時代の遺物に加え、近世から近代にいたる遺物が少量出土している。

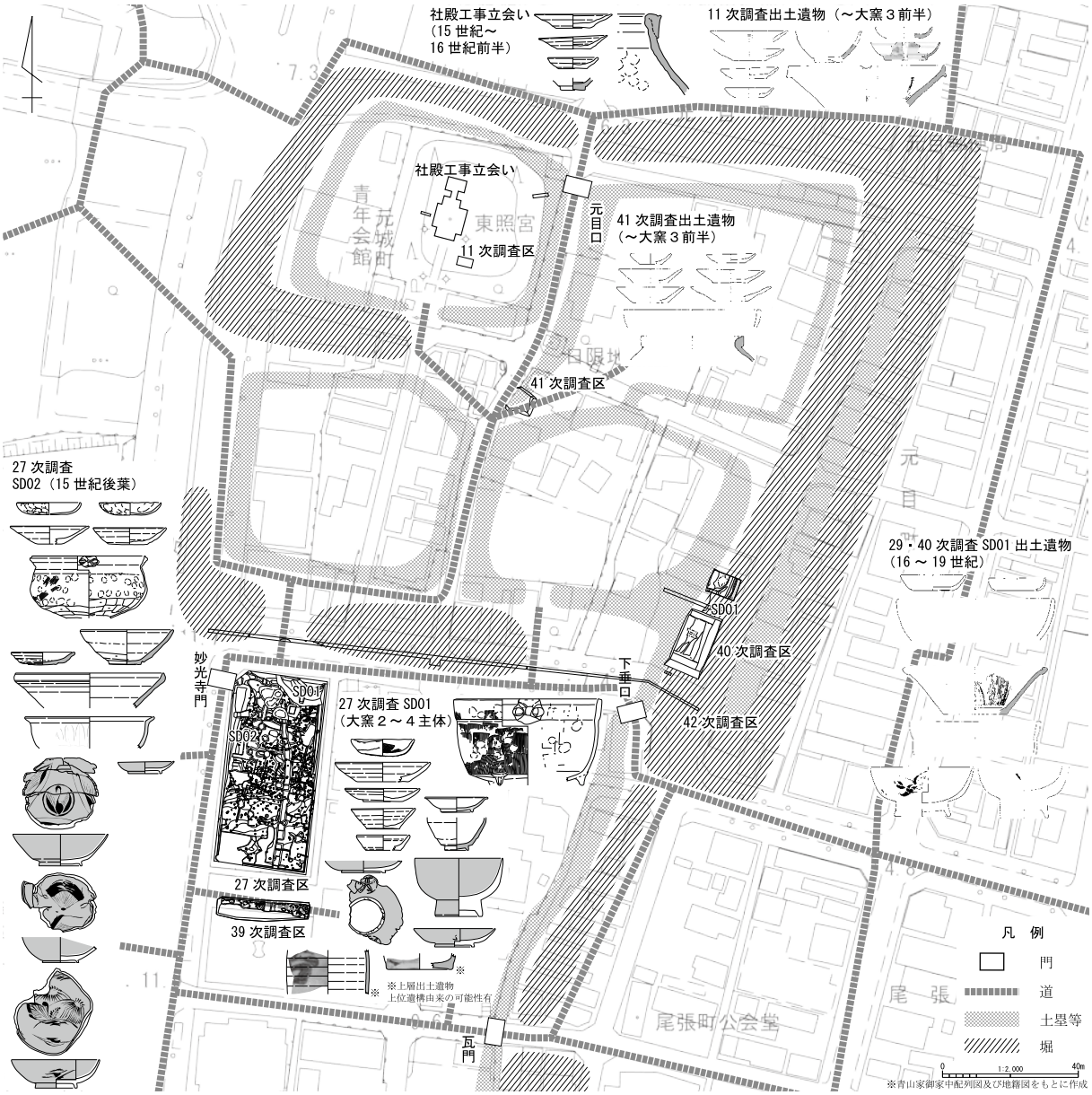
堀跡下層から堆積土、遺物を多く含む埋め戻し土、基盤層由来の造成土の順に大別して認識できる堀跡内の土層堆積状況は、12 次調査にて検出した 16 世紀後葉を中心とした時期に埋め戻しや造成が行われたことが明らかな本丸南側の堀跡（12 次調査 SD06・浜松市教委 2015）と土層の特徴が共通している点が特筆できる。27 次調査 SD01 の南側には近代にいたる遺構が高密度に分布しており、大窯４段階を中心とした時期に埋め立て、造成が行われ、近世以降の上位遺構に伴う遺物が 27 次調査 SD01 上層の遺物として混入したと捉えると合理的である。

以上のことから 27 次調査 SD01 は近世城絵図が作成される前に存在した堀跡と捉え、42 次調査 SD02 を古城南堀と判断した。27 次 SD01 は部分的な検出であるが、弧を描く形状であり、丸馬出しの可能性も想定でき、調査成果の蓄積を待って再検討する必要がある。



第 24 図　27 次調査 SD01 と 12 次調査 SD06 の特徴

浜松城東堀（42 次 SD03）　近世浜松城を描いた絵図において堀口 17 間と記載されており堀の幅は 30 m～ 34 m程度であったと捉えられる。42 次調査地点よりも南へと浜松城東堀が続くことが明らかとなった。また、これまでの発掘調査により検出した事例はないが、城絵図に描かれた東堀の中央には中土手が描かれている。40 次調査成果を参照すると古城東堀の深さは、検出面を基準とすると約２ｍと想定できる（浜松市教委 2022b）。



第 25 図　浜松城跡古城地区の調査成果

総　括　かつての浜松城は近代以降に市街化し景観が大きく変わったが、堀跡をはじめとした深い掘削を伴い構築された遺構は残存していることを追認するとともに、引間城の時代を含めた浜松城の構造とその変遷に関わる重層的な歴史情報が明らかになった点が大きな成果である。いっぽう、検出遺構を通じて浜松城の構造を検討するうえで参考になる史料が近世城絵図に限られる浜松城では、調査成果の蓄積に加え、さらなる調査精度の向上に向けた工夫と、常に新しい成果を踏まえて総合的かつ批判的に調査成果を検討する姿勢がより一層求められる。

【参考文献】

浜松市教育員会 2015『浜松城跡 10』

浜松市教育員会 2016『浜松における中世城館の調査』

浜松市教育員会 2022a『浜松城跡 15』

浜松市教育員会 2022b『浜松城跡 16』

報　告　書　抄　録

書名（ふりがな）	令和３年度　浜松市文化財年報 （れいわさんねんど　はままつしぶんかざいねんぽう）
編著者名	岡本佳枝（編集）、井口智博、和田達也、川西啓喜
編集発行機関	浜松市教育委員会（浜松市市民部文化財課が補助執行） 浜松市市民部文化財課 〒430-8652　浜松市中区元城町 103-2　TEL(053)457-2466
発行年月日	2023 年３月 24 日

遺跡名（ふりがな）	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中屋遺跡（なかやいせき）（15 次）	浜松市 浜北区 根堅	22136	6-3-36	34 度 84 分 03 秒	137 度 79 分 21 秒	2020 年４月６日～10 日	88 ㎡	個人住宅建設に伴う本発掘調査
中屋遺跡（なかやいせき）（16 次）	浜松市 浜北区 根堅	22136	6-3-36	34 度 83 分 96 秒	137 度 79 分 23 秒	2020 年 10 月８日	32 ㎡	個人住宅建設に伴う本発掘調査
中屋遺跡（なかやいせき）（17 次）	浜松市 浜北区 根堅	22136	6-3-36	34 度 41 分 28 秒	137 度 79 分 22 秒	2021 年７月５日	36 ㎡	個人住宅建設に伴う本発掘調査
中屋遺跡（なかやいせき）（19 次）	浜松市 浜北区 根堅	22136	6-3-36	34 度 84 分 00s 秒	137 度 79 分 22 秒	2021 年３月３日	16 ㎡	個人住宅建設に伴う本発掘調査
別所前遺跡（べっしょまえいせき）	浜松市 東区 市野町	22132	2-3-13	34 度 74 分 37 秒	137 度 76 分 88 秒	2021 年 11 月９日～10 日、 2022 年２月 21 日～25 日	60 ㎡	水道管埋設に伴う本発掘調査
芝本遺跡（しばもといせき）	浜松市 浜北区 於呂	22136	6-3-30	34 度 83 分 31 秒	137 度 80 分 27 秒	2021 年 12 月 20 日～23 日、 2022 年１月 17 日	153 ㎡	宅地造成に伴う本発掘調査
浜松城跡（はままつじょうあと）（41 次）	浜松市 中区 元城町	22131	1-4-14	34 度 71 分 28 秒	137 度 72 分 87 秒	2021 年 10 月１日～２日、 15 日～16 日	51 ㎡	駐車場整備に伴う立会い調査
浜松城跡（はままつじょうあと）（42 次）	浜松市区 元城町 元目町	22131	1-4-14	34 度 71 分 22 秒	137 度 72 分 78 秒	2021 年１月 26 日～ ２月 12 日	103 ㎡	水道・ガス管埋設に伴う立会い調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中屋遺跡（15 次）	散布地 寺院跡	中世	堀・溝・土坑	山茶碗、かわらけ、瓦、 中世陶器	
中屋遺跡（16 次）	散布地 寺院跡	中世	堀・溝・土坑	なし	
中屋遺跡（17 次）	散布地 寺院跡	中世	溝	なし	
中屋遺跡（19 次）	散布地 寺院跡	古墳時代	溝	須恵器、山茶碗、瓦、陶器	
別所前遺跡	散布地	弥生時代	土坑	弥生土器	
芝本遺跡	散布地 集落跡	弥生時代	竪穴建物・土坑・ 溝・小穴	弥生土器	
浜松城跡（41 次）	城館跡	中世・近世	堀跡	施釉陶器、かわらけ	
浜松城跡（42 次）	城館跡	中世・近世	堀跡	なし	

要約

中屋遺跡の発掘では、中世の方形区画溝の東辺を確認した。溝の埋土からは、同時期の山茶碗をはじめ、瓦が出土したことから、周辺に寺院関連の施設が想定される。

別所前遺跡の発掘調査では、弥生時代後期の遺構・遺物が出土した。遺構・遺物の密度は高くないが、当該地は集落内に位置すると考えられる。

芝本遺跡の発掘調査では、弥生時代後期の竪穴建物を中心とした遺構や遺物を確認した。当該地周辺では、これまでに面的な調査が行われていなかったが、今回の調査で集落が展開していたことが明らかとなった。

浜松城跡の発掘調査では、41 次調査において引間城の時代の堀もしくは切岸を検出した。また、42 次調査では、江戸時代の絵図で古城と記載された区画の南西側の堀、南側の堀、浜松城東堀を検出した。浜松城の構造と変遷を明らかにする上で重要な成果を得た。

令和３年度 浜松市文化財年報

2023 年３月 24 日

発行　浜松市教育委員会

（浜松市市民部文化財課が補助執行）

印刷　株式会社川島商会